

報告書

多摩の学生まちづくりコンペティション2016

選考会

日時 2016年9月17日 (土)
会場 明星大学 日野キャンパス

本選

日時 2016年12月18日 (日)
会場 立川市・柴崎学習館

はじめに

多摩地域には持ち前の豊かな自然環境、芸術・文化に加え、多数の高等教育機関、研究開発企業が集積し、ハード・ソフト両面で多様な資源を有しています。しかし、近年では都心回帰の動向もあり、多摩地域全体を見据えた魅力づくりを検討すべき段階にきています。

中心市街地の商店街の衰退、生活圏の広域化、高齢社会の進展——全国各地域が直面している地域の課題が多摩地域においても顕在化してきています。それは、この地域が首都圏の中で“課題最先端地域”であることを意味しています。

「多摩の学生まちづくりコンペティション」では、若者の視点や感性を活かした、今ある多摩地域の魅力を発信できる企画や、今までにない多摩地域の新たな価値を創造して、多摩地域が抱える課題を克服することで、未来に活力を与えることができる「実践的」試みや提案を募集してきました。

学生にとっては、フィールドワークを実践し、実学としてまちづくりを考えるとともに、行政や事業者の前で自らの研究成果を広く発表する機会になっています。

住みやすく、活力あふれる多摩の姿を実践的に描いたプランが数々発表されたことに日ごろの学生の活動、指導されている教員の皆様のご活躍の賜物です。このコンペティションを末永く育てていただくと同時に貴重な学生の発表の場になったことを喜ばしく思います。

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩

目次

はじめに.....	2
第1章 実施要領	5
第2章 選考会	9
【第1審査会場】選考会出場団体/審査委員.....	10
【第2審査会場】選考会出場団体/審査委員.....	19
【第3審査会場】選考会出場団体/審査委員.....	27
選考会講評・総評.....	35
第3章 本選	37
出場団体/審査委員.....	38
開会挨拶/会場市の挨拶/審査委員長挨拶.....	39
本選の様子.....	42
第4章 本選・プレゼンテーション概要	43
最優秀賞	
創価大学 勘坂ゼミ チームKZK ムスリムウェルカムタウン 八王子.....	44
優秀賞	
創価大学西浦ゼミ 衣料班 環境にやさしいまちづくり.....	64
東京経済大学山本ゼミナール MIZU×TAMA班 瑞で繋がる多摩のまちづくり.....	82
奨励賞	
創価大学勘坂ゼミ チームコネクト 学生をもっと主体的に！.....	98
実践女子大学 須賀ゼミナール ローカルメディアの可能性の探求.....	120
帝京大学湯川ゼミナール1班 小学生も大学生も学ぶ「たまっ子塾」開講！！.....	134

第1章

実施要領

多摩の学生まちづくりコンペティション2016

実施要領

1. 参加者スケジュール

日程	項目	主な内容	場所
5/21 (土)	説明会	趣旨、募集内容	たましん事業センター (立川)
7/25 (月)	応募締切	書類審査	
7/29 (金)	書類審査 結果発表		
9/17 (土)	選考会	発表10分 質疑応答5分	明星大学
9/23 (金)	選考会 結果発表		
12/18 (日)	本選	発表15分 質疑応答5分	柴崎学習館 (立川)
2017/1/13(金)	本戦出場団体 報告書原稿提出期限		

2. 応募条件

- ・大学・短大、高等専門学校、専門学校、大学院に在籍するグループ（個人も可）であること。
- ・行政、商店街、企業、NPO法人等との連携を前提とした企画であること。
- ・多摩地域でフィールドワークを実践した調査活動を実施すること。
- ・大学等教員の指導を受けること。

3. 注意事項

- ・1チームの持ち時間は10分（タイムオーバー2点減点）、質疑応答5分。
- ・使用するデータを、**9月9日（金）**までに事務局（office@nw-tama.jp）に提出。期日厳守。
- ・発表データは当日、予備のUSBメモリーに保存の上、持参すること。
- ・プレゼンテーションで使用するファイルの形式は、Microsoft PowerPointを使用すること。
- ・発表では事務局が用意するPC（Windows 7）を使用します。
- ・提出後のデータの差し替えは、原則不可とする。
- ・データ提出の遅れや、ファイルの破損等による損害については、一切の責任を負わないものとする。
- ・コンペティションの実施報告書作成に伴い、入賞団体には原稿となる報告書の提出を別途依頼する。
- ・提出期限は平成29年1月13日（金）期日厳守。

4. 審査

選考会

- (ア) 審査は、一般公開により実施する。
- (イ) 発表の順番は、申し込み順とする。
- (ウ) 選考会の審査は、主催者から委嘱を受けた行政・民間企業の実務者及び大学教員が行う。
- (エ) 審査委員はプレゼンテーションの結果を審査し、本選出場者を決定する。

本選

- (ア) 審査は、一般公開により実施する。
- (イ) 発表の順番は、申し込み順とする。

5. 審査の主なポイント

選考会

- ①オリジナリティ（10点）
- ②現状分析（10点）
- ③論理的な企画力（10点）
- ④効果の見通し（20点）計50点

本選

- ①オリジナリティ（10点）
- ②現状分析（10点）
- ③論理的な企画力（10点）
- ④効果の見通し（10点）
- ⑤プレゼン力（10点）計50点

6. 表彰

出場団体の中から最優秀賞（1団体）、優秀賞（2団体）奨励賞（3団体）を決定する。

第2章

選考会

多摩の学生まちづくりコンペティション2016

日時 2016年9月17日(土)

会場 明星大学 日野キャンパス

第1審査会場 出場団体

キーワード：

◆キーワード 学生 ◆対象地域 八王子市

No.1	創価大学 経済学部経済学科 勘坂ゼミ チームコネクト
	学生をもっと主体的に！

◆キーワード 高齢者・世代間交流・押し花・地域活性化 ◆対象地域 八王子市

No.2	創価大学 法学部 TEAMまちづくり
	Senior's be ambitious!!

◆キーワード 防災 ◆対象地域 八王子市

No.3	帝京大学 福島ゼミナール
	タマップから始まるまちづくり！ ～地域から発信できる防災マップ～

◆キーワード 衣類リサイクル ◆対象地域 立川市

No.4	創価大学 経済学部経済学科 西浦ゼミ 衣料班
	環境にやさしいまちづくり

◆キーワード ◆対象地域 立川市・三多摩地区

No.5	中央大学 谷口ゼミナール
	立川を中心とした多摩地区ネットワーク

◆キーワード ゲーム・長池公園・ホラー ◆対象地域 八王子市

No.6	多摩大学 彩藤ゼミ チームC「多摩ゲーム」
	多摩を舞台にゲームしちゃうぜ

◆キーワード 産学官連携・スポーツマネジメント・地域活性・スタジアム ◆対象地域 多摩地区

No.7	帝京大学 経済学部 大山ゼミ
	日本初、大学とJリーグが協業する地域活性化型「帝京大学スタジアム建設構想」

◆キーワード ハラル ◆対象地域 八王子市

No.8	創価大学 経済学部 チームKZK
	ムスリムウェルカムタウン八王子

審査委員

立川市	総合政策部企画政策課 課長	小宮山克仁氏
八王子市	市民活動推進部学園都市文化課 課長	山野井寛之氏
多摩信用金庫	価値創造事業部 部長	長島 剛氏
京西テクノス（株）	管理本部管理課 グループ長	高橋章浩氏
東日本旅客鉄道（株）	八王子支社 企画部長	美藤文秀氏
明星大学	総合理工学部 教授	西浦定継氏

学生をもっと主体的に！

地域を元気づけるのは学生(君たち) だ！

そのねらい 学生の主体性の促進と地域の活性化

◆メンバー 経済学部経済学科 4年成澤千帆、3年大塚幸美、3年古川安寿花、3年天野紗友莉 ◆担当教員 勤坂純市
◆活動のきっかけ 学生の主体性について問題意識をおいたから

まちづくりの目的・概要

多摩地域の一角である八王子市は、21校の大学が存在し、10万人以上もの学生が学ぶ全国有数の学園都市である。しかし、大学生は学生時代に重要であると思っていることとその行動が結びついておらず、主体性が欠けているという現状がある。私たちは、八王子市の地域活性のためには、より主体的に学生が行動することが重要であると考え、地域の活性化を通して、学生の夢を追いかけるサポートをする施策を提案する。

効果の見通し

私たちは、八王子の空き家を利用したビジネスプランを提案することを考えている。この施策では、空き家を大学生が自己実現のための行動を起こすための情報収集・共有の場として活用する。空き家を放置すると治安の悪化や景観の阻害などの問題につながるため、空き家の有効的な活用法について検討することは地域にとっても重要である。この施策により、使われていない空き家の今までにない有効活用と学生の主体性育成の二つの側面からの地域活性化の効果が期待できる。

継続性の見通し

私たちの施策では、空き家を活用した交流の場に大学生を集め、企業、ボランティア団体などの学生を求めている人々とのつながりによって情報交換を促進する。企画内容は毎回の大学生のニーズに合わせて行うことで、常にアップデートされた情報が行きかう。これにより、単発で終わらない学生のアクティビティによって継続的に空き家を活用されることになり、地域社会にとってもメリットが大きいと考える。

先行研究・連携団体

今後、学生との交流を求めている企業、ボランティア団体などの協力を仰ぐことを検討している。また、私たちの施策において活用することができる空き家についても調査を進めていきたい。

まちづくりのアピールポイント

“学園都市・八王子市の最大の特徴の一つである<学生>を応援すること”と“使われていない<空き家>の有効活用”という2つのポイントをつなぎ合わせたコラボレーション施策により、八王子市の活性化を目指していく。

Senior's be ambitious!!

押し花からつながる「あなた」と「わたし」

そのねらい 高齢者の方々の趣味のひとつや生きがい、社会参加のきっかけづくり。世代間交流による地域活性化。

◆メンバー 法学部法律学科3年 池松啓太郎、犬飼紗綾、木村翔、四方華絵、中山誠也

◆担当教員 中山賢司

◆活動のきっかけ 大学のゼミの先輩方がまちづくりの取り組みを行っていて、その活動のサポートなどを行っていく中で、私たちなりのまちづくりを行いたいと思ったのがきっかけです。

まちづくりの目的・概要

八王子地域でのフィールドワークを通じて、内向き傾向で社会参加が難しい高齢者が多くいることが分かりました。その原因は「心のバリア」が存在するからだと考えました。そこで、高齢者の方々の「心のバリア」を無くしていくために学生たちで居場所づくりを行いたいと思いました。具体的には、高齢者と学生が関わりを持てる機会のひとつとして、誰にでも簡単につくることのできる「押し花」教室を開催します。そして、作成した雑貨の販売を行い、自分で作成した押し花が様々な人の手に渡ることによって社会参加へのきっかけになるのではないかと考えます。

効果の見通し

押し花雑貨等の販売を行い、発生した利益を高齢者の方々へフィードバックするための交流サロンを開催します。押し花教室・交流サロンの開催を通して、高齢者が達成感や社会参加を実感することによって、先ほど述べた高齢者の「心のバリア」克服のきっかけになるのではないかと考えました。そして、普段、関わりが少ない世代と交流を行うことで、高齢者の方々にも大学生にも新たな刺激となり、地域の活性化やコミュニティの深化・拡大につながるものと考えています。

継続性を見通し

ゼミで学年を越えて取り組みをおこなうことで、卒業をしても後輩によって継続させることが可能であると考えます。そして、多摩地域の他大学の学生とも連携をとり、プロジェクトの拡大を図ることを検討しております。押し花教室の開催も箇所を増やしていき、押し花教室も拡大していきます。また、地域の生花店と提携し押し花に使用する花を購入することで、押し花教室で作成した押し花雑貨を生花店に置いてもらうことや、雑貨店などで常時雑貨を置いてもらえるようにします。これらの取り組みにより、事業の継続性を図ってまいります。

先行研究・連携団体

高齢者の方々へのヒアリングを行った高齢者住宅「さくらの郷」様とは、今後、「押し花」教室開催に関して連携していく予定です。また、一般社団法人まちづく八王子様とは、八王子地域で行われるイベントでの押し花雑貨の販売のマネジメント提携を行っていきたいと考えております。参考文献としては、勇美記念財団研究結果「押し花・花に関する資料」、内閣府「高齢者の交流意欲に関する資料」、菅谷泰行「老人福祉施設における世代間交流に関する実態調査報告」、朝倉和子・山岡義卓・西口守「自立支援特化型高齢者デイサービスにおけるレクリエーションプログラムの再考-大学生との世代間交流の効果に着目して」『東京家政学院大学紀要』第54号、2014年。

まちづくりのアピールポイント

本プロジェクトは、大学コンソーシアム八王子の「平成28年度学生企画補助金」に採択されました。同補助金を活用しながら、事業をスムーズに立ち上げてまいります。現在、日本では高齢化が問題となっており、八王子も超高齢社会都市のひとつです。地域で高齢者とうまく関わっていくかが課題となっている今、学生の多い「学園都市・八王子」ならではの取り組みになるのではないかと考えます。地域の高齢者が日々の暮らしの中で、少しでも楽しみや生きがいを持てるような地域づくりをしてまいります。

タマップから始まるまちづくり！

～地域から発信できる防災マップ～

そのねらい web 防災マップを活用し、地域住民が自ら防災情報を発信するまちをつかっていきたい。

◆メンバー 教育学部教育文化学科4年 西岡謙、滝田亨 ◆担当教員 福島健介
◆活動のきっかけ 学生の発案と先生の助言

まちづくりの目的・概要

八王子市では「八王子市地域防災計画」によって、具体的な減災目標を設定し、それに基づき市全体の防災力向上に力を入れている。中でも市内に約400も存在する自主防災組織は、市民が中心となり、防災訓練などの様々な活動を通して自主防災の意識を高めている。しかし、その自主防災組織では、活動のマンネリ化や地区によって住民たちの意識が低いなどの課題がある。そこで住民一人ひとりに焦点を当てたい。「eコミマップ」を用いることで、タイムリーな情報や地域固有の情報を市民自らが発信する。それによって八王子市民の防災への意識をより身近なものにし、八王子市を震災に強い、より安全なまちへとつくりあげていく。

効果の見通し

「eコミマップ」は、地域固有の事情や特性を盛り込んだオリジナルのweb 防災マップとして作成することで、地域防災力及び災害対応力を高める効果があると考えている。その効果を検証するために今年度はエリアを絞り、その効果が実証することができれば、来年度以降も拡大したいと考えている。また、その輪を学校組織から広げることで児童生徒・保護者・PTAなどを巻き込んだ地域コミュニティの輪も広まり、より高い自主防災意識の向上を見込んでいる。そうしていくことで、地域住民の皆さん一人ひとりが主体となるまちづくりを目指していけるのではと考える。

継続性を見通し

今回は学校現場から「eコミマップ」を始め、相互に情報発信と更新を繰り返していく。そうして活用していく中で、再び問題点を見つけ更新していきたい。このサイクルを繰り返すことで、マップ内の情報をより正確で精度の高いものへと持っていくことができると考えている。その結果、今研究において、地域住民参加型でのeコミマップづくり及び、地域防災力・災害対応力を高めるためのツールとして効果があると実証することができれば、その他のエリアにも順次拡大していけると考えている。そして防災マップだけでなく、防犯マップや歴史・観光マップなどへの転用も可能であることを活かし、eコミマップの多様な展開を期待している。

先行研究・連携団体

【先行研究】 田口・李・白田・長坂『効果的な災害対策を支援する地理情報システムの一提案：東北地方太平洋沖地震の被災地情報支援を事例として』（日本地震工業論文集 第15巻、第1号、2015）。【連携団体】 ①八王子市内の小学校 ②有限会社グリッドワークスコンサルティング ③サイバーシルクロード八王子

まちづくりのアピールポイント

eコミマップを展開していく軸として学校現場からの広がりを考えている。小学校における防災教育では、地域学習として子どもたちが住む学区の安全マップを作成している。しかし、その成果を発表する機会が十分にあるとは言い難い状況である。そこでこのeコミマップを通じて、ICTを用いた学校間の交流および協働の学びを実現。そして地域（保護者や地域住民）との連携を促進し、防災への意識を高めていけるツールとして活用していけるのではないかと考えている。

環境にやさしいまちづくり

衣類のリサイクルを推進する取り組み

そのねらい 衣類のリサイクルを推進することで衣類を大切にし、環境にやさしいまちをつくる。

- ◆メンバー 経済学部経済学科4年 大久保萌、三輪英夫、糸数優花、川上伸作、河野秀幸、香川由香、3年 岡田瀬合那
- ◆担当教員 西浦昭雄
- ◆活動のきっかけ 学生による発案

まちづくりの目的・概要

日本において、衣類のリサイクル率は、アルミ缶や紙のそれに比べ非常に低い。その数値は、他国における衣類のリサイクル率と比較しても低く、日本は「衣類のリサイクル後進国」とあると言える。そこで、私達は多摩地域においてファッション性が高く買い物客が訪れやすい立川市で、衣類のリサイクル活動を行う。具体的には、衣類の回収ボックスを設置し衣類を回収し、①衣類のリサイクル品を立川駅などに展示、②衣類を用いた広告作り、③服育、④フリーマーケットで衣類のリサイクル品の販売、⑤固形燃料にリサイクル、等を検討している。

効果の見通し

地域に与えるであろう効果としては3点挙げられる。1点目に、立川市のイメージアップである。この取り組みを通し、立川市が衣類を大切に環境にやさしいまちである事をアピールできる。2点目に、衣類の焼却量が減る。従来であれば焼却処分されるはずであった衣類が、衣類の回収ボックスを通じて回収・リサイクルされるため、焼却量が減る。これは二酸化炭素排出量削減にも繋がる。3点目に、市民の意識が変わる。衣類のリサイクル推進の活動を行うことで、市民の間で衣類のリサイクルに対する意識が向上すると考えられる。

継続性の見通し

今後まちづくりの活動として継続可能である。まずは立川市等にてモデルケースとして施策を実行する。その後、多摩地域にある大学の学生や地域の団体と連携し、他の市町村へと展開する。特に学生との連携に関しては、私達の取り組みを学生団体化し多くの学生を巻き込みながら、活動範囲を拡大する。

先行研究・連携団体

ヒアリング先：環境省、日本化学繊維協会、ワコール、東京都全市区町村役所、リサイクル回収業者、青森県弘前市役所、岩手県一戸町役場、ほか参考文献：立川市役所（2006年）「平成17年度まちづくり政策協働研究事業 政策研究基礎調査 報告書」、製造産業局繊維課（2011年）「繊維製品3Rシステム検討会報告書」、株式会社キムラセンイ（2013年）「衣類のリサイクル率」、環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 企画課 循環型社会推進室（2016年）「『3R行動見える化ツール』に係る 3R行動原単位の算出方法 <別冊>」ほか

まちづくりのアピールポイント

衣類のリサイクルは日本全体で進んでおらず、法律さえ整っていない上にそれに関するデータ量も限られている。このことは、いかに日本が衣類のリサイクル後進国であるかを象徴している。政府が目を見かねた衣類の問題に対し、衣類の関心が高い学生が主体的に取り組む事に意義があると考えられる。多摩地域においてファッション性が高く買い物客が多い立川市から、先駆を切って衣類のリサイクルを推進し、環境にやさしいまち、日本をつくっていく。

立川を中心とした多摩地区ネットワーク

立川サンフランシスコ構想

そのねらい 立川を中心に周辺地域と連携し多摩地区全体の活性化を目指す

◆メンバー 経済学部3年 有馬、望月、三木、田中 ◆担当教員 谷口洋志
◆活動のきっかけ 立川、多摩をゼミ活動で研究していたため

まちづくりの目的・概要

立川を中心に多摩地域全体を盛り上げていくこと。その際に、立川の立地条件や周辺地域との人口規模等がサンフランシスコと類似する点があるため、サンフランシスコを発展のお手本としたまちづくりを行うことを目指す。

効果の見通し

継続性の見通し

先行研究・連携団体

まちづくりのアピールポイント

私たちのアピールポイントは、一見立川はサンフランシスコとは何の関わりがないように見えるが、実は類似点がたくさんあり、立川もサンフランシスコのように発展する力を持っているが、その力をどう生かしていくかが最大のアピールポイントだと考えております。

多摩を舞台にゲームしちゃうぜ

そのねらい 多摩を舞台にしたゲームを作成し、多くの人に遊んでもらうことにより、多摩の舞台に興味をもってもらおう。ただし、今回はホラーゲームを予定している。

◆メンバー 経営情報学部経営情報学科2年 朝倉大貴、戸谷優介、根本龍之介、福田守、美野佑弥、村山竜晟 ◆担当教員 彩藤ひろみ

◆活動のきっかけ 彩藤ゼミ春学期プロジェクト

まちづくりの目的・概要

多摩に伝わる伝説などを丹念に拾うとりっぱなゲームコンテンツになりうる。多摩ニュータウンと一口に言っても、その地域は広く、たいていの人は自分たちの居住空間以外に関心を持つことは少ない。そこで、ゲームの舞台に据えることで、その地域に関心をもってもらおうというのが目的である。

効果の見通し

今回は長池公園に伝わる悲劇の伝説を元に、自作のホラーゲームを作成し、その舞台になった場所に関心をもってもらおう。

継続性の見通し

長池公園地域を取り上げるが、同じ手法は他の地域でも応用可能である。彩藤ゼミは、3DCGメインのゼミなので、自作ゲームをつくることができる人材はこれからも確保可能であり、継続性はあると考える。特にVR作品にまで昇華できれば、今後の流行の先端をいくことができる。

先行研究・連携団体

参考にしてるのは、多摩ニュータウンのこれまでのパンフレットや、実際の場所を写真撮影してきた資料である。多摩ニュータウン学会などで発表できるよう準備したい。

まちづくりのアピールポイント

3D利用の自作ゲームとしてわかりやすいコンテンツを作れるかどうかポイントであるが、ひとまずお披露目場所ができるというのが張り合いになる。VR作品にまで仕上げたい。

日本初、大学とJリーグが協業する 地域活性化型「帝京大学スタジアム建設構想」 産官学連携の新しい大学スタジアム創造にむけて

そのねらい スポーツが生み出す価値の拡大を帝京大学が創造し、スポーツを通じた地域活性化の好循環を「帝京大学スタジアム」によって多摩地域の産業発展に貢献することを目的にする

◆メンバー 経済学部3年 石黒誠、石田悠馬、市川果歩、江川和輝、齋藤碧、酒井紀美香、城地駿哉、武田直也、田代恭次、田辺雄太郎、田村瑚子、千頭和健太、中尾由理、長橋郁也、成田晃貴、新國駿斗、藤原悠、三井田興大、森夏美、矢部稔真

◆担当教員 大山高 ◆活動のきっかけ 学生の発案

まちづくりの目的・概要

東京五輪開催が決定してから政府は「スポーツ産業の市場創出15兆円」を掲げ、その具体的な政策案とされているのが「競技場・施設の多機能化」と言われている。国内における競技場環境は国体標準から抜本的に改革が要求され「収益最大化モデル」を検討している。その中でも大学スポーツにおけるコンテンツの魅力を最大化することが求められており、米国のような大学が所有する地域に開放された競技場は日本には存在しない。そこで、スポーツ庁が提言する中心市街地の活性化やスポーツを核としたまちづくりを担う「新スタジアム構想」を帝京大学がJリーグクラブと協業する「地域活性化型スマートスタジアム（フットボール専用）」の実現（建設）を目指す。

効果の見通し

多摩地区の住民スポーツ参加率を向上させることを目標として、帝京大学スタジアムが地域活性化の軸となる事業を展開する仕組みを構築させる。具体的な施策としては、単に大学のホームゲーム会場という位置づけではなく、同じ多摩地区をホームタウンとする東京ヴェルディの公式戦ホームとしても連動する。同クラブとの連携強化は互いの地域スポーツ振興活動を活性化する付加価値を創造し、スタジアムでは日常的に地域住民が集うための健康促進事業や大学生によるスクール事業も地域に提供できる。また、2019年W杯ラグビー日本大会や2020年東京五輪開催時の外国チームのキャンプ練習場として誘致する。

継続性を見通し

大山ゼミでは「大学スポーツを通じてブランドロイヤリティ（愛校心）は形成できるのか」という研究テーマを設定し、帝京大学内で「大学生意識調査」を毎年約1,000人に実施している。若年層獲得を命題とするプロスポーツ団体や大学スポーツが多い中、基礎ターゲットとなる「無関心層へのアプローチ方法」を各競技団体へ報告しているため、学生と学内外連携団体との関係は良好なものとなっている。2016年より「帝京大学のスポーツを通じた地域活性化」を軸にJリーグなどのプロクラブが推進する産学連携パートナーシップ事業についても研究発表を行い、大学スポーツ発展の仕組みを提案する活動を進めている。

先行研究・連携団体

・帝京大学内のスポーツ推進担当および大学強化クラブ（ラグビー部など） → 大学広報部やラグビー部監督スタッフに対して定期的に調査報告と検討会議を行っている
・東京ヴェルディ1969フットボールクラブ株式会社 → 帝京大学が同クラブのオフィシャルスポンサーである関係から、大山ゼミでは共同イベントや調査報告を実施している
・各地方自治体（八王子市、多摩市、日野市、立川市、稲城市）のスポーツ振興担当者様、その他 → 帝京大学近辺の自治体スポーツ振興担当者へ今後インタビュー調査を実施する予定 → スポーツ庁が開催する「大学スポーツ振興に関する検討会議@文科省」に大山ゼミ生たちが聴講者として参加している。

まちづくりのアピールポイント

帝京大学のスポーツが学内外でどのような影響を及ぼすのか、ラグビー部を含めた強化クラブの活躍により帝京大学ファンがどのように増えていくのかを学生主体で研究活動を行っている。研究の基本的な結果としては「無関心層の継続的な分析、マーケティング戦略の立案」と「大学がスポーツを通じた積極的な地域社会へのコミュニケーション（地域連携、地域貢献）」であると考えている。Jリーグも「地域密着」を志向し、多摩地区を活動エリアにする東京ヴェルディも大学が目指す理念を推進しており、帝京大学のスポーツが社会的価値向上を具現化するには「日本初の地域活性化型大学スタジアム」を帝京グループが持つ資源を活用し、東京ヴェルディと協業することで多摩地区の日常に新たな活気を与える起爆剤となる可能性を秘めている。

ムスリムウェルカムタウン八王子

ムスリムが安心して食を楽しめる街へ

そのねらい ムスリムの八王子での食生活を豊かにするために、商店街を巻き込みムスリムフレンドリーな食品の情報を提供する

◆メンバー 経済学部経済学科4年 中元麻菜美、平子晃司、3年 三好可愛、藤井直輝
◆担当教員 勘坂純市 ◆活動のきっかけ 学生の発案

まちづくりの目的・概要

私達は、商店街を活用して訪日ムスリムに対する食の安全化を図る。現在、訪日ムスリム人口は増加の一途を辿っており、今後もその傾向は続くと思われている。その一方で、ムスリムが順守するハラルのルールに沿った食の提供は多摩では進んでいない現状がある。実際にそうした現状に困っている留学生の声を聴いた。そこで私たちは、八王子の商店街と連携しムスリムフレンドリーな製品を提供できるシステムを構築し、ムスリムの食の安全を保障する。またこの施策によって、商店街を基軸とした地域復興も図る。

効果の見通し

ムスリムの人々に安心して食生活を送れる環境を提供する。そのために、英語表記の商店街マップを作成し、レストランが提供するメニューに豚やアルコールが含まれていないか判別できるマークを表示する。この試みが地域に与える効果は3つ挙げられる。①戒律を守った食材が手に入る事を知ったムスリムが、商店街を利用するようになり、商店街全体の売上増加が見込まれる。②イスラム教圏外からの訪日外国人も英語表記のマップから各店舗の情報を得て、商店街に殺到する。③日本人利用客は「ハラル」という言葉を目にするようになることで、イスラム文化の理解を深めることができる。

継続性を見通し

2020年の東京オリンピック控え、グローバル化の重要性が増す中で、八王子発のムスリムやイスラム教以外の外国人にもやさしいまちづくりの先進的事例として広めていく。また、学園都市と呼ばれ、毎年、留学生の多い八王子地域の商店街に協力を依頼することで、ムスリム留学生に安心の場を継続的に提供できる。今後、外国人や地域住民との交流を設ける場なども提供し、八王子を拠点とした多様なまちづくりを行っていく予定である。

先行研究・連携団体

八王子市商店街連合会：商店街のマップ作製にあたり、実現のために各商店街や店舗の理解を求める活動を共同で行う。また、マップを発行する際の資金面の協力も要請する。八王子国際協会：商店街の英語表記マップの作製にあたり、翻訳業務を学生とともに協力して行う。

まちづくりのアピールポイント

実際に八王子に住むムスリム留学生の声を反映しているまちづくりである。今後、日本でも重要視されるハラル対応にいち早く着目し、八王子をハラル対応最先端都市へと成長させることを目標とする。この施策では、ムスリムだけでなくイスラム教以外の外国人も巻き込んだ地域振興ができる。そのため、商店街というローカルな場の良さを生かしながらグローバルなまちづくりを実現することが可能である。

第2審査会場 出場団体

キーワード：

◆キーワード 防犯・観光 ◆対象地域 福生市

No.1	東京経済大学 経営学部 北村ゼミナール
	安心な街、福生へ

◆キーワード 自然環境・観光 ◆対象地域 多摩地区

No.2	帝京大学 比佐ゼミナール
	花から変わる多摩地域・ミツバチプロジェクト

◆キーワード 健康増進・社会保障費削減 ◆対象地域 東久留米市

No.3	亜細亜大学 法学部 平井ゼミ
	東久留米市の健康増進と社会保障費の削減

◆キーワード アート・地域交流 ◆対象地域 多摩地区

No.4	創価女子短期大学 水元ゼミナール チーム木下組
	子どもたちが魅せるまち

◆キーワード 交流人口・水・女性 ◆対象地域 東村山市

No.5	東京経済大学 山本ゼミナール MIZU×TAMA班
	瑞で繋がる多摩のまちづくり

◆キーワード 産学官連携・観光・プロモーション ◆対象地域 多摩地区

No.6	明星大学明星教育センター 菅原研究室
	多摩地域広域PR映像「たまRUN多摩」制作プロジェクト

◆キーワード 見守り・ICT・IoT ◆対象地域 多摩地区

No.7	東京工業高等専門学校 電子工学科 水戸研究室
	電気でつながるまちづくり

審査委員

小金井市	企画政策課 課長	三浦 真氏
福生市	企画調整課 課長	石川健三氏
羽村市	産業環境部産業復興課 課長	中島静樹氏
インテル株式会社	シニアエンジニア	清水隆史氏
国営昭和記念公園管理センター	センター長	堀田昭男氏

安心な街、福生へ

～イルミネーションで明るいまちづくり～

犯罪発生率が高いとされている福生市を安心して暮らせる街にするため、青色LEDをイルミネーションという形で導入し犯罪防止、交通事故防止を図るとともに福生市の認知度、注目度の向上を図る。

◆メンバー 平林駿、櫻井達之、萩原勇輝 ◆担当教員 北村真琴
◆活動のきっかけ 福生市の犯罪発生率、交通事故発生率の高さから

まちづくりの目的・概要

現在、東京都26市の中で犯罪発生率が5番目、交通事故発生率が1番目に高い福生市。このことから福生市内に住む人達の防犯性に対する不安が高い。そして人口の面でも福生市は年々減少している。そんな福生市の悪いイメージを「安心して暮らせる街」という良いイメージに変えていくべきだと私たちは考えた。特に街灯の少ない多摩川沿いやその周辺に、防犯や交通事故防止の効果がある青色灯をイルミネーションという形で導入していく。

効果の見通し

青色灯のイルミネーションが福生市に与える効果は2点ある。1つ目は、私たちが問題として挙げている犯罪発生率と交通事故発生率の減少である。平成17年に奈良県秋篠台団地に青色灯が導入され犯罪が0になったことから、現在、国内でも導入している地域が増えている。また多摩川沿いは特に街灯が少ないため、明かりをつけるという意味でも住民に安心感を与えることができるのではないかと考えた。そのため見通しをよくするために白色のLEDを組み合わせる。2つ目は防犯イルミネーションとして広めていき福生市の認知度、注目度の向上を図る。

継続性の見通し

現在、福生市役所の企画財政部企画調整課企画調整担当の方に福生市との提携を依頼している。提携が決定した場合、福生市と提携しイルミネーションの設置、管理、維持していく予定。防犯対策をし、住みやすい街を作ることで福生市への移住者が増える。人口増加によって商店街やスーパーなどの売り上げ増加につながるなど福生市全体の活性化につながる。

先行研究・連携団体

神野雅文(2008).『グラスゴーの青色照明について考える』照明学会誌 第92巻 第9号 /金城雄一(2008).『青色・防犯灯を活用した安心安全まちづくりに関する調査研究』-平成19年度鹿児島市との共同調査研究報告書より- 照明学会誌 第92巻 第9号 /警視庁『自治体別刑法犯発生件数/区市町村別交通人身事故発生状況-犯罪マップ』 <<http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/toukei/johomap/johomap.htm>> /suumo『Vol.49. 街の魅力はどこで判断する? <suumo.jp/article/nandemorank/rank/iekaranokyori/960/>

まちづくりのアピールポイント

防犯対策に効果のある青色LEDと見通しをよくする白色LEDを使った防犯イルミネーションという多摩地域ではじめての防犯対策を実施することで、犯罪率、事故率を減らすだけでなく、イベントなどとコラボすることで福生市の認知度、注目度を向上させるのが最大の目的である。街の魅力はどこで判断するかという調査でも「防犯性の高さ」と答える割合が23%で5番目に高いことが分かった。このことから実際に犯罪率、事故率が減ることにより福生市に安全なイメージを持ってもらい、住みたいと思わせることで人口減少を防ぐこともできると考えた。

花から変わる多摩地域

ミツバチと共に

そのねらい 自然環境保護から経済発展や住民増加を狙う

◆メンバー 追優貴、上柳瑠々、柴田佳代子、市川太一、堀井駿、佐藤倅太、市川真耶、護田若菜、柴原みず紀、服部エリカ、木村拓実、榎本日菜子、間中春奈、寺岡淳平、梅村勇斗、久保翔平、河村康平、植木善哉、山崎僚太、竹内慧太
◆担当教員 比佐優子 ◆活動のきっかけ 国産蜂蜜の調査をした際に多摩地域の自然環境を考えるようになった。

まちづくりの目的・概要

近年、ミツバチの生態系に大きな障害が生じています。人間が行った森林や山里の乱開発と農薬の使用です。ミツバチが活動できる豊かな自然環境を取り戻すために、花を植え、理解を広げる。質のよいハチミツをあつめるように花を選択し、ハチミツが採れる環境を作ったのち多摩地域に花のイメージを作り、経済効果としてハチミツ商品を製品化し海外から来た方のお土産にしてもらう。オリンピックまでにまちづくりとして花から商品までの一貫性とする。

効果の見通し

ミツバチは、農産物に受粉するのみならず、近隣の花や木に受粉し、受粉によって出来た木の实には、鳥が集まり、自然な生態系の保護にも貢献できると信じます。自然環境に恵まれ、自然環境を大切にする魅力ある地域として、多摩地区に多くの人に愛され、集まってくるようになる。また、地域活性化と地産地消の活動を多摩川を中心とした多摩地域全体に広げ、豊かな自然を大切にする地域としての魅力を広める。

継続性を見通し

今回のプロジェクトは、まず初めに花から考える自然環境保護からスタートし、自然環境保護をすることによりミツバチに良い環境を作ることができます。その後、多摩地域に花と自然環境のイメージを作ります。最後に多摩地域のハチミツで商品化までがプロジェクトであり、オリンピックがある4年後までの計画です。

先行研究・連携団体

NPOみつばち百花 ミツバチの生態系保護のため花を植えますが、どの花が適しているかの判断などをしていただきます。

まちづくりのアピールポイント

近年、国産蜂蜜の採れる量が減ってきている中、関東地域で初となるミツバチの環境保護を考えるまちとしてアピールし、自然あるまち多摩地域として宣伝していくことにより住民の増加に繋がると考えています。花を植えることによりそのこと自体に観光としての効果があると思っています。最終的にハチミツ商品が完成した時には、海外にも多摩地域をアピールできると考えています。

東久留米市の健康増進と社会保障費の削減

ジョギングでまちと人を元気に

そのねらい 少子高齢化が進む中、主に高齢者の健康増進を図り社会保障費の削減に繋げていく。

◆メンバー 法学部法律学科3年 石原慎太郎、針山望、浅野衣美、坪谷幸大、新田洋平、長谷川拓海、岩元和希、荒木祐哉、黒澤有美、内川直紀、熊谷健太郎、町田紗耶華、飯塚涉、小杉和哉、鈴木恭輔 ◆担当教員 平井文三

◆活動のきっかけ ゼミで関心のある社会問題を議題として取り扱った際に最も意見が多かったのが少子高齢化でした。そこで、高齢者が増加する一方で何か解決策を考えることはできないのかと議題として取り扱ったのがきっかけです。

まちづくりの目的・概要

ジョギングによる健康的な身体づくりを支援する事業を通じ、第一に住民、特に高齢者の健康を増進すること、第二に、健康増進を通じて医療費・社会保障費の削減を行うこと、第三に、事業を実施する際に地域商店街と連携し、地域経済を活性化させること、第四に、この事業の実施を通じた東久留米市の知名度向上を目的とします。具体的には、日常的に安全に楽しめるジョギングコースを設置すると共に、定期的なジョギングイベントやマラソン大会を開催し、これらの参加者に地域商店街での購入のメリットを付与する等の事業を行います。

効果の見通し

第一にジョギングによる健康増進により健康な体づくりを行い、健康な住民を増やすことで将来的に医療費などの社会保障関係費を削減できると考えています。第二に東久留米市を広く知ってもらうための話題作りを行いSNSやホームページの閲覧数の増加、また東久留米市に興味を持つきっかけとなり、知名度上昇に繋がります。第三に住民のみならずその他の地域住民を呼び込み、商店街などでお金を消費してもらうことで地域経済を活性化させることにより税収増加が見込まれます。

継続性の見通し

ジョギングによる健康増進を継続するためにジョギングによるイベントの定期的実施。また、イベントではジョギングだけを目的とせずゴール地点などにキッチンカーを設け、東久留米市の特産物を利用した食事を販売し、東久留米市民だけでなくその他の地域の方々にも東久留米市の良さを知ってもらうことを考えております。そして、参加するとともにキッチンカーや商店街などで利用できる割引券などを景品として配布することにより参加者へのイベントへの継続的参加と還元を目指します。

先行研究・連携団体

参考文献：資料ジョギングの科学(著者：古藤高良 出版社：朝倉書店) / スロージョギング健康法：ゆっくり走るだけで、脳と体が元気になる!(著者：田中宏暁 出版社：朝日新聞出版) / 知識ゼロからのジョギング&マラソン入門(著者：小出義雄 出版社：幻冬舎) 予定ではありますが、商店街と連携して商店街で使える割引券を用意します。東久留米市役所(企画課、健康課)と連携してランナーにとって走りやすく、かつ安全なジョギングコースの設置を行います。

まちづくりのアピールポイント

東久留米市を流れる黒目川及び落合川沿いをジョギングすることで、自然を感じながら走るすることができます。そして、市民ランナーの方々目標になるようなジョギングイベントを運営し、定期的を開催します。そこで給水ポイントを設置し、東久留米の特産物である梅を用いたジュース、柳久保小麦を原料としたまんじゅう、パン、かりんとうなどの軽食を振る舞い、アピールします。都心からほど近い東久留米市だからこそ、人を呼び込みやすく、継続して参加していただくと考えてます。

こどもたちが魅せるまち

アートでまちを元気に

そのねらい こどもが主力となってまちの魅力を発信し、こども達自身もまちの魅力を知ることが出来る

◆メンバー 現代ビジネス学科2年 木下裕美、東山咲野、円城寺明子、前田安佳里 ◆担当教員 水元昇
◆活動のきっかけ 学生の発案

まちづくりの目的・概要

多摩地域では若者の都心や地方への流出が続いており、少子高齢化が進行している問題がある。その中で、これからの地域を担っていくこどもをターゲットに絞り、地域活性化を図る。まず1つ目に、外向け発信として、こども達が主力のPR動画を作製し、SNSなどを使用して地域の良さを発信していく。2つ目に、地域への内向け発信として、町にこども達が制作した地域に関するアートを展示し、(トンネルアートや、壁画)地域外から訪れた人々にも多摩地域の魅力をアピールする。アートの内容としては、こども達自身の将来の夢の他に、多摩地域の施設や自然を基にしたものを制作する。

効果の見通し

・こども達が主体となっていくことで、まわりの若者や、高齢者などにも明るい印象を与えることが出来る。・PR動画をこども達の手で制作し、発信することで手軽に人々に地域の良さを伝えていくことが出来る。・アートを制作、展示することで、地域の良さやこども達の元気を直接、地域内外の人々に伝えることが出来る。・制作側に立つこどもも、制作過程を通して多摩地域の良さを学んでいくことが出来る。・トンネルアートは町田市の大学などでも以前に取り組みされており、落書きだらけだった道をアートによって明るい印象に変えている。こうしたアートは地域に明るい印象を与えることが出来る。

継続性を見通し

地域の自治体などと協力して行うことが出来れば、年に1度の周期で地域の行事、取り組みにしていけるのではないかと考える。PR動画やアート制作は、夏休みなどの長期休暇の期間を使用することで、こども達も余裕を持って制作に取り組めるのではないかと考える。制作期間を長期休暇期間にすることで、地域住民の方々にも制作に協力して頂けるのではないかと考える。

先行研究・連携団体

連携団体は現在検討中である。地域の自治体と協力してこの提案を実践していくことを考えている。

まちづくりのアピールポイント

芸術は人々の心を豊かにしていくものである。これからの地域、未来を担っていくこども達に、動画やアートの制作を通して地域の魅力を知ってもらい、それらの過程を通してこども達自身も成長していくことができればと考えた。動画やアートに人々の関心を集めることが出来れば、こども達の自信にも繋がり、地域の魅力を人々に知ってもらうことが出来る。

瑞で繋がる多摩のまちづくり

～MIZU 沁み渡るTAMAらない旅プロジェクト～

そのねらい 人口減少による、地域の衰退を、交流人口を増加させることで改善すること。

◆メンバー 三上琴絵、松本真紀、宮山祐貴、大河原翔、興石瑞樹、中山博喜、横溝裕美 ◆担当教員 山本聡
◆活動のきっかけ これまでの研究の深堀+教員の助言。

まちづくりの目的・概要

過年度、日本酒を軸に地域活性化施策を提案した。本年度は日本酒を造る際に重要となる水に着目し、当該研究を進展させている。多摩地域は、水が豊富で、地域の様々な物事は水をキーワードに結びつけられる。水を地域資源ととらえ、酒や森や田畑、農産物とともに情報発信する。その上で、多摩地域は豊富な水に関連した魅力的な場所や文化があると地域外の方、とくに20～30代の女性に知ってもらい、人口減少が進む中で、交流人口増加による地域活性化を図る。同時に、地域や人と関係を深める体験も提案し、再訪したくなるまちづくりを目指す。なお、本研究ではフィールドとして、東村山市を設定している。

効果の見通し

水の質・量・歴史を多摩地域の特徴として再発見する。SNSおよびSNSを利用した紙媒体で、地酒や地場野菜・果物、公園、文物とともに情報発信し、都心近くに、豊富な水に立脚した、緑豊かでのどかな景色や雰囲気があることをPRする。息抜きや癒しを求める都心部の人、日本を体感したい外国人を地域内に呼ぶことが出来る。すでに、連携先でもある都心の大企業である富士ゼロックスの方々に、水をキーワードにした街歩きを行ってもらい好評を得た。以上より、都心部の人や外国人の呼び込みは可能であり、交流人口増加による地域活性化が見込める。また、街歩きは地域の人との関係が結ばれ再訪のきっかけとなる。

継続性の見通し

過年度より、富士ゼロックス、豊島屋酒造、多摩信用金庫の方々と複数回の企画を行い、強い関係を既に構築している。本年度からは、東村山市役所産業振興課の方にも興味を持って頂き、協力関係を築いた。さらに、東村山市郷土研究会の大井会長、農家の方々にも協力頂ける運びとなった。都心の大企業、日頃から産業振興を行う方々、地元に住み、地域の歴史や文化を良く知る方々に、賛同・協力して頂き、山本ゼミを中心に幅広い関係を構築・維持している。今後、都心部、地元の方々、双方の視点を取り入れ、魅力を発信・体験できるプランを継続する基盤は整備されている。

先行研究・連携団体

『地域ブランド・マネジメント』和田充夫 菅野佐織 徳山美津恵 長尾雅信 若林宏保 2009年6月20日、公益財団法人東京都市町村自治調査会2005年3月30日～2016年3月30日、「地域に求められる人口減少対策」平修久2005年3月26日、「男の常識を覆す新マーケティング」マーサ・バレッタ2003年10月13日を参考に研究をしている。豊島屋酒造、富士ゼロックス、東村山市役所と打ち合わせをしており、企画運営にご協力して頂くことが決まっている。

まちづくりのアピールポイント

水を観光の中心にすることで、多摩地域に点在する様々なものを結び付けてアピールすることが出来る。川や湧水のように直接的に水に関するもののみならず、豊かな自然や、直売されている野菜、酒、歴史なども関連付けてアピールすることが出来る。また、女性を主なターゲットにすることにより、情報発信力の強化が見込める。以上のことから、SNSにて多摩地域の水に関する物や場所、歴史の魅力を女性に向けて発信し、地域の交流人口を増やし、活性化させることができる。さらに、馴染みのある地になれば、居住地を探す際に候補の一つになる可能性がある。

多摩地域広域PR映像「たまRUN多摩」制作プロジェクト

多摩地域30市町村を一体と捉え観光資源の魅力を掘削し接続する

そのねらい 多摩地域外から通学する学生の斬新なアイデアを通じて、多摩地域の市町村（点）を鉄道（線）でつなぎ、点在する観光資源の魅力を鮮烈な映像を通じて全世界に発信する。

◆メンバー 人文学部国際コミュニケーション学科2年 小玉七海、経営学部経営学科1年 浪貝恭介、理工学部総合理工学科建築学系1年高橋森香、教育学部教育学科1年 中上愛美、塚越健斗、経済学部経済学科1年 田村一真 ◆担当教員 菅原 良
◆活動のきっかけ 教員が担当する授業を通じての関わり、学生主体の結局的な発案と行動

まちづくりの目的・概要

多摩地域は、30市町村からなり、約1160km²の面積のなかに、約422万人もの人が居住している（札幌市と同程度の面積の中に約2倍の人が住んでいることになる）。しかし、23区や地方中核都市と比較した場合に、多摩地域には多くの魅力（名所、祭り、イベントなど）がある一方で知名度が低く、他地域からの観光客の誘引ができていないようにみえる。本研究では、多摩地域の市町村を一体と考え、また、鉄道沿線をキーワードとして、「点」ではなく「線」でつながる多摩地域の魅力を他地域のひとにアピールするストーリー仕立てのPRビデオ「(タイトル) たま・RUN・多摩」の制作を行い、電車内およびYoutubeで動画を視聴できるようにし、多摩地域の魅力を全世界に発信、多摩地域を知ってもらうことを目的とする。

効果の見通し

本研究で制作したビデオが行政や鉄道会社の垣根を越えて、またYoutubeを通じて視聴することができるようになることによって、多摩地域をひとつの観光圏と捉える見方が広がり、また、Youtubeで全世界に配信されることによって、多摩地域の認知度が上がり。また、東京オリンピックを控えて多くの観光資源に恵まれた多摩地域への、日本の他地域および外国からの観光客の増加につながることが期待される。

継続性の見通し

本研究は、多摩地域30市町村が一体となり、鉄道会社との連携（「点」を「線」でつなぐ観光資源の接続と掘削）が出来て、初めて効果の高いプロジェクトを推進できるものと考えているが、興味を持っていただける市町村や会社がひとつでもあるのであれば、まず少数の「点」を「線」につなげることから始め、徐々に取り組みを大きくしていくという柔軟性を持ち合わせることができると、長期的に継続していくことができるものと考えている。

先行研究・連携団体

【参考作品（資料）】 小田急電鉄 CM「世界に一つの日々と2人の時間」篇（https://www.youtube.com/watch?v=yI_adAvpMFU） 京王電鉄 CM「高尾山新緑」篇（https://www.youtube.com/watch?v=UZ5Z_bh54KY） 西武鉄道 CM「2016年春 取材旅行」篇（<https://www.youtube.com/watch?v=KEqJOMMcNO8>） など 【連携団体】 株式会社プリプレス・センター、多摩地域の市町村（予定）、鉄道会社（小田急電鉄、京王電鉄、西武鉄道、多摩モノレール等予定）

まちづくりのアピールポイント

多くの観光資源に恵まれている一方、必ずしも効果的な観光戦略を講じることが困難であった多摩地域において、市町村の持つ観光資源（本研究では「点」と表現する）と鉄道（本研究では「線」と表現する）を接続することによって、行政や会社の垣根を越えた連携によるストーリー仕立てのPRビデオ「(タイトル) たま・RUN・多摩」の制作を行うことによって、多摩地域の魅力を世界に発信し、観光地として認識してもらうとともに、広域産学官連携のモデルを示すことができる。

電気でつながるまちづくり

安全・安価に見守り・省エネ

そのねらい 独自開発した電力計測センサを用いた、日常生活に根付いた見守りのあり方を提案する。

◆メンバー 電気電子工学専攻1年：山田恭平 電子工学科5年：菊地颯希、椿谷亮太、松本健也、本田慶太
◆担当教員 水戸慎一郎 ◆活動のきっかけ 高専生ならではの「ものづくり」を活かすことで、地域の課題解決に貢献するため。

まちづくりの目的・概要

多摩地域は、東京のベッドタウンとして発展してきた。子供を持つ働く世代にとって住みやすい街でなければならないと同時に、高度経済成長期に入居した世代を地域で支える必要がある。こうした課題を情報通信技術によって解決しようと全国で試みられているが、見守り専用のシステムは見張られている感覚が強く、利用者に心理的負担を課してしまうという課題がある。そこで我々は家庭に設置された各コンセントの使用状況に着目し、省エネ促進と見守りに利用できる電力計測センサを開発した。これを活用したまちづくりを提案する。

効果の見通し

各コンセントに設置した電力センサから得られるデータは、生活者がいつ、どこで、どの電気機器を使用しているかという情報である。これを用いて、プライバシーを守りつつ見守ることができる。共働き世帯のいわゆる「カギっ子」が無事にいつ帰宅したか、独居高齢者が普段通り調理をしているかといった安心を感じられるデータが得られる。学童保育や介護施設と協調しながら、「こども食堂」のように各コミュニティで課題を解消していく新しいまちづくりの手段になると考えている。

継続性の見通し

本活動は、研究室の継続テーマとして複数団体と協力しながら推進しており、提供側の継続性は確保されている。そのため、いかに利用者に継続的に利用してもらえるかという点が課題となる。見守り情報のみのシステムは、利用シーンが限定的であることから、継続的に活用されにくい。一方、電力情報は「見える化」することで節電行動の指針となり、日常的に活用できる。世代や対象を問わず価値のあるシステムとすることで、一部に向けたニッチな製品となることを避け、継続的に地域に貢献することができると考えられる。

先行研究・連携団体

先行研究：[1] NTT コミュニケーションズ株式会社、電力の利用状況から高齢者の生活を見守るサービス(2015) <http://www.ntt.com/about-us/press-releases/news/article/2015/20150730.html>、[2] 7割超の家庭で20%以上の節電効果を実現、エネルギー見える化サービス「me-eco(ミエコ)」(2011) <http://www.fnj.co.jp/news/20111212.html> 連携団体：高知高専(建物への設置と評価)、仙台高専(センサネットワーク及びユーザーインターフェース作製)

まちづくりのアピールポイント

電力計システムを街全体へ大規模に設置するには、本質的に事故を起こさない「安全性」、維持管理が不要な「保守性」、並びに「安価」であることが重要である。これらの条件を満たすため、故障しても火事などの原因にならず、かつ電池交換などのメンテナンスが不要な電力計測センサを開発した。消しゴムほどのサイズで、一つ1600円程度である。電力線にくぐらせる形で使用し、電線に非接触でありながら電池は不要である。これらの特徴から、既存のコンセントを容易に計測でき、しかも大規模に設置することも懸念がない。

第3審査会場 出場団体

キーワード：

◆キーワード マップ・育児支援・既存施設活用 ◆対象地域 多摩市

No.1	帝京大学 経済学部 湯川ゼミナール 2班
	「TAMA子育てバリアフリーマップ」で育児のまち多摩へ！！

◆キーワード アニメ・歴史 ◆対象地域 多摩市

No.2	多摩大学 彩藤ゼミ チームB「多摩アニメ」
	アニメで掴もう多摩NTの歴史

◆キーワード 体験教育・廃校活用・コミュニティづくり ◆対象地域 日野市

No.3	明星大学 地域復活させ隊
	廃校復活！！

◆キーワード 学生・ローカルメディア・紙媒体 ◆対象地域 日野市

No.4	実践女子大学 須賀ゼミナール
	ローカルメディアの可能性の探求

◆キーワード 無償塾・教育機会・大学生 ◆対象地域 日野市・八王子市・多摩市

No.5	帝京大学 経済学部 湯川ゼミナール 1班
	小学生も大学生も学ぶ「たまっ子塾」開講！！

◆キーワード 白繭様・養蚕・伝説・神社 ◆対象地域 多摩市・八王子市

No.5	多摩大学 彩藤ゼミ チームA「白繭様」
	白繭様奇譚

◆キーワード e-シェア・e-バイク・環境 ◆対象地域 日野市・八王子市・多摩市

No.5	帝京大学 経済学部 石川ゼミ
	学園都市多摩を目指す ー緑のモビリティでエコ通学

審査委員

町田市	政策経営部企画政策課 政策研究担当課長	羽生謙五氏
多摩市	企画政策部企画課 係長	廣瀬友美氏
日野市	企画部企画経営課 課長	仁賀田宏氏
京王電鉄株式会社	戦略推進本部沿線価値創造部 課長	芦川正明氏
UR都市機構	東日本賃貸住宅本部多摩エリア経営部 チームリーダー	島 一喜氏

「TAMA子育てバリアフリーマップ」で 育児のまち多摩へ！！

～既存の育児施設・設備を活用した育児支援を考える～

そのねらい 低コストで即効性のある育児支援の可能性を探る。

- ◆メンバー 経済学部経済学科3年 山辺雄斗、佐和田えりな、荒井虹輝、秋葉拳志郎 経営学部経営学科3年 佐野豪
- ◆担当教員 湯川志保
- ◆活動のきっかけ 多摩地域は育児支援の施設・設備が整っているにも関わらず、それらが十分に周知されていなかったため。

まちづくりの目的・概要

内閣府の育児に関する政策4本柱と12の主要施策の中で、子育てバリアフリーの推進が挙げられている。その中で、多摩地域は東京都が掲げる赤ちゃん・ふらっと事業による子育てバリアフリー化が他の地域に比べ進んでいるにもかかわらず、認知度は高くないことが明らかになった。そこで多摩地域の優れた育児支援設備等の情報を詰め込んだ子育てバリアフリーマップの作成と普及を行う。それにより、多摩地域に住む子育て世帯に向けて育児情報が整理され、子育てしやすいまちであることを発信できる。

効果の見通し

子育てバリアフリーマップの作成と普及によって、育児に忙しい子育て世帯が必要とする情報を簡単に入手することが可能となる。また、マップの普及により、これまで周知されていなかった育児施設等の有効活用も期待できる。さらに、このような取り組みを通じて、多摩地域が育児支援に力を入れていることを社会に発信できれば、子育て世代の若者を呼び込むことも期待できる。

継続性の見通し

今後の展望として、多摩地域の各市役所と相談し、子育てバリアフリーマップを母子手帳に添付することで、多摩地域の優れた育児設備等の情報を広く浸透させる。最終的には、アプリ開発を行う企業や団体と連携し、アプリケーションの形式でマップを提供することで、いつでも育児中の家庭に必要な情報を簡単に閲覧できる体制を整えたい。

先行研究・連携団体

参考文献・資料・データ 東京都福祉保健局「赤ちゃん・ふらっと事業」 内閣府「子ども・子育て白書」
提携団体・内容・多摩市役所「母子手帳添付交渉」 地域育児施設「多摩地域の育児支援アンケート調査」 アプリケーション開発依頼（提携団体未定）

まちづくりのアピールポイント

様々な地域で育児支援が実施されている中で、この子育てバリアフリーマップは、既に多摩地域に存在する育児施設・設備等の情報を集約し、周知させる支援である。すなわち、開発費といったコストを抑えつつ、即効性のある支援を展開できる。また、この取り組みが周知されることによって、赤ちゃん・ふらっと等の事業等のマークが認知され、その事業自体の重要性をアピールすることにも繋がる。

アニメで掴もう多摩NTの歴史

多摩ニュータウンが出来てから久しいので成り立ちを知らない人も多い。とりつきやすいアニメそのねらいによる説明をすることで誰にでもわかりやすい、エンターテインメント性を含む教育コンテンツができる。

◆メンバー 経営情報学部経営情報学科3年 志村正裕、曾村正和、濱田龍、2年 大橋奈紗、笠原敏幸、菊本瑞希 ◆担当教員 彩藤ひろみ

◆活動のきっかけ 彩藤ゼミ春学期プロジェクト

まちづくりの目的・概要

多摩センターは、多摩ニュータウンの成り立ちからみても、中心として位置づけられたユニークな存在である。最近では、サンリオピューロランドと京王駅のコラボレーションも企画実施された。ただ、利用者にはそのユニーク性を理解するものは少ない。主な建物や鉄道などの歴史的な成り立ち順序がすぐにわかるような自作アニメをつくり、わかりやすく説明したい。

効果の見通し

自作アニメの中に、多摩センターのビルの成り立ち順序などをいれることで、見た人が多摩センターをより一層理解し、愛着を持つもの、特に若者を増やすことができる。

継続性を見通し

多摩センター地域を取り上げるが、同じ手法は他の地域でも応用可能である。彩藤ゼミは、3DCGメインのゼミなので、自作アニメをつくる事が出来る人材はこれからも確保可能であり、継続性はあると考える。

先行研究・連携団体

参考にしているのは、多摩ニュータウンのこれまでのパンフレットや、実際の町並みを写真撮影してきた資料である。多摩ニュータウン学会などで発表できるよう準備したい。

まちづくりのアピールポイント

3D利用の自作アニメとしてわかりやすいコンテンツを作れるかどうかポイントであるが、ひとまずお披露目場所ができるというのが張り合いになる。

廃校復活！！

多摩っ子に地域の力で伝える働く楽しさ

そのねらい 高齢者、学生、保護者の距離を縮め多摩地域を元気に。

◆メンバー 木下健吾、鈴木駿、小林岳頼、呉聖蘭、鈴木安梨沙 ◆担当教員 波田野匡章

◆活動のきっかけ 自分の通っていた小学校が合併し、校舎が使用されなくなり、もう一度あの頃の活気を取り戻したいと感じたため。

まちづくりの目的・概要

多摩地域では、人口の減少に伴って廃校となった小中学校が増えています。本企画では、廃校となった小中学校の校舎を活用して、子どもたちに“好き”と“積極性”を持たせて、地域に人を集めて地域を活性化させることを目的としています。最近の子どもたちは、公園でのボール遊びが禁止され、スマートフォンの発達などによって子どもたち一人ひとりの活性化が失われていると感じます。廃校になっている小中学校などの施設を利用して、学生が自分の専攻分野の、地域で働いている人が自分の仕事分野の先生となり、学校では受けられない様々な体験教育を行うという方法を通じて、子どもたちに“好き”と“積極性”を身に付けてもらうことを目指します。

効果の見通し

子どもたちが、多摩地域の人たちによる体験授業を通して、多摩地域で働くことの楽しさを知ることが出来ます。短期効果としては、子どもたち、学生、保護者、地域の住民の距離が縮まりコミュニケーションが深まり、地域コミュニティの形成が期待されます。一方、長期効果としては、短期効果の結果として形成されたコミュニティにおいて、子どもたちに地元愛が生まれ、将来、地域に居住し地域で働き地域活動に貢献することによって、地域の継続的な活性化が期待されます。

継続性を見通し

・子どものメリット：授業を楽しみながら様々な大人と交流し、視野を広げることが出来ます。・保護者のメリット：コストをかけずに、学校では得られない様々な体験教育を、子どもに受けさせることが出来ます。・学生のメリット：子どもたちを対象に活動することによって、教育の現場経験を積むことが出来ます。・自治体のメリット：遊休施設の有効活用が出来ます。・地元住民のメリット：子どもたちや学生と交流することによって、商店街の活性化を実現出来ます。以上のように5者のニーズに合致しているため、継続して行える見通しがあると考えます。

先行研究・連携団体

参考文献・資料：日野市立廃校施設一覧 連携団体：明星大学教職センター、明星大学の各学部、日野市内の商店街 連携内容：教職センターあるいは各学部を通じて、教員を目指していて、本企画に賛同してもらえる学生を紹介してもらう。日野市内の商店街には、商店のお仕事の内容を子どもたちに教えてもらったり、子どもたちが作ったものなどの展示や販売に協力してもらう。

まちづくりのアピールポイント

廃校となり利用されていない施設を活用して、子どもたちに様々な体験、経験を積んでもらうことによって、“好き”と“積極性”を身に付けてもらうという取り組みから、「元気」まちづくりがスタートできると考えています。そして、その子どもたちが、将来、自分が好きなことややりたいことを見つけ、それを仕事に出来るような大人に成長してもらいたいと思っています。その後、「効果の見通し」の長期効果でも述べたように、その大人たちが、多摩地域に住んで働き、多摩地域の活性化の原動力になることによって、今以上に街が活性化され「元気」になると考えます。

ローカルメディアの可能性の探求

学生に人気の高いまちづくりをねらいとするライフスタイルマガジン

そのねらい 学生に「こんなライフスタイルがしたい」と感じさせるような紙媒体の情報提供を行い、若い人たちが住みやすく、そのまま家族を持ちたくなるまちのイメージをつくる

◆メンバー 生活科学部現代生活学科3年 岩田明日香、太田亜紀乃、長橋彩香、萩原悠、星野有香、松前友希代、山口祐夏
◆担当教員 須賀由紀子 ◆活動のきっかけ 先生の助言、学生の発案

まちづくりの目的・概要

私達が提案するのは、日野市に住む・通う学生に向けたライフスタイル提案型マガジンの企画・発行を学生が行うものである。日野市は、水と緑の豊かな自然・都市農・こだわりのお店・活発な町会活動など、過ごしやすい多くの魅力があるにも関わらず、それに気づかず卒業し、日野を離れてしまう学生が多い。そこで、現代の女子大生の感性にマッチする日野ならではのライフスタイルを提案し、若い人を呼び込み、そのまま住み続けたいまちづくりに繋げたい。

効果の見通し

日野で生活を送る学生にさまざまな地域の魅力を広めることで、日野市での学生の活動が増える。また、学生目線のローカルメディアの提供は、地域の人とも仲良くなれ、交流を通して、地域の人にとっても魅力発見の機会となる。これらは、学生の生活の充実につながり、結果的に学生にとっても、地域の人にとっても地域への愛着が湧き、まちの活性化が期待できる。学生が地域密着取材を重ねることにより、地域の暮らしのアーカイブをつくる効果もある。

継続性の見通し

学生が発行するマガジンのため、書く人は毎年入れ替わる。まちの姿も変化する。日野市には季節による旬の食べもの、旬の場所などが豊富にある地域である。「記事を書く人、まちの変化」と、「その時の学生の流行」に応じた内容を企画することによって、マガジンを継続的に発行できると考える。紙媒体はwebメディアと違い、保存性があり、質感も追求できる。捨てられるものではなく残るものを志向することで、継続的な役割を果たしうる。

先行研究・連携団体

【連携団体】日野市内の地域活動を通して私達に関係を持つ、以下の団体等との連携を予定している。①日野市地域協働課（市の地域づくりの課題に関する情報の提供）、②日野市内自治会（地元住民だからこそ知る魅力を教えてもらう）③日野市商工会議所、④フリーペーパーを制作している市民の方やフリーカメラマンの方など。

まちづくりのアピールポイント

私達は、日頃の地域活動の中で、そこで出会う市民の方々の魅力や、日野の良さに非常に惹かれている。それを発信して共有し、仲間を助け、街を内側から元気になりたい。私達のポイントは「紙媒体」にこだわることである。Webにはない質感ある表現ができて、一覧性が高く、全体を把握しながら細かい部分も把握できる。手渡しのコミュニケーション効果もある。Web情報時代の今だからこそ、地域限定で狭く深く編集された紙媒体の価値を、デジタル世代の私たち若者が探求したい。

小学生も大学生も学ぶ「たまっ子塾」開講！！

～教育で魅力のあるまちに～

そのねらい 追加的な学びを希望する子どもに、広く教育の機会を提供する。

◆メンバー 経済学部経済学科3年 中花祐斗、北澤和也、小島由佳 経営学科3年 荒木育弥、五十嵐亮太、岡部峻介 ◆担当教員 湯川志保 ◆活動のきっかけ 子育て世代が教育費の負担感を感じることなく、教育の機会を提供することが、少子化が進む多摩地域のまちづくりに重要であると考えたから。

まちづくりの目的・概要

少子化の要因の一つとして、子育ての費用の高さが指摘されており、また、低所得者ほど教育費の負担が大きいことが明らかになっている。その中で、多摩地域の平均年収は、23区の平均年収と比較して大幅に低く、上述した問題が懸念される。そこで、多摩地域の大学で教員を目指す学生を講師とした無償塾を開設し、子どもに対する学習支援を行うことで、子育て費用の軽減を実現化する。この塾を開設することで、少子化の要因のひとつである子育て費用問題を解決し、たくさん子どもたちが住む元気なまち多摩をつくる。

効果の見通し

塾の開設によって、学びを希望する子どもに広く教育の機会を提供することが可能となり、多摩地域全体の学力向上が期待できる。また、このような取り組みが子どもたちの学力向上等を通じて社会に認知されることで、多摩地域が教育に強く取り組むまちであることをアピールすることができ、多摩地域に既に住んでいる子育て世帯の定着や別の地域に住んでいる子育て世帯の移住も期待できる。さらに、教員を目指す若者がこのような取り組みに興味を持つことで、多摩地域の大学に進学する意欲を持つことが想定される。

継続性の見通し

第1回は、小学4年生から小学6年生を対象に、帝京大学の学生を講師として9月に実施する予定である。今後の見通しとしては、この企画に参加した子どもたちや保護者の要望をふまえたうえで、対象学年の拡大や講義内容の改善を行いたい。また、第2回以降は、帝京大学以外の多摩地域の学生にも参加を促す予定であり、多摩地域の大学間における緊密なネットワークの構築を目指す。

先行研究・連携団体

【連携団体】 ①多摩地域の小学生と大学生 ②多摩地域の大学 【データ】 2015年総務省発表の資料より

まちづくりのアピールポイント

所得と教育格差の問題が指摘される中で、追加的な学びを希望する子どもに広く教育機会を提供することができる。また、教師を志す大学生が、教育実習以外の場で教える経験を積むことが可能となる。さらに、このような企画を継続させることは、多摩地域全体の学力の底上げや子育て世帯の定着、他地域に住む子育て世帯の移住を促進させることが期待できる。

多摩大学 彩藤ゼミナール チームA「白繭様」

対象地域：多摩市・八王子市

白繭様奇譚

多摩に精神的拠り所を

そのねらい 蚕の盛んな地域であった多摩をもう一度見直し、新しいキャラクター「白繭様」にちなんだストーリーを組み立て、その伝説の地としての多摩地域を盛り上げる。

◆メンバー 経営情報学部経営情報学科2年 金木雄也、磯野萌々香、坪崎遥香、横山大悟、3年 石田和同 杉田ゼミ 事業構想学科2年 荒井綺花 ◆担当教員 彩藤ひろみ
◆活動のきっかけ 彩藤ゼミ春学期プロジェクト

まちづくりの目的・概要

多摩ニュータウンを調べていて、精神的な拠り所が少ないと感じた。ちょうどゼミ活動で、新しいキャラクター「白繭様」を創って、多摩の地域を盛り上げようというプロジェクトを実施しているので、多摩大学のすぐ近くにあるヤサカ神社をその中心的な舞台に据えた、新しいストーリーを組み立てたい。

効果の見通し

多摩にとって養蚕というのは重要な産業であったということの見直しと、新しいキャラクターの聖地設定により、数多くの多摩を舞台にしたストーリーが生まれることを期待する。

継続性の見通し

多摩大学周辺地域を取り上げるが、同じ手法は他の地域でも応用可能である。彩藤ゼミは、3DCGメインのゼミなので、自作ゲームやアニメをつくる事が出来る人材はこれからも確保可能であり、継続性はあると考える。白繭様の聖地巡礼が起こるブームにまで高めたい。

先行研究・連携団体

参考にしているのは、多摩ニュータウンのこれまでのパンフレットや、実際の場所を写真撮影してきた資料である。多摩ニュータウン学会などで発表できるよう準備したい。

まちづくりのアピールポイント

3D利用の自作アニメとしてわかりやすいコンテンツを作れるかどうかポイントであるが、ひとまずお披露目場所ができるというのが張り合いになる。白繭様の3Dキャラクターにも注目してもらいたい。

学園都市多摩を目指す—緑のモビリティでエコ通学

e-シェア（電動自転車の乗り捨て）で通学革命を起こす

そのねらい 通学の利便性と経済性を高め、同時に環境に配慮する。

◆メンバー 経済学部3年 中袴田勇希、入澤秀斗、石黒智大、小出涼香、千葉純花、堀大和、小松翔、森田彩里紗、高橋竜太、草山将希、矢崎ちひろ、笠井浩生 ◆担当教員 石川正史

◆活動のきっかけ 最寄り駅と大学間の通学事情を改善したい。

まちづくりの目的・概要

多摩地区は若者の都市部への移住が進行して年々人口が減少し、少子高齢化社会となっている。そこで私達は若者、特に大学生の人口増加のために、電動自転車（e-バイク）のレンタルサイクル（e-シェア）を提案する。多摩地区の大学や駅に乗り捨て可能なe-バイク貸出拠点を設置し、利用者が通学のために自由に借り出し・返却できる新しい交通手段である。これを利用して通学時の利便性と経済性を高め、更には環境保全にも貢献したい。

効果の見通し

このシステムを導入することで安価で待ち時間がなく、学生の健康増進にも役立つ通学手段を提供し、結果として多摩地区の大学のイメージアップを図り、学生数の増加に繋げたい。また、e-バイクを活用することで、緑の（グリーン、即ち地球温暖化を惹き起こす二酸化炭素を排出しない）移動手段が実用化されることは、環境保全に貢献するのみならず、そこに大きな話題性もある。

継続性の見通し

次なる進化として、①帝京大学以外の近隣大学への展開でスケールメリットを追求し、②将来的には最寄り駅と大学の間に自転車専用道路を整備し、e-バイク通学を一層快適で安全なものにする。更なる拡大策としては、③通勤者との相乗りでさらに運用効率を上げ、④電鉄主要駅周辺の自転車保管場所をコワーキングオフィスと組み合わせることで通勤ラッシュを軽減し、都心への通勤者を多摩に呼び戻す。又、本研究は当ゼミの継続研究課題として次世代へ引き継ぐ。

先行研究・連携団体

レンタルサイクル会社：e-シェアの運営方法研究（(株)ドコモバイクシェア等）

e-バイクメーカー：仕様研究、価格研究（未定）

拠点整備：保管・運用場所の確保（京王電鉄等）

コワーキングオフィス：立地や使用状況、運営方法の研究（森ビル等）

行政：八王子市、多摩市、日野市

まちづくりのアピールポイント

世界的な流れとして、シェアリングエコノミーと地球温暖化対策が進む中で、①バス通学事情を改善する（利便性と費用）、②学生の健康を増進する、③バス通学を代替することで環境を護る、④将来的には通勤者を取り込むことで、大幅に経済性を改善する、更には⑤コワーキングオフィスの設置も後押しすることが期待され、通勤ラッシュを緩和することが期待される。

第1審査会場 講評

明星大学教授 西浦定継氏

「多摩の学生まちづくりコンペディション2016」では、若い人独自のアイデア、独創的発想が詰まっている発表が聞けてたいへん興味深かったです。いずれも身近なことに着目し、それを地域で取り組む課題として取り上げ、新しい視点でその解決策を提案しておりました。内容的には、まだまだビジネスになることが難しいと感じましたが、継続的に取り組むことで、きっと大きく開花させてもらえるかと期待しております。

第2審査会場 講評

インテル株式会社 シニアエンジニア 清水隆史氏

ご発表頂いた7団体からは、多摩地域の未来づくりにかける強い思いが伝わってきました。

まちづくりの実現には多大な時間を要する為、(今回の審査での配点比重も高い) その「効果の見通し」を確実にするには、誰もが実現できる「仕組み作り」が欠かせません。

それは、定量的な現状分析を行い、定量的な活動指標を据え、それらに期日を区切った達成目標を定めてチーム内で共有した後、一丸となってPDCAサイクルを回す事です。

皆さんの活動が、地域の皆さんから益々強く求められるよう、応援しています！

第3審査会場 講評

京王電鉄株式会社 戦略推進本部 沿線価値創造部 課長 芦川正明氏

「多摩の学生まちづくりコンペディション2016」におきまして、皆さまから「多摩地域の未来をつくる」ための提案を聞かせていただきました。各チームから提案いただいた内容は、これから多摩地域に密着した課題解決策に繋がっていくものと思います。今回は通過点でしかありません。是非、提案の実現に向けて着実にこの取り組みを継続し、大学・行政・企業・地域の皆さまを巻き込むようなイノベーションに結びつくことを期待しております。

総評

明星大学教授 西浦定継氏

今回の発表に共通する課題は、3つがあげられます。一つは、それぞれの発表内容の位置づけ、言い換えると社会的必要性の示し方が曖昧であったということです。いくつかの発表では統計データを示していましたが、そのデータの取り方、整理の仕方、根拠づけが曖昧で、「好きだからこのテーマを取り上げた」といった印象を持ちました。統計学などをしっかり学んで、社会的な位置づけを示す技術を身に付けてもらいたいと思います。二つ目は、ビジネスモデルとなることを示す発表か、それともただの啓蒙なのか、はっきりしない発表がありました。これは、誰に向かって発表しているのかがはっきりしていないためだと思います。自分たちのアイデアをどうしたいのかをしっかりと考えて発表してもらいたいと思います。最後に、P(plan)-D(do)-C(check)-A(action)のサイクルで改善していく様子が見られなかったということです。PDCAで、常に改善策を見つけ、スパイラルアップしていくことが大事です。以上のことを、考えて、継続的に取り組んでいてもらいたいと思います。

第3章

本選

多摩の学生まちづくりコンペティション2016

日時 2016年12月18日(日)

会場 立川市・柴崎学習館

出場団体

地域：八王子市

No.1	創価大学 勸坂ゼミ チームコネクト
	学生をもっと主体的に！ 地域を元気づけるのは学生(君たち)だ！

地域：日野市

No.2	実践女子大学 須賀ゼミナール
	ローカルメディアの可能性の探求 学生に人気の高いまちづくりをねらいとするライフスタイルマガジン

地域：東村山市

No.3	東京経済大学 山本ゼミナール
	瑞で繋がる多摩のまちづくり ～MIZU 沁み渡るTAMAらない旅プロジェクト～

地域：八王子市

No.4	創価大学 勸坂ゼミチームKZK
	ムスリムウェルカムタウン 八王子 ムスリムが安心して食を楽しめる街へ

地域：日野市・八王子市・多摩市

No.5	帝京大学 湯川ゼミ1班
	小学生も大学生も学ぶ「たまっ子塾」開講！！ ～教育で魅力のあるまちに～

地域：立川市

No.6	創価大学 西浦ゼミ衣料班
	環境にやさしいまちづくり 衣類のリサイクルを推進する取り組み

審査委員

中央大学大学院 ネットワーク多摩	公共政策研究科 委員長 専務理事	細野助博 (審査委員長)
八王子商工会議所	会頭	田辺隆一郎氏
三井不動産株式会社	開発企画部 環境創造グループ長	雨宮克也氏
三菱地所株式会社	開発推進部 新機能開発室長	井上 成氏
森ビル株式会社	都市開発本部総合統括部 メディア企画部 部長	矢部俊男氏
公益財団法人ダイヤ高齢 社会研究財団	主任研究員	澤岡詩野氏
明星大学	総合理工学部 教授	西浦定継氏

開会挨拶

八王子商工会議所 会頭
田辺隆一郎氏

皆さま、こんにちは。八王子商工会議所会頭の田辺です。第3回となる多摩の学生まちづくりコンペティション2016にご参加をいただき本当にありがとうございます。また、大変お忙しい中、清水庄平立川市長にもご出席いただきありがとうございます。心からお礼を申し上げたいと思います。

今年は22のグループに応募をいただいて、その中で6つのグループが本選に残りました。私も資料を全て拝見させていただきました。学生という立場での視点で、いい意味での捉え方をそれぞれがしているなど実感しましたが、まちづくりという大きな作業をどう具現化し、どう結びつけていくかは非常に大きな問題、難しい問題だと思っています。ぜひその辺はプレゼンテーションで私のほうにしっかりと理解をさせるようにご努力いただきたい。楽しみにしています。

今、国を挙げて観光にすごく力を入れていて、地方創生という中で、それぞれの地域が観光という問題に非常に熱心に取り組んでいるのが今の日本の現状だと思います。ただ私は、この観光一つとっても、何が一番大切かという、それぞれの地域の中で、本当にその地域が持っている地域の特性や資源、またはその地域が持っている歴史あるいは伝統文化、こういうものを町の中の人たちがどのくらい理解して、どのくらい知っているのか。ここが一番大きな問題ではなかろうか、それなくしてわが町はこういうことですよとは語れないのではないかと、そんなふうに思っています。

そういう意味ではまちづくりも同じだと思います。その町をいかによく知るのか。先ほど言ったような分野をそれぞれきちんと理解した上で、その中でこういうポイントから突いていったら、町はいい町になっていくんだらうと、そんなところにしっかりと結びつけていかないと、何か上だけが上滑りするようなことであっては私は本当の意味での効果がないんじゃないのかなと、そんなふうに日々思っていますので、ぜひ今日のそれぞれ提案したものを、私どももしっかりと聞いて、私であれば八王子のまちづくりに役立てていきたいなと思いますので、しっかりと元気よくご説明をいただきますことをお願いを申し上げて開会のごあいさつといたします。どうぞよろしく申し上げます。

会場市挨拶

立川市 市長
清水庄平氏

こんにちは。立川市長の清水です。ネットワーク多摩の皆さんのおかげで、このような将来に未来に視点を当てた、まちづくりということをテーマにこのようなシンポジウムが立川で開かれることを心からお礼申し上げます。

社人研（国立社会保障・人口問題研究所）の日本の人口の方向性は40年後には30%以上減っていくだろう。立川も、現在18万人の人口が年1,800人程度減りながら最終的には13万人まで落ち込むという予測、推計人口が出ています。

私はこの推計の内容が発表されたときに、何を、と思ったんです。そんな簡単に人口が減ってたまるかと。こういう思いで立川の町の経営をしていこうと思っていました。ところが社人研の推計人口予測というのは極めて正確な予測が立っているんですね。

立川の人口のお話をさせていただきますと、昨年、2015年に18万1,300人。社人研はこう予想していました。それをピークとして16年から減り始めるだろうという予測でしたが、現在2016年、立川の人口は10月で18万1,800人です。1年ずれただけでぴったり符合しますね。実は焦っています。

そういうことを背景として、町の充実、発展は何とんでも人口、とりわけ生産年齢人口をどう確保していくかが町の経営の重大問題です。立川だけでなく多摩全体が人口縮小、経済縮小、体力の減退、これを迎える中で、これからの町が生き抜いていくためには、今までのような個々の自治体だけの努力では全く効果が表れてこない。そのためには今、言われ始めてきました自治体の広域連携、相互連携。今までは小規模ですが、相互の各自治体同士の連携をやってきました。それをもっと大規模に5市とか10市、あるいは26市、というのはちょっと無理かなと思いますが、広域連携によって自治体のコストダウンを図り、なおかつ様々な公共施設の相互利用によって市民の満足度も高めていく。これが可能ではないかということで、実はもう既に来月、1月31日ですが、立川市と隣接する8つの市、日野、国立、国分寺、小平、東大和、武蔵村山、福生、昭島市、そして立川市を入れた9市。この自治体のトップが一堂に会して、広域連携サミットという名前で手を握り合っていこうよ、そして前に進もうよという方向性を公式に出そうと動き始めているところです。

職員の中でも多くの職員がこういう心配を持っています。ただ大胆な発想をするのには職員に決めさせるのは難しい課題です。ですから、行政の全ての責任をトップが負うわけですから、トップがまず最初に方向性を出すことが大切です。その後に自治体全域にその思想、考え方を広めていこう。こういう意味であえて大言壮語のようなネーミングですが、「広域連携サミット」、こう名付けて動きだすつもりです。今回お集まりいただいた22グループから選考会を経て今日は6グループだそうですが、将来の多摩のまちのあり方はこういうものだという大胆な発想から、私どもに助言、示唆を与えていただければと思います。今回のご成功をお祈り申し上げてごあいさつとします。

審査委員長挨拶

ネットワーク多摩 専務理事
細野助博

今、立川市長から広域連携をしないと、多摩地域はどんどん23区のほうに力を吸い取られていくというお話だったんですが、実はネットワーク多摩は2001年にできている。ちょうど15年たちました。ということは国勢調査3回分です。もう既に2001年に多摩はこのままばらばらになっているととんでもないことになるよ、ということで、産官学連携をしなきゃいけない。地域連携もそうだし、様々な主体、大学、それから行政、それからビジネス、みんな力を合わせなければ多摩の魅力づくりはできないんだということで、このネットワーク多摩をつくったのです。

まちづくりに学生たちの知恵を借りようということでまちづくりコンペティションを始めました。ちょうど3年ですね。この試みは毎年工夫をしています。今年は何かという、皆さんは発表するだけじゃなくて、選考会を通過した場合には自治体の方々やまちづくりの専門家の方々のご指導をいただくという、そういう形にしたんですね。

22のチームが選考会に出てくれましたが、残念ながら6チームしか残らなかった。残らなかったチームの人たちは悔しいって泣いた人たちもいるわけです。これはうれし涙じゃない。悔し涙です。でも、日本を良くするにはどういう要素が必要かという再チャレンジです。ぜひ、この6チームになれなかったチームは来年、今度、満を持して応募して、その最終発表に来る。最後は最優秀をもらうというところまでやってほしいと思います。

八王子商工会議所の田辺隆一郎会頭は日本商工会議所のほうでもまちづくりに関する委員会の委員長をなさっています。それから三井不動産、三菱地所、森ビル、その三大ディベロッパーの専門家に来てもらっています。だから皆さんに対するその審査は厳しいと同時に非常に高度な審査が行われるというふうに思っていたきたい。澤岡詩野さんは今、ダイヤ高齢社会研究財団の研究員をなさっていますけれども、今向かわれている超高齢化社会をどういうふうに乗ら切ったらいのかということ、日本の未来をつくるためのご研究をなさっているわけですね。明星大学の西浦正継先生は、ずっと皆さんの選考会を見えています。私は何も見ていない。本当は22チーム全部見たかったんですが、見させてくれませんでした。22から6引くと幾つか、16ですよ。16団体の人たちの涙っていうことを、背景にしながら皆さんは一生懸命頑張ってください。彼らは惜しくも選考会に残れませんでした。彼らの思いを背中に受けて発表してほしいと思います。

それでは6チーム、元気いっぱい発表してくれることを期待しています。頑張ってくださいね。

本選の様子



開会挨拶 田辺会頭



会場市挨拶 清水庄平立川市長



細野審査委員長挨拶



審査開場につめかけた人たち



質問する審査委員



データの豊富さに加えてプレゼンにも工夫が見られた。



厳粛な空気に包まれた最終審査会



最優秀賞トロフィー



最優秀賞 創価大学 チームKZK



優秀賞 創価大学 西浦ゼミ



優秀賞 東京経済大学 山本ゼミ

第4章

本選・プレゼンテーション概要

多摩の学生まちづくりコンペティション2016

No.4	創価大学 勸坂ゼミ チームKZK 最優秀賞
------	--------------------------

ムスリムウェルカムタウン 八王子

ムスリムが安心して食を楽しめる街へ



メンバー 藤井直輝 三好可愛 中元麻菜美 平子晃司
指導教員 勸坂純市

発表概要

近年の訪日旅行客増加に伴い、2020年の東京五輪を機に更なる外国人観光客の増加が見込めます。その中でも、訪日ムスリム観光客は著しい増加率を見せていますが、八王子市へのムスリム観光客数は「ムスリム対応の遅れ」により、約1%と少ないです（独自聞き取り調査より）。そこで八王子市をムスリムウェルカムタウンとして活性化させ、食環境の整備と八王子PR活動を行なうことを提案します。まず、宗教上食に制限のあるムスリムに対応するためには、食材の情報開示が課題だと捉え、独自の食品用ピクトグラムを導入しました。これにより、ムスリム自身が食事の判断が可能になり食の選択肢が増えると期待できます。次に、観光客誘致のためのHachiojiマップを作成し八王子市の取り組みを発信します。このマップにはピクトグラム導入店舗の詳細情報・八王子の魅力情報を掲載し、訪日在日問わず利用してもらうことが可能です。このように、ムスリムも楽しめる食環境の整備を行なうことで、八王子のムスリム観光客誘致につながり、様々な文化を受け入れる先進都市八王子市の躍進に貢献します。さらに八王子市がムスリムウェルカムのリーディングシティとして多摩への波及が期待できます。

活動の目的

私たちは、「八王子市においてムスリムに安心した日本での時間を提供する」という目的の下、本プロジェクトを進めてきました。本プロジェクトは、グループメンバーの一人がイスラム教圏であるインドネシアに留学したことがきっかけで始動しました。彼女は留学先で、日本に行ったことがあるが、イスラム教の戒律に遵守した食事をとることが難しかった、との声を聞きました。そこで、私たちはムスリムが非常に重要視する「食」の環境を整え、日本旅行を満喫してもらいたいと考えました。また、私たちの通う創価大学が位置する八王子市は、都心から数十分で到着できる位置にありながら、高尾山を始め自然豊かな観光地に溢れています。さらに、学園都市であることから、留学生も多く滞在し、国際都市としての特色も有しています。しかし、ムスリム留学生、ムスリム観光客に向けた取り組みは進んでおらず、特にムスリム観光客からの八王子市の認知度はあまり高くありません。そこで、ムスリム訪日客が安心できる食環境を八王子市において整備し、ムスリムが日本観光を楽しむことができる、かつ国際都市八王子の更なる発展に貢献することのできる施策を立案することを目的に活動を始めました。

活動の内容・様子

行研究が少ない分野であったため、自分たちで足を動かして情報を取得することに注力しました。まず、都心において先進的なムスリム対応を行う飲食店への聞き取り調査を行い、今後のムスリム対応を行う重要性を確かめました。その後、八王子市での実現可能性を高めるために、行政や飲食店を訪ねて施策の仕組みを作りました。そして、私達の企画への賛同店舗を探し、実際にモデルケースとして実施しました。その際、需要を確かめるためにムスリムの方々を招いて試食会を開き、意見を頂き施策の改良をしました。人に伝えることを意識し、定期的にゼミで発表会を設け、教授・先輩方から様々なアドバイスを頂きながら企画を進めました。



活動の成果

本施策を通じて、八王子市のムスリムの方々の安心した食環境整備に貢献できたと考えます。試食会を開催した際に、ムスリムの方々と食卓を囲み、楽しく食事ができた嬉しさは忘れることができません。また、ムスリム留学生も本当に喜んでくれました。同時に、今回の発表を通じて八王子市の行政の方々や企業の方にも関心を持っていただくことができ、八王子市の異文化理解を進めることができたのではないかと思います。本施策は、外国人やアレルギーを持つ人にも対応できるため、様々な食の制限のある方々へのおもてなしは、八王子市のイメージアップにつながると考えます。最後に、今回の調査でお世話になった方々、本当にありがとうございました。



参考文献

- [1] 観光庁（発行日不明）『ムスリムおもてなしガイドブック』 <http://www.mlit.go.jp/common/001101141.pdf> 2016年7月14日アクセス
- [2] 農林水産省（2014）『平成25年度輸出拡大推進委託事業のうち国別マーケティング』 http://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/e_kikaku/pdf/all.pdf 2016年7月15日アクセス
- [3] 三菱UFJリサーチ&コンサルティング（2014）『現地ムスリムに対する訪日旅行に関する意向調査』 http://www.murc.jp/thinktank/rc/politics/politics_detail/seiken_140424.pdf 2016年7月17日アクセス
- [4] 西川りゅうじん（発行日不明）『急増する訪日ムスリム観光客に注目』 <http://www.jmca.jp/column/tu/tu46.html> 2016年7月29日アクセス
- [5] 八王子観光協会 『各種資料・パンフレット』 http://www.hachiojikankokyokai.or.jp/sightseeing_download.html 2016年8月10日アクセス
- [6] ビーカイブ（2014）『イスラム教徒が日本で苦勞すること』 <http://b-chive.com/halal-business7/> 2016年8月15日アクセス
- [7] 八王子市ホームページ <http://www.city.hachioji.tokyo.jp> 2016年8月17日アクセス
- [8] 八王子国際協会 <http://hia855.com> 2016年8月18日アクセス

担当教員まとめ

チームKZKは、テーマ設定に手間取りました。八王子にムスリム観光客を呼び込むというテーマを決定したのは、8月であったと思います。それからは、意欲的にリサーチを進め興味深い提案を行ってくれました。リサーチ自体は、実質的には3年の4月頃からスタートします。それから1、2ヶ月に1回程度で週末に中間発表会を設けます。そこには4年生の先輩や卒業したOB・OGも駆けつけてくれます。このような機会にもらった様々なコメントも活かし、リサーチを進めてくれたようです。リサーチの中で私が学生たちに課しているのは、とにかく自分たちの“足”で情報を集めることです。やはり現場に足を運んで、地道にデータを集めることでしか、社会の問題もその解決策も見えてこないことを、実感してもらいたいと考えています。今回のリサーチでも、自分たちで八王子のホテルに調査に向いたり、イスラム教国からの留学生とはなしたり、ムスリム観光客を受け入れる活動をしている団体に話を聞きに行く中で興味深いアイデアが次々に出てきました。さらに、ネットワーク多摩を通して、行政の方からアドバイスをいただけたことも、学生たちにとっては貴重な機会でした。このように地域のなかで学生を育てる仕組みを作ってください。ネットワーク多摩の皆様にも深く感謝いたします。



7

ムスリムウェルカムタウン Hachioji

創価大学 勤坂ゼミ チームKZK
中元 麻菜美 藤井 直輝
三好 可愛 平子 晃司

8

AGENDA

- 現状分析
- 施策
- 検証
- 展望

9

AGENDA

- 現状分析
- 施策
- 検証
- 展望



12

訪日ムスリム数の増加の背景

- 訪日VISA 発給要件の緩和
- 経済成長
- 東南アジア発着 LCCの就航

今後もムスリム観光客 ↑



八王子にムスリム観光客が少ない理由

訪日ムスリムへの取り組み

- 飲食店での取り組み 小規模 (学食事業一部、道の駅のみ)
- 駅での取り組み なし
- ホテルでの取り組み なし

ムスリム対応の遅れ

京王プラザ八王子様 (9.1)
株式会社Shu様 (9.23)
八王子商工会議所様 (9.26)
八王子国際協会様 (5回訪問)
JR東日本 美蔭様 (2回訪問)
への聞き取り調査より

ムスリム対応とは？

お祈り 1日5回 礼拝

食事 ハラル(Halal)

【ハラール】
【ノンハラール】

ムスリム対応とは？

お祈り 1日5回 礼拝

食事 ハラル(Halal)

【ハラール】
【ノンハラール】

ムスリム対応とは？

ムスリム観光客の特徴

1日5回 礼拝

"飲食店"決定

観光ルート決定

(Halal Media Japan 守護様 SEKAICAFE様への聞き取りより)


ハラール対応における4つのレベル

厳格		店舗認証	メニュー認証	アルコール不使用	豚・豚由来不使用
↑	ハラール	○	○	○	○
	ムスリムフレンドリー		○	○	○
	ムスリムウェルカム			○	○
寛容	No Pork No Meat				○

ハラール認証とは

19

<ハラール認証>
メニューがハラールであることを公的に証明するシステム



長期間

高コスト

第1歩として最適な対応レベル

20

厳格 ↓ 寛容		店舗認証	メニュー認証	アルコール不使用	豚・豚由来不使用
高	ハラール	○	○	○	○
中	ムスリムフレンドリー		○	○	○
低	ムスリムウェルカム			○	○
寛容	No Pork No Meat				○

訪日ムスリムの不満

21

順位	不満の内容
1	販売されている飲食物、物品の 原材料表記などの情報が乏しい
2	ハラール対応した飲食店が少ない
3	ハラール対応した物品が少ない

出典: http://www.murc.jp/thinktank/nc/politics/politics_detail/seiken_140424.pdf

訪日ムスリムの不満

22

認証


<

原材料
表記


出典: http://www.murc.jp/thinktank/nc/politics/politics_detail/seiken_140424.pdf

在日ムスリムの不満・困ったこと

23



漢字がわからないので、**何が入っているのか**分らないです。
(ブルネイ人留学生)



原材料に何を**使っているのか**分らないです。
外で食べるときは毎回インドカレーです。
(ブルネイ人留学生)

- ### ムスリム対応のポイント
- 24
- ✓

豚やアルコールの不使用
 - ✓

原材料表記(情報開示)

25

「ハラール認証は**一つの手段**」


「認証以外にも、
できることは**沢山ある**」



HMJ
Halal Media Japan
守護様 (10.26)

26

提案します！



27

今できることから始めよう！
**ムスリムウェルカム
プロジェクト**



28

AGENDA

- 現状分析
- 施策
- 検証
- 展望

29

ムスリムウェルカムプロジェクト 2STEP

<p>MUSPIC</p> <p>情報開示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原材料表記 ・抜ける食材の情報開示 	<p>HACHIOJI MAP</p> <p>情報拡散</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八王子の魅力発信 ・Muspic導入店舗宣伝 
---	--

30

STEP1 情報開示

MUSPIC



Muslim + Pictogram
ムスリム用ピクトグラム

STEP1 情報開示

31

宗教戒律7品目
アレルギー7品目
絵文字化

豚・アルコールの
有無を確認できる

STEP1 情報開示

32

宗教戒律7品目
アレルギー7品目
絵文字化

自己判断可能に

ムスリム対応店舗の声

33

SEKAI CAFÉ 浅草店 池田様 (2016.8.17 インタビュー)

豚肉などの食材を抜いて調理
↓
食べることのできる選択肢の拡大

ムスリムのお客様は、豚肉などを抜けば
食べられるという方々も多い。
実際によく頼まれる。

ムスリム対応店舗の声

34

SEKAI CAFÉ 浅草店 池田様 (2016.8.17 インタビュー)

飲食店の
情報開示

豚肉抜けない 豚肉抜ける

ムスリムのお客様は、豚肉などを抜けば
食べられるという方々も多い。
実際によく頼まれる。

店舗での対応手順

35

- ①原材料チェック: 豚・牛乳・小麦・卵
- ② MUSPIC で表示する
- ③抜いて調理可能な食材のチェック: 豚 を抜ける
- ④抜ける食材を で表示

店舗での対応手順

36

- ①原材料チェック: 豚・牛乳・小麦・卵
- ② MUSPIC で表示する
- ③抜いて調理可能な食材のチェック: 豚 を抜ける
- ④抜ける食材を で表示

シール化して
貼り付け!

ムスリムウェルカムプロジェクト 2STEP³⁷

MUSPIC

情報開示

- ・原材料表記
- ・抜ける食材の情報開示

HACHIOJI MAP

情報拡散

- ・八王子の魅力発信
- ・Muspic導入店舗宣伝

STEP2 情報拡散³⁸

HACHIOJI MAP

MUSPIC 導入店舗掲載

STEP2 情報拡散³⁹

HACHIOJI MAP

MUSPIC 導入店舗掲載

八王子の魅力発信

指差し会話表

Restaurants serving Muslim Welcome menu⁴⁰

1 SENGOKU Tama 20 30~25 30 Menu for muslim Phone: 0238-18278	4 ABC Tama 20 30~24 30 Menu for muslim Phone: 0238-18178
2 Bagus Tama 20 30~25 30 Menu for muslim Phone: 0238-18278	5 123 Tama 20 30~25 30 Menu for muslim Phone: 0238-18178
3 Suka Tama 8 30~13 30 Menu for muslim Phone: 0238-18278	6 Kamlin Cinta Tama 20 30~25 30 Menu for muslim Phone: 0238-18178

Fuji Art Museum

You can see a lot of beautiful works from the world.

Mitsui-Dunlop Park

You can enjoy shopping with good price everyday.

Takiyama Park

There is a healing place for ladies.

Hachioji Masjid

Phone: 0238-18178

Supermarket

Phone: 0238-18178

Propose route

Kurohei St.

Traditional place of Japan

Science Dome

Let's study the power of science

Komiya Park

Feel nature, Feel relax

エリアマップ⁴¹

店舗詳細

1 SENGOKU Tama 20 30~25 30 Menu for muslim Phone: 0238-18278	4 ABC Tama 20 30~24 30 Menu for muslim Phone: 0238-18178
2 Bagus Tama 20 30~25 30 Menu for muslim Phone: 0238-18278	5 123 Tama 20 30~25 30 Menu for muslim Phone: 0238-18178
3 Suka Tama 8 30~13 30 Menu for muslim Phone: 0238-18278	6 Kamlin Cinta Tama 20 30~25 30 Menu for muslim Phone: 0238-18178

Fuji Art Museum

You can see a lot of beautiful works from the world.

Mitsui-Dunlop Park

You can enjoy shopping with good price everyday.

Takiyama Park

There is a healing place for ladies.

Hachioji Masjid

Phone: 0238-18178

Supermarket

Phone: 0238-18178

Propose route

Kurohei St.

Traditional place of Japan

Science Dome

Let's study the power of science

Komiya Park

Feel nature, Feel relax

おすすめ観光地⁴²

おすすめ観光地

1 SENGOKU Tama 20 30~25 30 Menu for muslim Phone: 0238-18278	4 ABC Tama 20 30~24 30 Menu for muslim Phone: 0238-18178
2 Bagus Tama 20 30~25 30 Menu for muslim Phone: 0238-18278	5 123 Tama 20 30~25 30 Menu for muslim Phone: 0238-18178
3 Suka Tama 8 30~13 30 Menu for muslim Phone: 0238-18278	6 Kamlin Cinta Tama 20 30~25 30 Menu for muslim Phone: 0238-18178

Fuji Art Museum

You can see a lot of beautiful works from the world.

Mitsui-Dunlop Park

You can enjoy shopping with good price everyday.

Takiyama Park

There is a healing place for ladies.

Hachioji Masjid

Phone: 0238-18178

Supermarket

Phone: 0238-18178

Propose route

Kurohei St.

Traditional place of Japan

Science Dome

Let's study the power of science

Komiya Park

Feel nature, Feel relax



検証 49

実現可能性

有効性

独自性

検証: MUSPIC の需要 50

Q MUSPIC は便利だと思いますか?

「便利だと思う」 **80%** A

在日ムスリムへのインタビュー（新橋大学、東京工科大学などで11/26から開始）

検証: MUSPIC の需要 51

Q 「HACHIOJI MAP」は観光において必要だと思いますか?

「必要だと思う」 **100%** A

在日ムスリムへのインタビュー（新橋大学、東京工科大学などで11/26から開始）

検証: 賛同店舗 52

MUSPIC 導入実現

ダイニングキッチン SENGOKU (八王子市) 様

ムスリム向けレシピ開発

ムスリム試食会開催

検証: 施策の協力者 53

HMJ Halal Media Japan 様

日本でのハラール情報を世界中のムスリムに発信

Hachioji Map 掲載承諾

Halal Media Japan 代表取締役社長 守澤 彰彦様 (右)

八王子国際協会 様

八王子での多文化理解を進める

多言語翻訳ボランティア派遣

八王子国際協会 吉川 様 緊急駆けつけ

HMJ HALAL MEDIA JAPAN 54


5ヶ国語対応 (英語, 日本語, インドネシア語, アラビア語)

ハラール情報発信

ハラールイベント企画・運営

検証: 施策の協力者 55

HMJ代表取締役 守護彰浩様 (右)
(10.26)



八王子のムスリム対応に
関する問い合わせはあります！

活動に期待してます！

検証: 施策の協力者 56

HMJ Halal Media Japan 様

日本でのハラール情報を
世界中のムスリムに発信

Hachioji Map
掲載承諾



Halal Media Japan
代表取締役社長
守護 彰浩様 (右)

八王子国際協会 様

八王子での
多文化理解を進める

多言語翻訳
ボランティア派遣



八王子国際協会
古川 様
聞き取り調査

検証 57

実現可能性

有効性

独自性

検証: 実際の声 58

ダイニングキッチン **SENGOKU** (八王子市) 様

試食会
開催

ピクトグラムがわかりやすかった。
(ブルネイ留学生)

日本でこのような取り組みをしている
店舗は少ないため有難い。
(セネガル留学生)



2016/12/3 開催

検証: モデルケースの紹介 59

～栃木県佐野市～

ムスリムへの取り組み

- ムスリム向けイベント開催
- ムスリム向けメニューの開発







検証: モデルケースの紹介 60

ムスリム誘致成功




61

検証:実現可能性




	新木県佐野市	八王子市
交通の要衝	日光への 中継地点	東京都心、富士山 の中間地点
在日ムスリム	労働者 (工業地帯)	留学生 (学園都市)

八王子と佐野市は類似点が多い

佐野市役所 観光課 電話インタビュー (2016/12/2)

62

検証:実現可能性



**食→観光ルートを決めるムスリムを
八王子へ呼び込める**

八王子と佐野市は類似点が多い

佐野市役所 観光課 電話インタビュー (2016/12/2)

63

効果の見通し

八王子のムスリムインバウンド

1泊の消費金額 **八王子に宿泊して
富士山に行くムスリム数** **八王子への経済効果**

12,000円×1250人=約1500万円



出典: <http://www.mlit.go.jp/common/001032143.pdf>

64

検証

- 実現可能性
- 有効性
- 独自性

65

独自性 MUSPIC

ピクトグラムのシール化
簡単に始められる原材料表記

赤枠で抜ける食材の情報開示
今あるもののムスリム対応



より多くの飲食店へ波及可能

食の選択肢拡大

66

独自性 HACHIOJI MAP



食事処の決定 料理の注文 楽しい観光

- MUSPIC 導入店舗の情報を掲載
- 会話表で注文をサポート
- お勧め観光地やルートの紹介

73

ヒアリング先・日時	
8月12日	八王子観光協会
8月17日	SEKAI CAFÉ 様、成田屋様
9月1日	京王プラザ八王子 様
9月16日	八王子市役所 多文化共生推進課
9月23日	株式会社 Shu 様

74

ヒアリング先・日時	
9月26日	八王子商工会議所 様
10月12日	JR東日本 美藤 様
10月18日	八王子市役所 学園都市文化課
10月26日	ハラールメディアジャパン株式会社 守護 様
11月23日	両毛ムスリムインバウンド 推進協議会

75

ヒアリング先・日時	
12月2日	株式会社アーバン 様
12月2日	佐野市役所 観光立市推進課
5回訪問	八王子国際協会 様
5回訪問・施策導入	SENGOKU 様

お世話になった皆様、誠にありがとうございました！

76

質疑対応用ppt

77

検証: MUSPIC の需要



「ハラール認証が必要」22%

「情報が分かれば自分で判断する」
80%

Halal Media Japan 守護製造 様 聞き取り調査 (10/26)

78

ハラール対応における4つのレベル

厳格	店舗認証	メニュー認証	アルコール不使用	豚・豚由来不使用
ハラール	○	○	○	○
ムスリムフレンドリー		○	○	○
ムスリムウェルカム			○	○
No Pork No Meat				○
寛容				

79 認証取得に関する懸念点

時間 認証取得のための 設備準備 申請～認証取得まで 2, 3ヶ月	コスト 食品加工ライン設置 認証取得費用 約25万円～100万円
--	---

80 先行事例

東京都 NPO法人 インターナショナル

食品用ピクトグラム

81 本施策の課題点・解決策

課題	解決策
Muspic導入店舗数の増加	行政からの発信で信用性
継続的な観光客の取り込み	行政一街の主体者—在日ムスリムの3構造
本プロジェクトに対するムスリムからの信用性	定期的な試食会を開催 モスクの方々・留学生の声

82 行政の役割

役割	目的	なぜ行政が担うのか
広報活動	Muspic導入店舗・施設の増加	信用性
費用の援助	施策の拡大	波及効果を高めるため

83 苦労したこと

困難	理由	利点・解決策
将来性にかける点	訪日観光客の中でも少ない割合 (5%)	ニーズをキャッチ →固定層獲得
原材料表記	どこまで表示するのか (調味料の内容物、製造ラインのチェック)	ハラール調味料の使用 (味は変わらない)

84 訪れる見込みのあるムスリム観光客数

八王子を東京都心と富士山の中間地点(宿泊地)として使った場合(単純計算値)

山梨県への観光客数 (2010)	約50万人
ムスリム観光客数 (全体の5%)	2万5千人
八王子へのムスリム観光客数 (年間)	1,250人
八王子へのムスリム観光客数 (月間)	104人

出典: <https://www.pref.yamanashi.jp/fujisan/2018132/documents/2-siryou4.pdf>

八王子への経済効果(年間1250人) 85

ムスリム観光客八王子で12.5泊(平均宿泊数)のうち1泊した場合の一人あたり支出額

	12.5泊	1泊
宿泊費	46376	3749.28
飲食費	30037	2524.56
交通費	13433	1260.00
娯楽・サービス費	3071	289.28
買い物代	41774	3440.00
その他	200	21.00
旅行支出総額	¥144,784	¥11,583

11,583円×1250人=14,478,750(約1448万円)

出典: <http://www.mlit.go.jp/common/001032143.pdf>

本施策に必要な人件費(一人当たり) 86

単位: 円


八王子市役所職員平均給与月額	471,755
年間給与	5,661,060
営業日数	243
一日当たりの給与	23,297
本プロジェクトに従事する日数(週3日)	146
本プロジェクトに必要な人件費	3,396,636

出典: http://www.city.hachioji.tokyo.jp/08n_data/material/_file/000/000/012/001/27kyosuteikin.pdf

制作費 87

	1店舗につき 10枚のメニュー表を作成	Muspicを10店舗に導入 Mapを5000部印刷
Muspic	¥2,500	¥25,000
Map	—	¥15,810
総額		¥40,810


検証:モデルケースの紹介 88



ムスリム対応に取り組む

ムスリム向けメニュー開発

ムスリム向けイベント開催



検証 89

	MUSPIC	HACHIOJI MAP
実現可能性	ムスリムの需要あり 導入飲食店舗あり	ムスリムの需要あり Map作成協力者あり
有効性	ピクトグラムの わかりやすさ →多言語対応できる	ムスリム対応が 観光客誘致に繋がる
独自性		

審査委員のコメント 講評

八王子商工会議所 会頭 田辺隆一郎氏

素晴らしいプレゼンを聞いて、私も大変勉強になりました。本当にありがとうございます。

今、日本全体で観光という分野にもものすごく力を入れております。そういう視点からも大変素晴らしい提案であったと思っております。

とかく観光といいますと、どちらかといえば、供給側の論理が先行してしまう。インフラ整備をどうしたらいいのか、というようなことですね。けれども、実際訪問されるお客さまである消費者側に立って、どうしていかないといけないのかという点で、大変参考になると思っております。

特に、食ということでは、ご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、この多摩地域を中心として八王子が最大です。そういう意味で、食に対しての考え方を与えてもらったということが、八王子の食文化に更に一歩深みが増すのではないかと感じました。

そして、私は来年4月には、八王子観光コンベンション協会ができますので、できましたらすぐに連携を取りたいと、そんなふうに思っていることも付け加えさせていただきます。ありがとうございました。

No.6	創価大学西浦ゼミ 衣料班
	優秀賞

環境にやさしいまちづくり

衣類のリサイクルを推進する取り組み



メンバー 大久保萌 三輪英夫 糸数優花 香川由香 川上伸作 河野秀幸 岡田瀬合那
指導教員 西浦昭雄

発表概要

衣料品のリサイクル率が、他の品目のそれに比べ圧倒的に低い日本は「衣料品のリサイクル後進国」であると言える。一方、立川市は、多摩地域においてファッション店舗数が最も多いにも関わらず、独自の取り組み等を行っている為、衣料品リサイクル率は、約100%である。そこで私たちは、ファッション性が高く環境に配慮している立川から衣料品のリサイクルを推進し、多摩地域や日本を環境にやさしいまちにしていこうと決めた。日本においてリサイクルとユースは共に先細りが懸念される為、新しいリサイクルの形である「アップサイクル」に注目した。アップサイクルとは、従来のリサイクルとは異なり、元の製品よりも価値の高い製品を生み出す事である。プランの内容は次の3点。

- ①アップサイクル作品としてのドレスの制作・展示
- ②立川市民によるアップサイクル作品の展示
- ③アップサイクル体感ワークショップ

実際に、ルミネ等が主催の立川ファッションウィークのメインイベントにブースを出展し、このプランを実施した。結果、多くの方々に衣料品リサイクルに関心を持っていただくことができ、立川市役所や本学・創価大学での展示も行う事が出来た。

活動の目的

私たち衣料班の活動目的（ビジョン）は、アップサイクルという概念を通し、立川市を「衣料品リサイクルのモデル都市」として、多摩地域全体を盛り上げていく事である。ここで言うモデル都市とは、「衣料品を大切にすまち」のことを意味する。この活動目的を達成する為のステップとして、私たちはまずアップサイクルの秘める可能性を人々に認知してもらうことから始めるべきだと思い、今回のアップサイクル推進運動を提案・実施した。

ゆくゆくはこのような意識啓発活動により、より身近なレベルでアップサイクルを実感できるように、アップサイクル事業が推進・普及されていくことも見込んでいる。私たちのこの活動は、立川市の成長戦略にも繋がると考える。2016年12月11日の「立川市長と語る会」にて、市長は「文化芸術・子育てに力を入れる。立川の良さをアピールして人々の往来を増やしたい」（要約）と仰っていた。私たちのプランでは、立川の良さである高い衣料品リサイクル率を市内外にアピールしながら、アップサイクルという概念を伝え、衣料品リサイクルのモデル都市としての地位を確立する為、市の成長戦略に貢献すると考える。

活動の内容・様子

プランの実現の為、立川市役所を訪問した。3度に渡る訪問の末、ルミネ・グランデュオ・伊勢丹・高島屋、JRが主催する立川ファッションウィークというプロジェクトをご紹介いただいた。運営窓口のルミネ立川との打ち合わせを経て、当プロジェクトの最終日のメインイベントの1つ

として、衣料班ブースを出展する事が決定した。当日まで、ポスター・チラシの作成や、SNSの更新等の広報活動を行った。そして当日は、ブースにてアップサイクル体感ワークショップ、研究内容を簡単にまとめた資料の展示、立川市にある民間手芸団体「つくし」様から拝借したアップサイクル作品を展示した。また、衣料班員によるアップサイクル作品は、当プロジェクトにちなみドレスに決定し、武蔵野美術大学の学生の協力のもと制作した。



2016年10月19日 ルミネ立川との打ち合わせの様子



立川ファッションウィーク公式ロゴ

活動の成果

参加者とイベント関係者より多くの称賛のお言葉をいただいた。代表的な声を紹介すると、ワークショップ参加者の女性からは、「クリエイティブで衣服リサイクルに興味を持ちました」というお言葉や、ルミネ立川の山中様からは、「立川の魅力を一番伝えていたブースでした」というお言葉をいただいた。

今後の活動としては、2017年1月11日から26日まで、八王子市役所と連携し、八王子東急スクエアにて私たちの制作したドレスの展示が決定している。更に、同月28・29日はエキュート立川でもドレスの展示が決定している。このように立川を中心に他の多摩地域でもドレス展示を行い、私たちの活動を波及させていきたい。



ワークショップ参加者と共に



衣料班ブース前にて

参考文献

- [1] 一般社団法人産業環境管理協会 資源リサイクル促進センター <http://www.cjc.or.jp>
- [2] 一般社団法人廃棄物資源循環学会 (2010) 『MW学会誌論文誌』 <http://jsmcwm.or.jp/journal/?journal=no-3-%E8%A1%A3%E9%A1%9E%E3%81%A8%E3%81%94%E3%81%BF-%E2%80%95%E3%81%8A%E3%81%97%E3%82%83%E3%82%8C%E3%81%A8%E7%92%B0%E5%A2%83%E2%80%95>
- [3] ウェストリサーチ (2016) 1月号 (閲覧日2016年7月31日)
http://waste0044.sakura.ne.jp/16_01_hp/16_01_honmon.html
- [4] 環境省(2013)「循環型社会形成推進基本計画」
https://www.env.go.jp/recycle/circul/keikaku/keikaku_3.pdf
- [5] キムラ繊維 株式会社 (2013) 繊維リサイクルの“今” (閲覧日2016年6月17日)
<http://kimura-seni.co.jp/recycle/>
- [6] 経済産業省(n.d.)「循環型社会形成のための法制度政策」
http://www.meti.go.jp/policy/recycle/main/data/pamphlet/pdf/handbook2006_2.pdf
- [7] 古紙ジャーナル (2013)「日本はマレーシアと韓国向が大半を占める 韓国と中国は東南アジアとアフリカへ輸出」(閲覧日2016年7月31日)
<http://kosijnl.co.jp/backnumber/1364/>
- [8] 酒井豊子 (n.d.) 東洋紡シリーズ 繊維ガイド 「衣服の消費と廃棄」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/transjtsmj1972/50/11/50_11_P610/_pdf
- [9] 新電力ネット (2016) (第一資料：中小企業基盤整備機構)
<http://pps-net.org/interncolumn/clothes-recycling>
- [10] 立川市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画～未来へつなごう ごみをつくらないライフスタイル～ (2015) <https://www.city.tachikawa.lg.jp/gomitaisaku/kurashi/gomi/shisaku/documents/gomisyorikihonkeikaku.pdf>
- [11] 特別非営利活動法人 日本救援医療センター (2015) (閲覧日2016年8月10日)
<http://www.jrcc.or.jp/works.html>
- [12] 独立行政法人 中小企業基盤整備機構 (2010)「『繊維製品 3 R 関連調査事業』 報告書」http://www.smrj.go.jp/keiei/dbps_data/_material/_common/chushou/b_keiei/keieiseni/pdf/53267-01.pdf
- [13] ナカノ株式会社 (n.d.)「繊維リサイクル製品製造」(閲覧日2016年6月20日)
<http://www.nakano-inter.co.jp/recycle/>
- [14] 日経ビジネスオンライン (2012)「古着の援助はもう沢山」(閲覧日2016年7月28日)
<http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20120514/232001/?P=1&rt= nocnt>
- [15] ニッセイ基礎研究所 (2013)「『すてる』と『つくる』をつなぐ仕事」 社会研究部門准主任研究員 塩澤 誠一郎
http://www.nli-research.co.jp/files/topics/40546_ext_18_0.pdf?site=nli
- [16] BE iNSPIRED (2015)「ファストファッションが実は『高級品』なワケ」(閲覧日2016年7月8日)
<http://beinspiredglobal.com/fast-fashion-is-overcosted>
- [17] Ethical Fashion Japan (2015) (閲覧日2016年6月3日)
<http://www.ethicalfashionjapan.com/about-ethical/upcycle-reclaim/>
- [18] LUXEYS(n.d.)「LATTE FASHION」
<https://latte.la/fashion/shop/list/area/1323>

担当教員まとめ

衣料品のリサイクル率が日本で低迷する中、その打開策として「アップサイクル」という新しいアプローチに着想した学生のアイデアが、京都工芸繊維大学木村照夫名誉教授・立川市役所・ルミネ・ネットワーク多摩・多摩信用金庫・エキュート様をはじめとする多くの団体・個人に応援していただいたお陰で具体化しつつあると心より感謝しています。

担当教員として、こうした取り組みを通じて学生たちが成長したと感じている点は次の通りです。

- ①社会人基礎力の向上：「考え抜く力」「前に踏み出す力」「チームで働く力」といった社会人基礎力それぞれの項目での向上が観察された。それに加え、メールやインタビューのマナーも学ぶことができた。
- ②問題解決力の向上：正解のない課題に対して、多くの文献を通して現状を知り、分析力を磨き、学生なりの解決策を考案した。
- ③世界市民性の向上：世界の課題と身近な取り組みがリンクしていること学び、「シンク・グローバル・アクト・ローカリー」という言葉を体験できた。

本プロジェクトに参加した学生は今後1年以上大学に在籍することもあり、社会と接する中で学んだことを卒業論文や進路活動の中で活かしていけるよう指導していきたいです。

1

立川市は、
ごみの分別・資源物回収
を徹底している

環境への配慮
に取り組んでいる

2

大型商業施設

3

リサイクルショップ

4

ファッションを
取り扱う店舗の多さ

行政による
積極的な衣料品回収

↓

衣料品のリサイクルへの関心

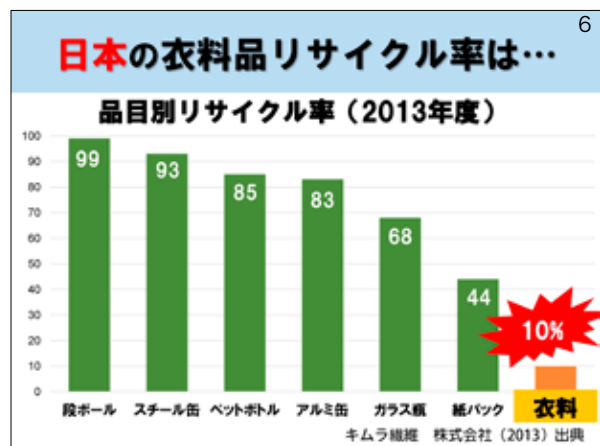
5

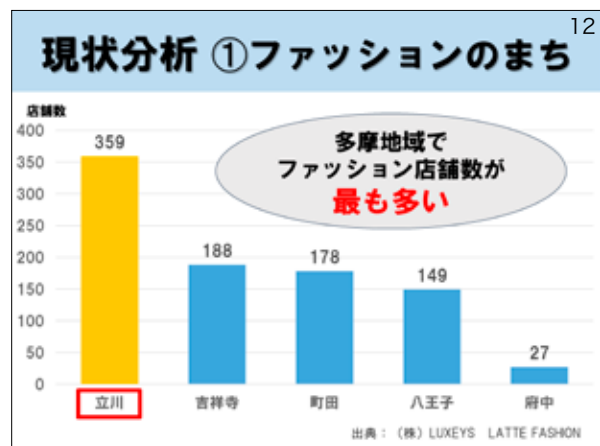
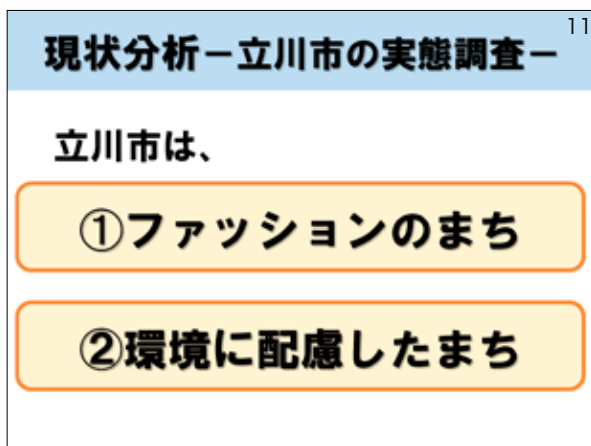
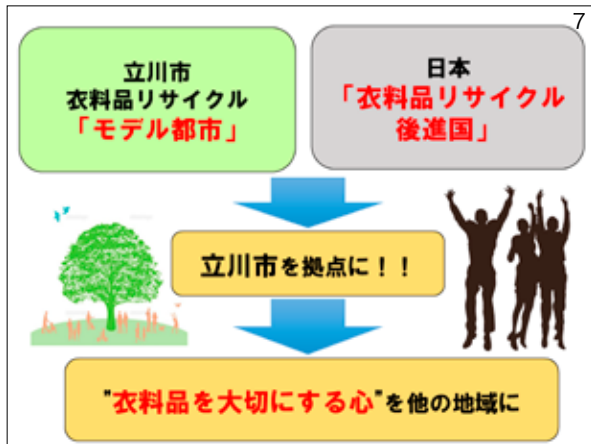
立川市の衣料品リサイクル率

立川の衣料品リサイクル率は
どのくらいなのでしょう？

行政が回収した分の、衣料品リサイクル率は
約100%に近いです。

立川市総合リサイクルセンター ごみ対策課の方より






13

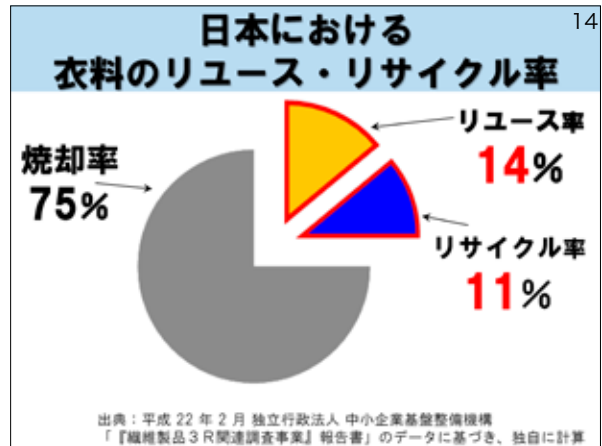
現状分析 ②環境に配慮したまち

リサイクルショップ西砂
 回収した衣料品の修理、展示・販売を行う。
 →衣料品 5,104着 (約1,318kg) (2013年度実績)

立川市の衣料品リサイクル率は高い!



出典：立川市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画～未来へつなごうごみをつくらないライフスタイル～



15

日本の衣料品リユースの現状

リユースのうち **8割** 以上海外に輸出

→ 現地の国内産業に打撃

出典：有限会社 古紙ジャーナル社 2013年

16

日本の衣料品リユースの行き詰まり

輸入規制

2012年 ナイジェリア、インドネシア、タンザニア

2016年 フィリピン

衣料のリユースは限界

出典：ウェストリサーチ2016年1月号・日経ビジネスオンライン2012年5月16日

17

リサイクルが進まない要因

リサイクル用途が限られている

従来の代表的なリサイクル用途

反毛		→	
	天然繊維製品		羊毛
ウエス		→	
			羊毛

(ナカノ株式会社 繊維リサイクル製品製造より)


18

従来のリサイクル用途

業界のニーズの変化

海外からの安価な代替品

需要は減少傾向



リユース・リサイクルの課題を
どう乗り越えるのか¹⁹

リユース
輸出ルート
の
減少

リサイクル
代表的な用途
の
需要が減少傾向

今後もさらに
先細りが懸念される

新たなリサイクルの形が必要

固形燃料²⁰

主に製紙会社やホテルの
ボイラーに用いられる**固形燃料**

市民
市役所
行政
工場

(写真 金)

固形燃料推進に伴う課題²¹

①コストがかからない
取り組みはないのか？

②衣料品の素材に関する課題を
どう扱うか？

私たちが**学生**にできることは？

アップサイクル²²

(MOECCO BRAND)

アップサイクルとは²³

反毛

ウエス

DOW
N

UP

(アトスケープ 2016年/写真出典元: RDF, MYLOHAS, roomie)

アップサイクルの意義²⁴

アップサイクル製品には、
新たなデザインによって
モノをすてない生活ができることを
人々に気付かせる効果が期待できる。

ニッセイ基礎研究所 (2013) 「『すてる』と『つくる』をつなぐ仕事」
社会研究部門准主任研究員 塩澤 誠一郎

アップサイクルの意義 25

リサイクルを伸ばそうと思ったら
**アップサイクルしないと
もう伸びない**



繊維リサイクル技術研究会委員長
京都工芸繊維大学名誉教授
本村 隆夫氏
インタビュー(2016年9月14日)


**ライフサイクルを考える
きっかけになる**



一般社団法人
リ・ファッション協会理事長
鈴木 純子氏
インタビュー(2016年9月20日)

アップサイクルの認知度 26

知っている 5.4%



**アップサイクルの
認知度は低い**

知らない 94.6%

全: 556件
衣料班作成アンケート調査より
(2016年9月27日時点)

衣料班が考える アップサイクルの効果 27

アップサイクル推進

↓

衣料品を大切に

↓

長期

衣料品リサイクルの推進



提案します！

「立川」アップサイクル 推進運動 29



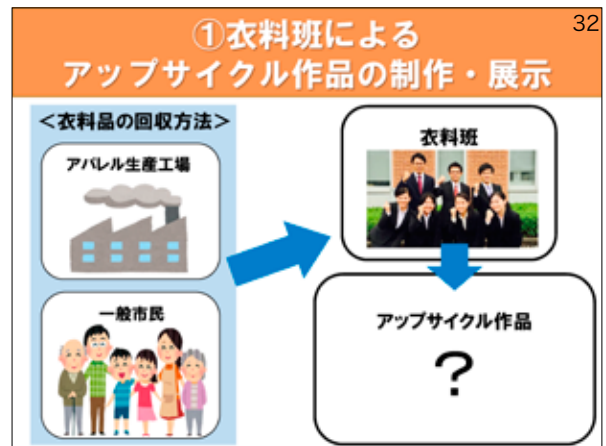
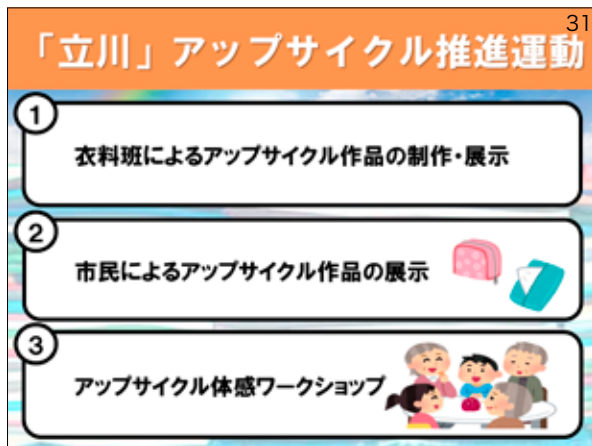
「立川」アップサイクル推進運動 30

ビジョン

立川が**衣料品リサイクルのモデル都市**となり、
多摩地域全体を盛り上げる

目的

「アップサイクル」という概念から
“**衣料品を大切に**する心”を育み、広げる



37

TACHIKAWA FASHION WEEK

LUMINE
GRANDUO
SETAN
Takashimaya

出展決定!

TACHIKAWA FASHION WEEK MAIN EVENT

TACHI fes
- HAPPY SMILE DAY -

ドレス

38

BOOTH

UPCYCLE PROJECT

「誰が好きなもアップサイクル」

UPCYCLE PROJECT

poster・chirashi

公式ガイドブック

facebook

twitter

Instagram

39

立川ファッションウィーク出展の課題

①お互いのニーズにあったブースの出展

②人々を惹きつける作品の制作

40

①お互いのニーズにあった
ブースの出展

5MEDIT
grandpoint
LUMINE
TACHIKAWA

2回の打ち合わせ

50往復に渡る
メールのやり取り

イベント運営窓口
ルミネ立川店

イベント関係者

41

②人々を惹きつける作品の制作

【打ち合わせ】

【打ち合わせ後】

作品のデザイン性が重要

SNS

デザイナーを募集

一般市民

5MEDIT株式会社
阿部泰祐様

武蔵野美術大学デザイン専攻の学生に
デザインを依頼することに決定!

42

TACHIKAWA FASHION WEEK MAIN EVENT

TACHI fes
- HAPPY SMILE DAY -

2016年11月6日
立川ファッションウィーク

BOOTH

UPCYCLE PROJECT



43



44



45



46



47




48

49

イベント関係者の声

立川の魅力を一番伝えていたブースでした。
(ルミネ立川：山中弘也様)



また一緒に別のイベントを開催しましょう。
(イベント責任者：竹内惇様)



50

広報活動

ポスター **大学内に5か所**

Instagram **フォロワー数：64人**

Twitter **フォロワー数：117人**

Facebook **ページいいね数👍：154人**
投稿最大リーチ数：2219人



(2016年12月12日時点)

51

広報誌への掲載

立川を盛り上げる 創価大生のファッションショー
新しいリサイクル方法でドレスを織織 立川市で創価大・近畿朝大生が製作



11月30日発行『ネットワーク多摩広報誌』に掲載

多摩地域にもアップサイクル推進運動の拡大

52

官民学でのプロジェクト実施

市役所 Shopping Mall 官立川市 民商業施設 学衣料班


アップサイクル推進運動

53

専門家の声

アップサイクルの認知拡大を学生がするのは初めて。

繊維リサイクル推進には、皆様のように若い方々の緻密な努力が必要です。



繊維リサイクル技術研究会委員長
京都工芸繊維大学名誉教授
本村隆夫氏
メールによる問い合わせ2016年11月20日

54

活動報告書

アップサイクルプロジェクト



55

立川を中心に他の多摩地域にも

立川市	八王子市
<ul style="list-style-type: none"> ・市役所 ・エキュート立川 ・トレジャーファクトリー ・ららぽーと立川立飛 ・Park Avenue ・フロム中武 ・ファール立川 ・昭和記念公園 ・たましんRISURUホール ・IKEA 	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所 ・創価大学

56

立川市役所での展示

立川市（立川市役所）：11月7日～14日




57

創価大学での展示

八王子市（創価大学）：11月24日～27日



58

これまでの活動

- 9月 TFW打ち合わせ、出展決定
- 10月 TFW準備・広報活動開始・学内衣料品回収
- 11月6日 TFW出展
- 11月7～11日 立川市役所展示・創価大学内展示
- 11月24～27日 創価大学内展示

アップサイクルの認知拡大に貢献！

59

今後の展望

ドレス展示・ワークショップの開催
(12月21日(水)17時～)




60

今後の展望

立川エキュートでの展示
(2017年1月28・29日)





立川を、多摩地域を
「衣料品リサイクルのモデル都市」へ!



61

ご協力いただいた行政・企業・団体様
(順不同)

《企業》 Terra Cycle イオンリテール株式会社 株式会社高島屋 株式会社キングファミリー 株式会社オンワード樺山 株式会社チコマ ナカノ株式会社 キムラセイ株式会社 ワコール 株式会社フコク オリックス資源循環株式会社 麗レディース 呉服のほっとすべーす中屋 テーラー安武 よしどめ洋服病院 興住酒店 美濃屋商店 本でレザ きものにしわ きものと着くらた マアコン西八王子	伊勢屋衣料店 原宿ファッション(株) 有限会社大塚 株式会社美ショウ 株式会社杉本フリーブ 株式会社奥田染工場 有限会社大原染物 小谷田テックス株式会社 軍本染工務 山村 林染染工株式会社 フジテックス 株式会社水口テクノス 株式会社高岡衛生公社 SUIT SELECT TACHIKAWA AVIREX 立川 ロベビクニツク ルミネ立川店 Clacparic 立川店 ハニースCC 立川店	《NPO, その他団体》 日本化学繊維協会 社団法人 日本アパレル産業協会 NPO法人 サ・ビーブル NPO法人 ファイバーリサイクル推進協会 一般社団法人 日本リ・ファッション協会 一般社団法人 繊維リサイクル協会 PKリサイクルセンター 一般社団法人 廃棄物資源循環学会 環境カウンセラー若道ひさ子「桜輪桃李」 八王子繊維工業組合
---	---	--

62

参考文献

63

- ・一般社団法人産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センター
<http://www.cic.or.jp>
- ・一般社団法人廃棄物資源循環学会 (2010) 『MW学会誌・論文誌』
<http://ismcw.or.jp/journal/?journal=no-3-%E8%A1%A3%E9%A1%9E%E3%81%A8%E3%81%94%E3%81%BF-%E2%80%95%E3%81%8A%E3%81%97%E3%82%83%E3%82%8C%E3%81%A8%E7%92%B0%E5%A2%83%E2%80%95>
- ・ウェストリサーチ (2016) 1月号 (閲覧日2016年7月31日)
http://waste0044.sakura.ne.jp/16_01_ho/16_01_honmon.html
- ・環境省 (2013) 『循環型社会形成推進基本計画』
https://www.env.go.jp/recycle/circul/keikaku/keikaku_3.pdf
- ・キムラ繊維 株式会社 (2013) 繊維リサイクルの“今” (閲覧日2016年6月17日)
<http://kimura-senico.jp/recycle/>
- ・経済産業省 (n.d.) 『循環型社会形成のための法制度政策』
http://www.meti.go.jp/policy/recycle/main/data/pamphlet/pdf/handbook2006_2.pdf
- ・古紙ジャーナル (2013) 『日本はマレーシアと韓国向が大卒を占める韓国と中国は東南アジアとアフリカへ輸出』 (閲覧日2016年7月31日)
<http://kosinhl.co.jp/backnumber/1364/>

参考文献

64

- ・酒井豊子 (n.d.) 東洋紡シリーズ 繊維ガイド 「衣服の消費と廃棄」
https://www.lstage.lst.go.jp/article/transitmsj1972/50/11/50_11_P610/_pdf
- ・新電力ネット (2016) (第一資料: 中小企業基盤整備機構)
<http://pps-net.org/intercolumn/clothes-recycling>
- ・立川市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画 ~ 未来へつなごみをつくらないライフスタイル ~ (2015)
<https://www.city.tachikawa.lg.jp/gomitaikaku/kurashi/gomi/shisaku/documents/gomisyonkikonkeikaku.pdf>
- ・特別非常利活動法人 日本救済医療センター (2015) (閲覧日2016年8月10日)
<http://www.jrcc.or.jp/works.html>
- ・独立行政法人 中小企業基盤整備機構 (2010) 『繊維製品3R関連調査事業』報告書
http://www.smri.go.jp/keiei/dbos_data/_material/_common/chushou/b/keiei/keieiseni/pdf/53267-01.pdf
- ・ナカノ株式会社 (n.d.) 『繊維リサイクル製品製造』 (閲覧日2016年6月20日)
<http://www.nakano-inter.co.jp/recycle/>
- ・日経ビジネスオンライン (2012) 『古着の運動はもう沢山』 (閲覧日2016年7月28日)
<http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20120514/232001/?P=1&rt=ocnt>

参考文献

65

- ・ニッセイ基礎研究所 (2013) 『『すてる』と『つくる』をつなぐ仕事』 社会研究部門主任研究員 塩澤 誠一郎
http://www.nri-research.co.jp/files/topics/40546_ext_18_0.pdf?site=nri
- ・BE INSPIRED (2015) 『ファストファッションが実は『高級品』なワケ』 (閲覧日2016年7月8日)
<http://beinspiredglobal.com/fast-fashion-is-overcosted>
- ・Ethical Fashion Japan (2015) (閲覧日2016年6月3日)
<http://www.ethicalfashionjapan.com/about-ethical/upcycle-reclaim/>
- ・LUXEYS (n.d.) 『LATTE FASHION』
<https://latte.la/fashion/shop/list/area/1323>

質疑応答

66

3 Rの定義 67

- Reduce(リデュース) : 廃棄物の発生抑制
- Reuse(リユース) : 再使用
- Recycle(リサイクル) : 再生資源の再使用

(3R活動推進フォーラム)



焼却によるCO2排出量 69

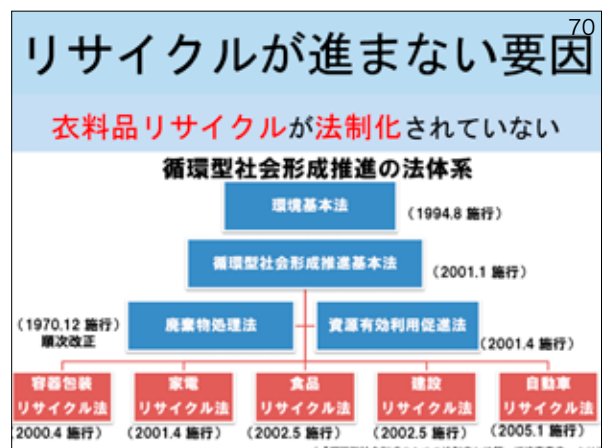
焼却されている衣服 **60.328万t** = CO2排出量 **453万t**

CO₂排出量 **453万t**

杉の木1本あたりCO₂吸収量**14kg**

• $\frac{4530000 \text{ t}}{14 \text{ kg}} = \text{約} 3 \text{億} 2400 \text{万本}$

(環境省「見える化ツール」より衣料品独自)



審査委員のコメント 講評**三井不動産株式会社 開発企画部 環境創造グループ長 雨宮克也氏**

皆さん、お疲れさまでした。今日は審査員ということで参加させていただきましたが、本当にびっくりしています。皆さんのレベルの高さと熱意、本当にもう発表の1つ1つが非常に頑張った姿がよく見えました。

私たち実業界では、どうしてもビジネスモデルを考えていく中で、アカウントビリティ（説明責任）を考えていると、どんどん委縮してしまいます。それでよく、ビジネスの現場で「米が大吟醸になる」と言いますが、いろいろなものが取れていって最後になかなかビジネスとしても難しいところにいたりするんですね。今日、皆さんの発表を聞いて、若いエネルギーで、その辺の入り口を少し感じながらも自由に色々発想し、先生のご指導を受けながらこの場に来たということが非常に分かりました。この時期のこの体験は非常に貴重だと思いますので、大事にしてほしいと思っています。

創価大学西浦ゼミ衣料班の発表については、私も本当にこれは面白いと思いました。アップサイクルという発想で、あれだけの取り組みをした。そこから実社会に自ら行って、いろいろなことを社会と接点を持って実装しています。それで、モデルとして立ち上げるということを実践されているのが、学術的研究ではなくて、本当に実学として立ち上げているところが、非常に素晴らしいと思いました。

ただ、ここからまた難しいところがあって、今回非常に素晴らしい花火が打ち上がり、これから現れるであろう、コストや世の中の荒波があります。ただ、それを非常にきれいな形で打ち上げて、これからその悩みに突っ込んでいくという意味でも非常に意味があると思います。ですから、この研究と取り組みをフォローして、まず、先ほど西浦先生がおっしゃったように、ネットワーク多摩のネットワークの中でいろいろなものを解決していけたらというふうに思います。大変期待のできる内容でしたので、今後更に期待をして、私のコメントとさせていただきます。本当にありがとうございました。

No.3	東京経済大学 山本ゼミナール MIZU×TAMA班
	優秀賞

瑞で繋がる多摩のまちづくり

～MIZU 沁み渡る TAMA らない旅プロジェクト～



メンバー 松本真季 三上琴絵 宮山祐貴 大河原翔 輿石瑞希 中山博喜 横溝裕美
指導教員 山本聡

発表概要

本活動では2015年度の内容を発展させ、地域全体をアピールすることにより、東村山市の地域活性化を図ろうとした。その活動内容をPDCAサイクルに沿い、発表した。まず、人口が減少する中では定住が必要である。よって、人と地域の関係性に関して、指標を作った。次に学生に可能な地域活性化活動に関して、現実的・具体的に考えた。そして、学生に出来ることは、地域の恋人を作ることとした。以上より、交流人口に着目し、企画考案・実施をしていく。パイロットスタディーとして、東村山市を選択した。交流人口を増やす為には、地域資源が必要だと考え、2015年度の研究や2016年度のヒアリング結果を踏まえ、地域資源を『瑞(みず)』とした。そして『MIZU 沁み渡るTAMA らない旅』と題して街歩きを3度行った。インタビューやアンケートを行いその都度、改善点・課題を見つけ、課題解決のために、多摩地域内外の方々と広く繋がりを築いた。街歩きの結果、人と地域の関係性を、他人から恋人まで引き上げることに成功した。その後、より多くの方を呼びみたいと考え、地域外で企画を行い、地域内に興味を持っていただくための企画を考案・実施した。2017年度からは地域外で企画を行い、地域内により多くの人を呼び込む活動をしていくことにする。

活動の目的

過年度、日本酒を軸に地域活性化施策を提案した。しかし、日本酒を中心にする、地域全体をアピールしていくことはできない。そこで、本年度は日本酒を造る際に重要となる水に着目し、地域全体をアピールするために、当該研究を発展させている。多摩地域は、水が豊富で、地域の様々な物事は水をキーワードに結びつけられる。水を地域資源ととらえ、酒や森や田畑、農産物とともに情報発信する。その上で、多摩地域は豊かな水に関連した魅力的な場所や文化があると地域内外の方に知ってもらおう。そうすることで、人口減少が進む中で、交流人口増加による地域活性化を図る。同時に、地域や人と関係を深める体験も提案し、再訪したくなるまちづくりを目指す。本研究ではフィールドとして、東村山市を設定し、東村山の文物や人と関係を深める為の体験を提案することで、東村山の恋人をつくることを目的としている。また、東京の中心でもある千代田区と繋がりを持つことにより、東京の社会人・外国人が、多摩地域に来訪するきっかけづくりを考案する。そうすることで、都心部から多摩地域に人の流れをつくる仕組みをつくれるよう尽力する。

活動の内容・様子

MIZU×TAMA プロジェクトは東村山市の魅力をもっとPRするために「瑞」をキーワードにしてツアーを考案・実施して、観光客を誘致する。ツアーを考案する際には自分たちが実際に足を運び、東村山市の魅力が十分に伝わるようなプランを組むように取り組んでいる。また、ツアーを開催するごとにアンケートを取ることで、ツアーの内容を改善していった。アンケートで発見した課題に対して、東村山市役所や豊島屋酒蔵、富士ゼロックス、多摩信用金庫、奥多摩わさび栽培組合などの多くの外部組織と連携をし、課題を解決していった。PDCAサイクルを常に意識して継続的に活動をしていくことで、実際にツアーの参加者からアンケートを通じて「また参加したい」という回答を得ることが出来た。



活動の成果

ツアーの実施を経て、都心との差別化ができ、東村山の瑞を印象付け、その瑞の歴史や文化に興味をもたせる事ができた。食での広域連携により、東村山市以外の多摩地域にも興味を持たせることができた。また、PDCAサイクルを回し続けた結果、様々な課題を発見し、課題に取り組むことができた。課題解決において、東村山市内、多摩地域、都心の組織と広く連携した。その結果、観光客を多摩地域外からも広く誘致し、他人から恋人にする事ができた。街歩きの参加者は都心の方が多く、都心から多摩地域への人の流れを作ることができた。さらに、出張MIZU×TAMAの実施により、より多くの人を地域内に呼びかけを作ることが可能だとわかった。

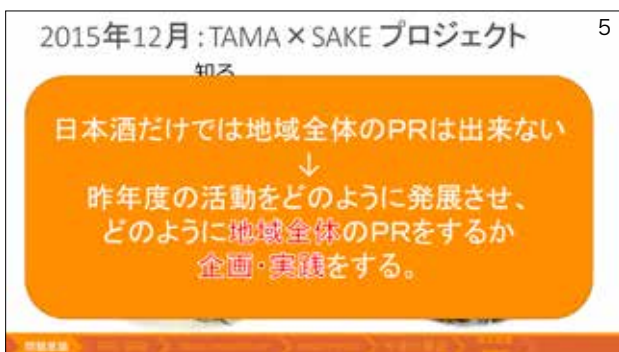


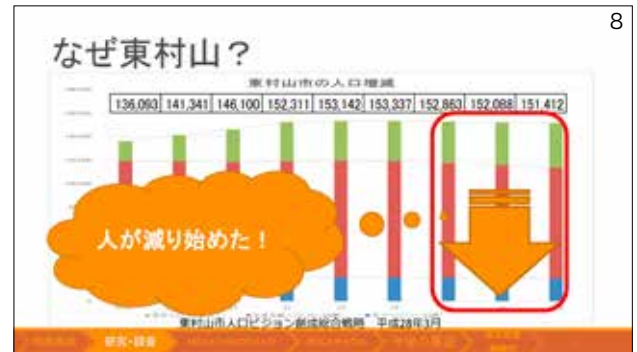
参考文献

- [1] 地域活性化マーケティング」宮副謙司 (2014.11.20)
- [2] 「ソーシャルメディアマーケティング」小川浩 小川和也 (2010.25)
- [3] 「水と心のネットワーク」山田健治 木村一夫 川合千代子 (1995.4.10)
- [4] 「地域に求められる人口減少対策」平修久 (2005.3.26)
- [5] 「人口減少時代の地域経営」海野進 (2014.3.31)
- [6] 「観光誘因と観光資源の地域的特性と普遍的価値」佐々木宏茂 (2006.4.15)
- [7] 「地域ブランドマネジメント」電通abicproject編 (2009.6.20)
- [8] 「広域計画と地域の持続可能性」大西隆 (2010.3.26)
- [9] 観光振興と魅力あるまちづくり」佐々木一成 (2008.2.26)
- [10] 「水ビジネスの再構築」波田幸夫 (2012. 12.29)
- [11] 東村山市人口ビジョン・東村山市創生総合戦略 (2016.3.)
- [12] 公益財団法人 東京都自治調査会 多摩地域データブック
https://www.tama-100.or.jp/category_list.php?frmCd=2-6-1-0-0
- [13] 国土交通白書2015 (<http://www.mlit.go.jp/statistics/file000004.html>)
- [14] RESAS (<https://resas.go.jp/#/13/13101>)

担当教員まとめ

本研究は、東村山市を舞台にして、「日本酒や地場野菜などの地域資源を核にして、交流人口を増やすか」、「どのように地域資源の魅力を地域外に発信するか」といった問いに解答することを目的とした活動です。一見、地味なテーマですが、だからこそ地道で継続的な活動が要求されます。学生は真摯に本活動に向き合い、より良いものにしようとPDCAサイクルを回し続けました。教員の指導の下、学生は東村山市役所、地場農家、郷土史研究者へのヒアリングを何度も繰り返しながら、ツアー内容を考案し、富士ゼロックスや多摩信用金庫といった企業との外部連携から観光客を誘致しました。ツアーは年度中に三回実施し、数十人の参加があり、アンケートを行った結果、東村山市の好感度を上げることに成功しています。また、予選でのコメントを踏まえ、ゼミで指導・議論した結果、「食の広域連携」や「都心との連携」というコンセプトも打ち出すようになり、その活動・連携は千代田区や奥多摩町にまで及びました。これらの活動の記録は富士ゼロックスの協力から、冊子媒体としてまとめ、発刊もしています。本研究活動は教員のサポートだけで成しえるものではなく、外部の様々な方々から大変なご支援を賜っています。この場を借りて御礼申し上げます。





定住 = 結婚

人と地域の結婚とは・・・

Q 人がある地域と密接な関係になる事は、人と人が密接になるプロセスと同じではないか

好意の度合い	人と人	人と地域
低い	他人 知人 友人 恋愛対象 恋人	知らない 名前を知っている 地域の良さと特徴を知る 更に知りたいと感じる 自分の生活に身近に感じる
高い	婚約対象 婚約	リポーターになる 人に紹介したくなる・連れてきたくなる 諸々検討し、定住

人と地域の結婚とは・・・

Q 人がある地域と密接な関係になる事は、人と人が密接になるプロセスと同じではないか

学生として、知人・婚約を増やすのは難しいが、**他人から恋人にする事ができるのではないか？**

↓

東村山市の基本的方向4つ中2つ
「地域の個性を活かしたまちづくり」「ファンの醸成」に
貢献可能



13

多摩地域の地域資源

多摩地域の水は・・・

たまへん

山(自然)

瑞

清たいをすもま女の姿

麗しい・清らかなといった意味での水美しく生気があってみずみずしい

研究・調査

14

交流人口を増やすために

知る 調べる 行く 体験する 関係づくり

広報が行き届いていない

再訪を促す

【地域ブランドマネジメント】
電通abcproject編 (2009.6.20)

研究・調査

15

交流人口を増やすために

知る 調べる 体験する 関係づくり

キーワードは
PDCAサイクル
外部連携

広報が行き届いていない

再訪を促す

【地域ブランドマネジメント】
電通abcproject編 (2009.6.20)

研究・調査

16

MIZU
TAMA

研究・調査

17

MIZU染み渡るTAMAらない旅プロジェクト

【目的】 東村山市の志人をつくる

【想い】

- 東村山市の魅力を探るキーワードに紹介する事で、地域全体をPRしたい。
- 都内にありながらも、自然やそれによる文化が残されている、東村山市の魅力を知ってもらい、訪れて欲しい。

【内容】

- 旗をキーワードにツアーを考案・実施し、観光客を誘致する
- ツアー内容・各地域の種にまつわる名産やスポットをFacebookで情報発信
- PDCAサイクル
- 外部連携 } ツアー内容改善

MIZU・TAMA PROJECT

18

知る

MIZU染み渡るTAMAらない旅プロジェクト
～東村山市の魅力を発信する～

研究・調査

調べる 19

MIZU×TAMAゼミナール

体感する 20

見る・聞く 間接的 食べる・飲む

MIZU×TAMAゼミナール

関係づくり① 21

MIZU×TAMAゼミナール

関係づくり② 22

ツアーをfacebookに記録
 →体験者の生の声を発信
 →コンビニのネットプリントで、
 思い出をどこでもプリントアウト可能

↓

記録の記憶化により新たな関係づくり

MIZU×TAMAの活動をアルバム化
 富士ゼロックスのR&Dスクエアに展示
 多摩支部長、プロジェクトにお力添え頂い
 た方のコメントを頂いている

MIZU×TAMAゼミナール

関係づくり② 23

ツアーをfacebookに記録
 →体験者の生の声を発信
 →コンビニのネットプリントで、
 思い出をどこでもプリントアウト可能

↓

自主的な情報発信・再訪
 の仕組みづくり

関係づくり

MIZU×TAMAの活動をアルバム化
 富士ゼロックスのR&Dスクエアに展示
 多摩支部長、プロジェクトにお力添え頂い
 た方のコメントを頂いている

MIZU×TAMAゼミナール



Plan 25

第一弾SAKE香るTAMAらない旅プロジェクト

自然が豊かでのどかな東村山の酒と風景は都会で疲れている人の癒しになるのでは
→この時は、酒(SAKE)が中心

Do 26

SAKE香るTAMAらない旅プロジェクト

【日時】4月23日(土)午後14:00~
【場所】東村山市
【ターゲット】都会で疲れている女性(30代)・日本酒が好きな方
【目的】東村山の瑞を知り、再訪・自発的に情報を広めてくれる人を増やす
【概要】八国山(トレンキング)→北山公園(水田が広がる)→賣売所(農家の方と交流)
→昇天池公園(湧水公園)→登真屋酒造(自野菜と地酒を堪能・職人との交流)

Do 27

SAKE香るTAMAらない旅プロジェクト

【日時】4月23日(土)午後14:00~
【場所】東村山市
【ターゲット】都会で疲れている女性(30代)・日本酒が好きな方
【目的】東村山の瑞を知り、再訪・自発的に情報を広めてくれる人を増やす
【概要】八国山(トレンキング)→北山公園(水田が広がる)→賣売所(農家の方と交流)
→昇天池公園(湧水公園)→登真屋酒造(自野菜と地酒を堪能・職人との交流)

瑞に囲まれている

Check 28

第一弾を終えて
(参加5名:富士ゼロックス/JR東日本)

▶改善点
●酒が中心となってしまふ
●壮年男性に偏ってしまふ

▶第二弾に向け
●『瑞』というコンセプトを提案
●アンケートとビデオ・インタビューの記録・分析から、PDCAを回す

Action 29

第一弾MIZUしみ渡るTAMAらない旅プロジェクト
～東村山で癒しを～

東村山市の瑞の歴史や文化をツアーに取り入れる

Action 30

MIZU TAMA

むらまち結び
奥多摩わさび栽培組合

Plan Do 31

MIZUしみ渡るTAMAらない旅プロジェクト
～潤いのある東村山で癒しを～

【日時】
【場】
【タ】
【目】
【機】

東村山の『瑞』の印象を強める
↓
『瑞』を3方向から体感

【機】

Plan Do 32

MIZUしみ渡るTAMAらない旅プロジェクト
～潤いのある東村山で癒しを～

【日時】 8月27日(土)午前9:30～
【場所】 東村山市
【ターゲット】 都会で疲れている女性(30代)・日本酒が好きな方
【目的】 東村山の瑞を知り、再訪・自発的に情報を広めてくれる人を増やす
【概要】 郷土研究会会長大井様とその地の歴史をお話し頂きながら
瑞文橋→大善院(僧侶と対談)→井天池公園(湧水公園)→直売所(農家の方と交流)
野口製糖所(武蔵野うどん塔屋)→北山公園(水田が広がる)→
豊島屋酒造(自搾りと地酒を堪能・職人との交流)
【検証内容】 ① 瑞を感じるか
② 瑞によって癒されるか

Check アンケート結果① (n=10) 33

水の印象は強まったか

+5	10%
+4	30%
+3	20%
+2	10%
+1	10%
0	10%
-1	0%
-2	0%
-3	0%

水の歴史に興味を持てたか

+5	10%
+4	10%
+3	20%
+2	10%
+1	20%
0	20%
-1	0%
-2	0%
-3	0%

癒しを感じられたか

+5	10%
+4	10%
+3	10%
+2	10%
+1	10%
0	10%
-1	10%
-2	10%
-3	10%

0・・・変わらない
+1・・・やや強まった
+3・・・強まった
+6・・・大変強まった
-1・・・やや弱まった
-3・・・弱まった

Check アンケート結果① (n=10) 34

① 水の印象・歴史への興味を持たせることが出来る
② 水と癒しの関係は強いと考える人は多いが
天候・季節に大きく左右される
→ 東村山の瑞は観光資源として有効
→ 水への関心は上がったが癒しではないのでは
-3・・・弱まった

Check 35

ビデオインタビュー
地域活性化の資源として生の声を記録



Check 36

ビデオインタビュー
地域活性化の資源として生の声を記録

- ▶ 酒蔵がモチベーションの参加者が多い・最も瑞を感じている
- ▶ 旬の風景や食材が欲しい
- ▶ ツアーに対していくらまで払えるか
 - 2,000～2,500円
 - 今回実際費用: 1,000円程度
 - 採算がとれる



Check 37

まちづくりコンペ予選のフィードバック

▶改善点

- 広域地域連携
→東村山以外の地域も巻き込んだ活動が必要
- インバウンド



Check 38

第二弾を終えて

(参加10名：富士ゼロックス/多摩信用金庫)

▶改善点

- 旬を意識
- 広域連携を考える
- 瑞について新たな解釈を考える
- 集客に関して、企業の協力が大きい

▶今後の展望

- 季節に合わせてツアーの企画・開催
- 食による広域連携を考案
- 学生によるイベントの広報活動

Action 39

MIZUしみ渡るTAMAらない旅プロジェクト ～潤いのある東村山で癒しを～

食での広域連携
↓
食材探し・調達をする
旬をツアーに組み込む

Action 40

わらまち結び



Plan 41

MIZUしみ渡るTAMAらない旅プロジェクト第三弾



Plan 42

MIZUしみ渡るTAMAらない旅プロジェクト第三弾

多摩地域の瑞にまつわる食材を酒蔵にて提供・産地説明
・東村山市の産物と重複しない
・酒の肴になる

↓

東村山市を観光にした交差点の促進
「東村山市に行けば!!!」

Do 43

MIZU沁み渡るTAMAらない旅プロジェクト第三弾

【日時】11月28日(日)午後13:00～
 【場所】東村山市
 【ターゲット】20代
 【目的】多摩の場所を知り、再訪・自発的に情報を広めてくれる人を増やす
 【概要】程文橋→大善院→弁天池公園(湧水公園)→道玄所→北山公園(水田が広がる)→
 八国山緑地→豊島屋酒造(自野菜と地酒を堪能・産人との交流)
 【検証内容】①都心と差別化が出来るか
 ②水の印象・歴史に興味を持たせることが出来るか
 ③食の地域連携により、他の地域へ興味を持てるか
 ④友人～恋人とのステップまでいけるか

Do 44

MIZU沁み渡るTAMAらない旅プロジェクト第三弾

Check アンケート結果 (n=6) 45

水の印象は強まったか 水・歴史に興味をもてたか 食材調達先にも興味を持てたか

強	17%
やや強	17%
やや弱	17%
弱	17%
不明	33%

強	17%
やや強	17%
やや弱	17%
弱	17%
不明	33%

強	17%
やや強	17%
やや弱	17%
弱	17%
不明	33%

※色が濃いほど肯定的

Check アンケート結果 (n=6) 46

再び東村山市を訪れたいか 紹介したいか・聞きたいか

強	17%
やや強	17%
やや弱	17%
弱	17%
不明	33%

強	17%
やや強	17%
やや弱	17%
弱	17%
不明	33%

Check アンケート結果 (n=6) 47

- ①都心との差別化が出来る
→参加者の声「東京とは思えない」・「東京にもこんな場所が・・・」
- ②水の印象・歴史への興味を持たせることが出来た
- ③食の地域連携により、他の地域へ興味を持たせることが出来た
- ④他人から恋人までは引き上げる事が可能

Check 48

第三弾を終えて

▶改善点

- 東村山を全く知らない方をいかに呼込むか
- 集客において外部組織との連携関係強化
- 都心・多摩地域との連携強化

▶今後の展望

- 外部連携の強化

49

Action

50

Action

都心の外部連携強化

▶むらまち結び

●千代田区を拠点に都心部と地方をつなぐ活動

51

Action

MIZUしみ渡るTAMAらない旅プロジェクト

来ないのであれば
こちらから行こう!

52

Action

出張 MIZU × TAMA@たましん

【日時】12月9日(金)

【場所】多摩信用金庫

【目的】多摩の産を知り、再訪・自発的に情報を広めてくれる人を増やす
友人・恋愛対象を増やす

【概要】多摩地域の産にまつわる食材を提供し、その産地に興味・関心を持っていただき、
来訪のきっかけをつくる。

【検証内容】
実際に足を運ばなくても地域に興味を持てるか
行きたいと思うか
連携強化の提案→多摩らしい倶楽部

53

Action

出張 MIZU × TAMA@たましん

54

今年度の
MIZU × TAMAプロジェクトまとめ

- ▶ 原村山のツアーの考案
- ▶ 第1弾・第2弾、企画・実施(環のコンセプト、外部連携の拡大)
- ▶ 広域地域連携の必要性
- ▶ 奥多摩山麓による地域連携考案
- ▶ 班員が奥多摩のわさび田を訪問、ツアーにて説明を加え提供
あさる野市のこんにゃく・日野市の醤油なども合わせて提供
- ▶ 第3弾実施
- ▶ 学生の広報力では地域内に人を誘導する事は難しい
- ▶ 出張MIZU × TAMA考案→むらまち結び＆多摩信用金庫との連携強化

審査委員のコメント 講評

森ビル株式会社 都市開発本部総合統括部 メディア企画部 部長 矢部俊男氏

今日のお話を聞かせていただき非常に感心しました。多摩地域の課題ですとか、多摩地域でも少しお仕事させていただいているので、参考になったというのが正直な印象です。

MIZU×TAMA 班の発表についてお話をさせていただきますと、非常にこれは面白い内容で、先輩方がやられた上に、もっと色々今年オリジナルを出すということで苦労されたのではないかという印象を受けました。

とても良くできた内容ですが、1つちょっとこの内容に関して思ったことがあります。なまじっか東村山のことを理解しているので、「瑞」という字を見ると瑞穂町を思い出したり、「水」自身でいくと伏流水で水道を賄っている昭島のこととか、いろんな場所があるので、次回からもう少し範囲を広げた方が良くはないかと思います。

ちょっと余談ですが、私は会社で「福生市のまちづくりのソリューション」の映像を作っていて、それがYouTubeで公開されると思いますので、福生市にある石川酒造さん、田村酒造さん、非常によく存じ上げているので、多摩全体を見渡すということがございましたら、ご協力できると思います。ぜひ、もうちょっと先輩方の上に、更に多摩エリア全体で、奥多摩から東村山のエリアを全部網羅できるような形へ持っていくと良いのではないかと思います。どうもありがとうございました。

No.1	創価大学 勘坂ゼミ チームコネクト
	奨励賞

学生をもっと主体的に!

地域を元気づけるのは学生(君たち)だ!



メンバー 天野紗友莉 大塚幸美 古川安寿花 成沢千帆
指導教員 勘坂純市

発表概要

私たちは女子大学生100人にアンケートを行いました。その結果、9割以上の女子大学生が化粧品を使い切ることができないことが分かりました。このことから、児童館でのリユースワークショップの開催を提案しました。このワークショップの主な内容はリユース教室です。リユース教室では分別体験と手作り体験の2つ体験をすることができます。分別体験では化粧品の正しい分別方法を実際に中高生に試してもらいます。手作り体験では化粧品の中身を簡単に手に入るものと組み合わせ、手作り小物の作成に使用します。また、この施策では女子大学生から化粧品を回収し、リユース教室で使用し、女子大学生が残した化粧品の再利用も可能にしました。次に、このプロジェクトについて独自性、実現可能性、有効性について検証を行いました。八王子市資源循環部ごみ減量対策課の方などにインタビューを行い、独自性があることがわかりました。実現可能性については、児童館での聞き取り調査、創価大学での回収BOXの設置、国営昭和記念公園でのリユースワークショップの開催により、高いと考えました。最後に、有効性については、八王子市内の他大学に回収BOX設置の働きかけを行い、化粧品の回収量と、実際のリユース量を一定にさせることができました。また、昭和記念公園で開催したワークショップの参加者のうち、9割以上が親子の方であり、八王子市の児童館でも、若い親世代を対象とした子育て相談や講座が開催されていることから、親子向けのリユースワークショップを児童館で開くことも有効であると考えました。

活動の目的

私たちの活動目的は、女性にとって日用品である化粧品のごみ削減に貢献することです。2020年に開催される東京五輪・パラリンピックに向けて、東京都知事である小池百合子氏は、「もったいない」を新たなコンセプトにすることを表明しました。これをきっかけに、私たちは、自分たちに身近であるもったいないについて考えました。その際に、チームメンバーの一人が使いきれずに残ってしまう化粧品について取り上げました。これに対し、チームメンバー全員が最後まで化粧品を使い切ることができない経験があることが判明しました。そこで私たちは、女性にとって身近であるもったいない化粧品を再利用することで、ごみの削減に貢献することを考えました。さらに、今回提案した化粧品のリユースワークショップの狙いは、ワークショップ参加者がリユース生活を始める第一歩を踏み出すことです。参加者に化粧品廃棄について伝え、もったいないを浸透させることで、参加者自身が自分の化粧品を最後まで使いきるか、リユースするようになることで、最終的には女性にとって日用品である化粧品のごみ削減に貢献することが目的です。

活動の内容・様子

化粧品は本当に残ってしまうのかを検証するために女子大学生100人に対しアンケートを行ったところ、9割以上が化粧品を使い残してしまった経験があると回答しました。そこで、私たちは2016年9月より本学創価大学の女子化粧室3箇所にアイシャドウの回収ボックスの設置を行いました。また、ごみの削減やもったいない精神の波及などといった目的を達成するために、回収だけで終わらせてしまうのではなく、キャンドル、ワックスバー、紙すきや絵（絵具）

など様々な再利用方法を考えました。今回は再利用方法の1つとして、検証的に紙すきの手作り体験を行うことにし、国営昭和記念公園様のご協力の下、2016年12月10日に開催しました。

活動の成果



実際に本学に設置した化粧品の回収ボックス



絵画(絵具)



紙すき



ワックスバー



キャンドル

アイシャドウを再利用して作成した手作り小物

【13団体、計17回のインタビュー実施】

環境系の学生団体、八王子市役所、八王子市児童館など、私たちの活動に関わる様々な協力者にインタビューを行いました。多数の方にプロジェクトの新規性・独自性を評価していただきました。

【化粧品の回収】

創価大学の女子化粧室3箇所化粧品回収BOXを設置し、回収の実現性を検証しました。結果、10週間で80個(128g分のアイシャドウ)の回収に成功しました。

【リユースワークショップの開催(立川市国営昭和記念公園)】

当日は51名の方にご来場いただきました。化粧品のリメイクについて伝え、今回のワークショップを通して、102g分のアイシャドウをリユースすることができました。



八王子市資源循環部ごみ減量対策課でのインタビューの様子



立川市国営昭和記念公園でのワークショップの様子

担当教員まとめ

チームコネクトは、テーマ設定に手間取りました。つかい残しの化粧品の再利用というテーマを決定したのは、9月頃であったと思います。それからは、意欲的にリサーを進め興味深い提案を行ってくれました。

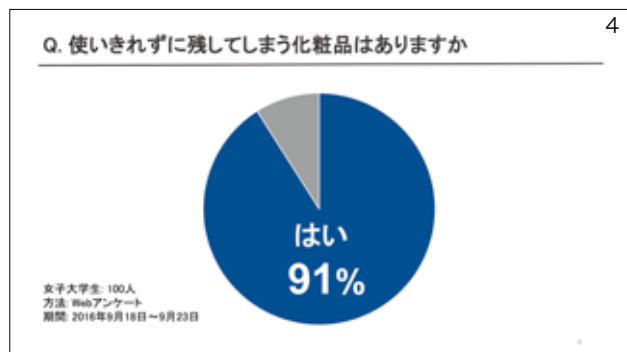
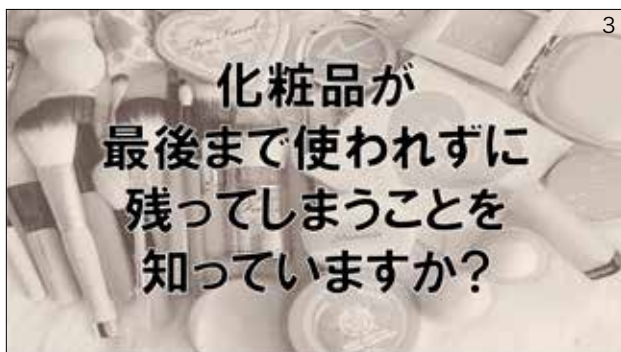
リサーチは、実質的には3年の4月頃からスタートします。それから1、2ヶ月に1回程度で週末に中間発表会を設けます。そこには4年生の先輩や卒業したOB・OGかも駆けつけてくれます。このような機会にもらった様々なコメントも活かし、リサーチを進めてくれたようです。

リサーチの中で私が学生たちに課しているのは、とにかく自分たちの“足”で情報を集めることです。やはり現場に足を運んで、地道にデータを集めることでしか、社会の問題もその解決策も見えてこないことを、実感としてもらいたいと考えています。今回のリサーチでも、自分たちで使い捨ての化粧品を回収したり、児童館を訪問したり、化粧品再利用のイベントを企画する中で興味深いアイデアが次々に出てきました。

さらに、ネットワーク多摩を通して、行政の方からアドバイスをいただけたことも、学生たちにとっては貴重な機会でした。このように地域のなかで学生を育てる仕組みを作ってくださったネットワーク多摩の皆様に深く感謝いたします。

参考文献

- [1] オモタノ「みんな美容にいくら投資してるの？」<http://omotano.jp/20150901/5641>
- [2] 立川市国営昭和記念公園HP <http://www.showakinen-koen.jp/>
- [3] 日刊スポーツ「小池知事、東京五輪で「もったいない」を国際語に」2016年8月26日
<http://www.nikkansports.com/general/news/1700828.html>
- [4] 八王子市「ごみ・資源物量」http://www.city.hachioji.tokyo.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/033/591/28_04_gomi-shigenbutsu.pdf
- [5] 八王子市「資源物・ごみの分別一覧」http://www.city.hachioji.tokyo.jp/dbps_data/_material/_localhost/soshiki/kankyo/gomigen/bunbetunotebiki/27nen4bunbetupeji/66-67.pdf
- [6] 八王子市「児童館利用者推移（年齢別）」http://www.city.hachioji.tokyo.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/030/970/H25-jissekihokoku-riyousyasuu.pdf
- [7] 八王子市中郷児童館 <http://www.city.hachioji.tokyo.jp/fukushi/1166/31269/30785/030794.html>
- [8] 八王子市立中野児童館 お知らせ 小学生号 http://www.city.hachioji.tokyo.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/030/776/28.11nakanojidoukannsyougakuseiosirase.pdf
- [9] 八王子市中野児童館ヤングインフォメーションP A R T 3 http://www.city.hachioji.tokyo.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/030/993/28.10-12nakanojidoukanntyuukouseiosirase.pdf
- [10] BIJOH「化粧品/使用期限/消費期限の一覧」<http://bijoh.com/cosmetics-expiration-date/>
- [11] koko*hana <https://koko-hana1604.amebaownd.com/>



7

現状分析
施策提案
検証
展望

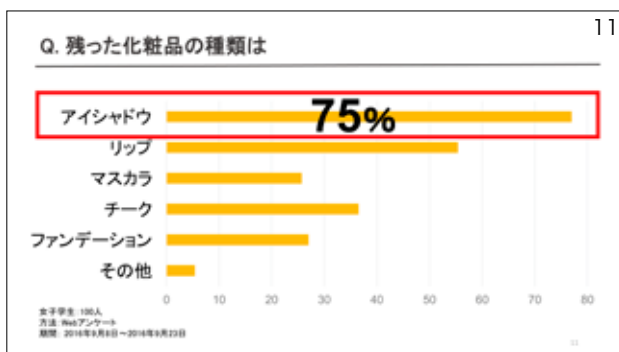
8

現状分析
施策提案
検証
展望

9

新作の化粧品が欲しい
量が多くて飽きてしまう

何をどのくらい残してしまうのだろう...



12

アイシャドウとは


まぶたなど目のまわりに塗って陰影をつけ立体的に見せるための化粧品

アイシャドウの特徴 13

色の種類





色の鮮やかさ




質の安全



残ったアイシャドウの量 14







1/4程度 24%

2/3程度 43%

1/2程度 33%



女子学生100人
方法 90分アンケート
期間 2018年5月8日～2018年6月23日

残ったアイシャドウの量 15



約 **1/2** の量のアイシャドウが
残ってしまう

アイシャドウのロス 16

八王子市の大学に通う女子大学生に換算すると

アイシャドウを 残してしまう女子学生	年間平均 購入数	容器の 平均の重さ	中身の 平均の重さ	平均残量
約 20,504人	× 1.5個	(26g +	5.6g ×	$\frac{1}{2}$)

= 約 **590kg** (年間)

アイシャドウのロス 17

アイシャドウ・チーク・ファンデーションと合わせると

約 **2.04t** (年間)

八王子市のごみ処理基本計画 18

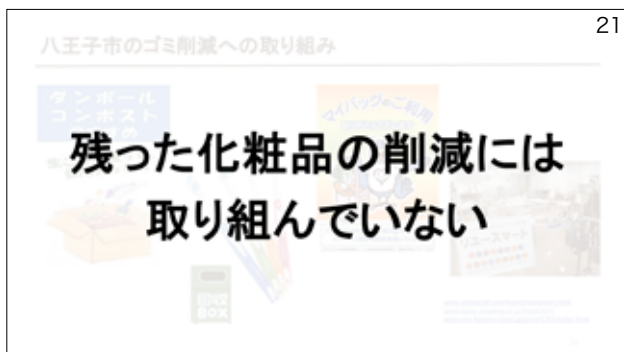
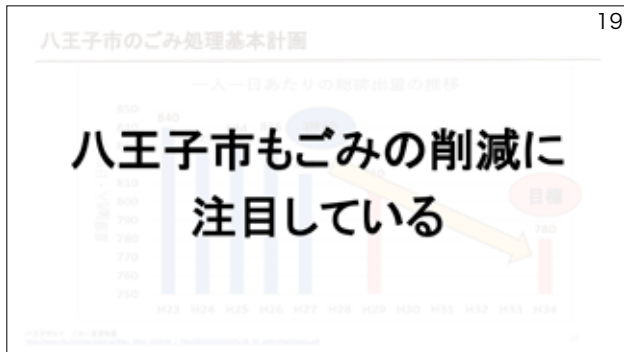
一人一日あたりの総排出量の推移



年度	一人一日あたりの総排出量 (kg)
H23	840
H24	829
H25	834
H26	835
H27	815
H28	810
H29	810
H30	780
H31	780
H32	780
H33	780
H34	780

現状 (H29) → 目標 (H34)

八王子市 2018年度版 資料 2-1-1 環境部



25

- 現状分析
- 施策提案**
- 検証
- 展望

26

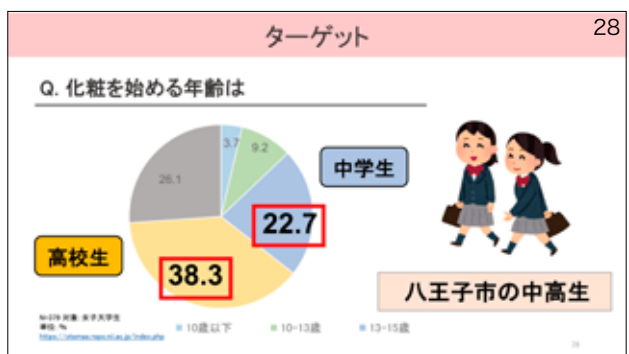
施策提案：リユースワークショップ

- ターゲット
- ワークショップの内容
- 開催場所
- ねらい

27

施策提案：リユースワークショップ

- ターゲット
- ワークショップの内容
- 開催場所
- ねらい



29

ターゲット

Q. 化粧を始める年齢は

早い段階から”もったいない”を意識させる

高校生 38.3

八王子市の中高生

※100名調査、女子大学生
調査日：7月
https://www.city.hachioji.lg.jp/education/

30

施策提案：リユースワークショップ

ターゲット：八王子市の中高生


- ワークショップの内容
- 開催場所
- ねらい

ワークショップの内容 31



リユース教室

リユース教室 32



リユース教室 33

分別体験

Before After




可燃ごみ 資源ごみ

リユース教室 34

分別体験

Before After



可燃ごみ 資源ごみ

リユース教室 35

分別体験

Before After

正しい分別方法を理解



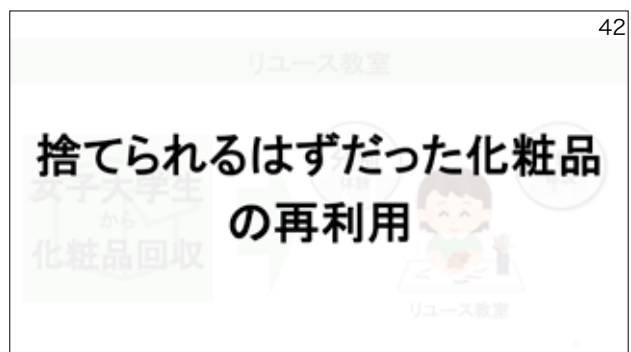
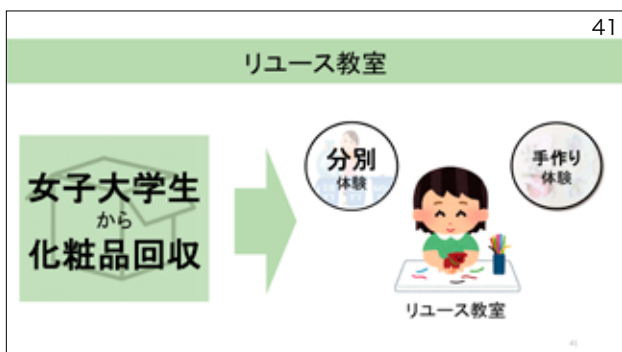
可燃ごみ 資源ごみ

リユース教室 36

手作り体験



化粧品の中身 簡単に手に入るもの



43

施策提案：リユースワークショップ

ターゲット：八王子市の中高校生

ワークショップの目的：リユース教室

開催場所

リユース教室 **ねらい** 八王子市の中高校生

44

開催場所

児童館

リユース教室

八王子市の中高校生

45

開催場所

八王子市の児童館利用者数

	平成23年	平成24年	平成25年
乳児(人)	3,997	5,670	5,414
幼児(人)	23,310	23,227	23,227
1-3年(人)	51,220	57,052	70,091
4-6年(人)	67,234	75,044	81,157
中学生(人)	29,330	34,819	28,093
高校生(人)	7,817	7,874	7,038

46

開催場所

八王子市の児童館利用者数

1か月**266**人の中高生が来館(1児童館)

	平成23年	平成24年	平成25年
4-6年(人)	67,234	75,044	81,157
中学生(人)	29,330	34,819	28,093
高校生(人)	7,817	7,874	7,038

47

開催場所

八王子市の児童館利用者数

中高生にとって親しみやすい場所である

	平成23年	平成24年	平成25年
4-6年(人)	67,234	75,044	81,157
中学生(人)	29,330	34,819	28,093
高校生(人)	7,817	7,874	7,038

48

開催場所

中野児童館

19日(土) お楽しみ手芸

「アイロンピースの飾り地を作ろう！」

クリスマスにぴったりなちいさな飾りを作ります。

29日(火)・30日(水)工作

キャンドル作り-ツインカラーキャンドル-

今年お誕生日ケーキの2色のキャンドルを作ります

27日(火) クッキング

バナナケーキを焼こう！

お菓場で焼く簡単ケーキです。チョコソースやクリームでデコっちゃおう！

10/15(土)

「76-アット-センター」開館

時間：午後2時～4時

定員：先着20名

費用：無料

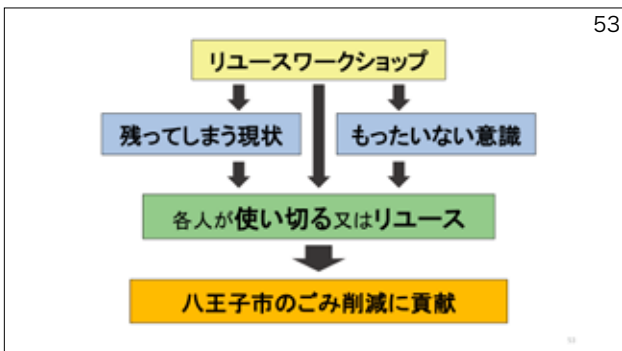
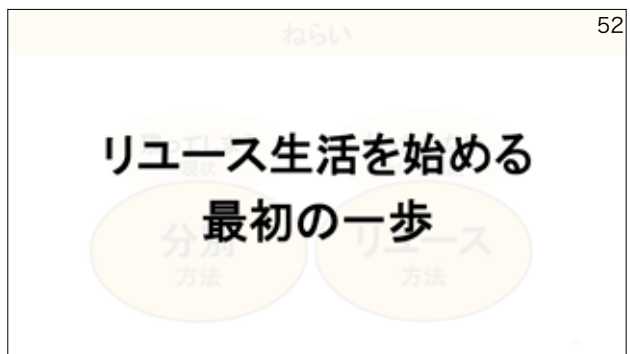
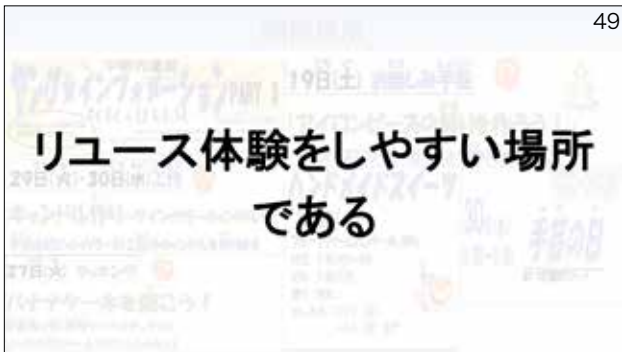
申し込み：10/3(月)～14(金)まで

30日(水)

手芸の日

3:00～5:00

定員：先着20名



55

現状分析
 施策提案
検証
 展望

56

検証

独自性
 実現可能性
 有効性

57

八王子市 資源循環部ごみ減量対策課 川島様、酒井様

女性ならではの観点であり
 新規性があって凄く面白いと思う
2016/10/26(水)

多摩市 リサイクルセンター エコにこセンター 江尻様

中身の回収・再利用は**新しい**
2016/10/29(土)

58

大手化粧品メーカー

化粧品会社としては
 一度販売した化粧品には
 あまり注目していない
2016/10/29(土)

59

検証

独自性
 実現可能性
 有効性

60

ワークショップの 費用
 協力者の 声
 化粧品の 回収
 モデルケース

ワークショップの費用 49

1か月に1度の工作教室の開催

キャンドル教室を開いた場合の1回当たりの費用
(定員30名)

初月にかかる費用	
電気ケトル(ポット)	1,480円×3=4,440円
耐熱容器	108円(8個入り)×4=432円
毎月かかる費用	
ろうそく	108円(12本入り)×5=540円
空きビン	108円×30=3,240円
合計	8,652円

直接片側費、間接片側費、変動費は除く

ワークショップの費用 50

1か月に1度の工作教室の開催

12月 中野区民センター 中野区民センター

初月にかかる費用	
電気ケトル(ポット)	1,480円×3=4,440円
耐熱容器	108円(8個入り)×4=432円
毎月かかる費用	
ろうそく	108円(12本入り)×5=540円
空きビン	108円×30=3,240円
合計	8,652円

ワークショップの費用 51

1か月に1度の工作教室の開催

初月にかかる費用	
電気ケトル(ポット)	1,480円×3=4,440円
耐熱容器	108円(8個入り)×4=432円
毎月かかる費用	
ろうそく	108円(12本入り)×5=540円
空きビン	108円×30=3,240円
合計	8,652円

初月にかかる費用を
最小限に抑えることが**可能**

協力者の声 52

八王子市内の 児童館にインタビュー

(11月21日～25日、中野児童館・南大谷児童館・中郷児童館・浅川児童館)

「浅川児童館を拠点として
八王子市内**12箇所**の児童館に
広げていくことが**可能**」

協力者の声 53

児童館にいた 中高生にインタビュー

(11月21日～25日、中野児童館)

これだけ可愛いものが作れるなら**参加したい**

SNSや**チラシ**で宣伝を行えば集客できそう

化粧品回収 54

使い残した化粧品 → 回収BOXで回収

創価大学に
回収BOXを設置



立川昭和記念公園でワークショップ開催
2016年12月10日

エコでいいなと思いました♪

リメイクできるというのは、はじめてでした。

すきないろでできたからよかった

別の体験ができれば、絶対に参加したいです。

七すかしから、けかんぼんたすないろで、秋からさす。

モデルケース 1

検証

☑独自性

☑実現可能性

有効性

2

女子大学生から使い残りの化粧品を回収

アイシャドウを回収した場合
8個/週 × 4週 × 2大学
= 約64個(月間)
約128g分のアイシャドウ回収

アイシャドウをリユースした場合
約2g/枚 × 51人
約102gのアイシャドウを消費

3

女子大学生から使い残りの化粧品を回収

化粧品の回収量 = 化粧品のリユース量

4

ワークショップの参加者

94% 乳幼児・小学生の子連れ

「化粧品の使い残りに共感できる」

「子どもと一緒に楽しめた」

5

児童館での親子向けの取り組み

✓子育て相談 ✓おむつ袋の配布 ✓子育て講座各種

児童館で親子向けのリユースワークショップ開催

6

7

検証

- ☑ 独自性
- ☑ 実現可能性
- ☑ 有効性

8

- 現状分析
- 施策提案
- 検証
- 展望

9

- 現状分析
- 施策提案
- 検証
- 展望

10

展望

中高生

若い親世代

全ての女性



12

参考文献リスト

- オモタバみんな美容にいくら投資してるの？
<http://omotaba.jp/2015/09/13/341/>
- 立川市国富町記念公園HP
<http://www.shintoshimamachi-koin.jp/>
- 月刊スポーツ小池知事、東京五輪でもっといい！を国際誌に！ 2016年8月26日
<http://www.nhk.com/sports.com/central/news/1100928.html>
- 八王子市環境学官室「エコひろば」
<http://eco-hiroba.jp/>
- 八王子市「こみ・資源物量」
https://www.city.hachioji.tokyo.jp/ken_data/_material/_files/000/000/033/331/23_04_gomi-shizenbutsu.pdf
- 八王子市「資源物・ごみの分別一覧」
http://www.city.hachioji.tokyo.jp/ken_data/_material/_booklist/_sochi/hachioji/sansan/suibotomatsubiki/23henbun-hetubai/30-51.pdf
- 八王子市「児童館利用者様誌(年報版)」
http://www.city.hachioji.tokyo.jp/ken_data/_material/_files/000/000/020/020/342-joshokushokuhu/20moyasaku.pdf
- 八王子市中級児童館
http://www.city.hachioji.tokyo.jp/ken_data/_files/1186/31269/30785/000794.html

参考文献リスト 25

八王子市立中野児童館 お知らせ 小学生号
http://www.city.hachioji.tokyo.jp/files/data/material/_files/000/000/030/776/28.11%28hachiojibokanzyosha%28hachiojirasse.pdf
 八王子市中野児童館ヤングインフォメーションPART3
http://www.city.hachioji.tokyo.jp/files/data/material/_files/000/000/030/993/28.12%28hachiojibokanzyosha%28hachiojirasse.pdf
 Amazon「電気ケトル」
<https://www.amazon.co.jp/>
 BUNO「化粧品/使用期限/消費期限の一覧」
<http://bunob.com/seasonal-expiration-date/>
 Koko*hana
<https://koko-hana1604.amazonaws.com/>

Special Thanks 26

2016年11月21日(月)
 創価大学 理工学部共生創造理工学科
 新津隆士 理学博士

2016年11月21日(月)
 創価大学 地球環境サークル
 森崎様 中水様

帝京大学 児童文化研究会～Step～
 オオクワ様

Special Thanks 27

2016年9月6日(火)/2016年9月20日(火)
 キャンドル体験教室koko*hana 水野様 

2016年10月1日(土)/2016年10月21日(金)
 2016年11月10日(木)
 国営昭和記念公園 堀田様、中込様、関様 

2016年10月12日(水)
 八王子市学園都市文化課 山野井様

Special Thanks 28


2016年11月21日(月)
 八王子市立浅川児童館 セキド様 


2016年11月22日(火)/25日(金)
 八王子市立中野児童館 井垣様 

2016年11月23日(水)
 八王子市立中郷児童館 

2016年11月23日(水)
 八王子市立南大谷児童館 

Special Thanks 29

2016年10月22日(金)
 八王子市北野余熱利用センター
 あったかホール 大前様、渡辺様 

2016年10月26日(水)
 八王子市ごみ減量対策課
 川島様、酒井様 

2016年10月29日(土)
 リサイクルセンター エコにこセンター
 江尻様

質疑応答用資料 30



八王子市職員の件数

平均給与月額	471,755円
勤務時間(月間)	155時間
時給	3,043円

出典: <http://www.jichiro8.net/html/2/2,11.html>
http://www.city.hachioji.tokyo.jp/dbox_data/material/_files/000/000/032/091/27kyuuyotein.pdf

化粧品の使用期限について

開封前	開封後
製造日から3年以内	3~6ヶ月

空気に触れると**劣化**(品質低下)する

出典: <http://www.ci-labo.com/item/bodycare/hoshitsucreamdummy/article/00000085/>

捨てられるはずだった化粧品の削減(年間)

$8 \times 4 \times 12 \times 2 = 768$
個 箱 月 大学 個

$768 \times (26g + 5.6g \times \frac{1}{2}) = 22,118g$
容器の重さ 中身の重さ 平均残量

年間**22kg**分のごみの削減が可能！

ワークショップは中高生に対して需要があるのか？



多くの中高生が集まる場でのブース設置

近くの児童館での“リユース工作教室開催”の宣伝

中野児童館開き取り調査(2016年11月25日)
 出典: http://www.city.hachioji.tokyo.jp/dbox_data/material/_files/000/000/030/993/28/10-12hachiojiokurakentayakuaisaichousa.pdf

化粧品の成分について

トリグリセリル $C_{57}H_{110}O_6$	ジイソステリアン酸プロパンジオール $C_{14}H_{27}O_2SO_2H$
合成金雲母 $KMg_3AlSi_3O_{10}(OH)_2$	ヘキサジベンタエリスリチル $C_{29}H_{44}O_8$
タルク $Mg_3Si_2O_5(OH)_4$	トリエチルヘキサノイン $C_{27}H_{50}O_6$
ラウリン酸亜鉛 $C_{18}H_{34}O_2Zn$	結晶セルロース $(C_6H_{10}O_5)_n$
ジメチコン $(C_7H_{14}OSi)_n$	メタクリル酸メチルクロスポリマー $C_5H_8O_2$
チトラ $Si(CH_3)_4$	酸化チタン O_2Ti
リンゴ酸ジイソステアリル $C_{36}H_{74}O_8$	

焼却した場合、大量の**二酸化炭素**が排出される

誰が分別を行うのか？

工作教室の参加者

↓

参加者が分別を行うメリット

- ①化粧品を使い残してしまうという現状を知ることが可能
- ②化粧品の分別方法を知ることが可能

49

中高生を対象にすることは本当に有効なのか？

校内での
化粧禁止

↓

使用頻度 **低**

化粧品の
酸化

↓

使用期限 **短**




八王子市の
中高生

有効である！


50

児童館が工作教室を開催するメリットはあるのか？



児童館を利用する
中高生を増やしたい

若いうちからリサイクル・リユース
の意識を持つことは**重要**



51

材料費

キャンドル(1個) : 216円	ワックスバー(1個) : 648円
ろうそく2本 (12本入り : 108円) びん1個 (1個 : 108円)	ろうそく2本 (12本入り : 108円) 造花適量 (3種類程度 : 108×3円) アロマオイル適量 (108円) 型1個 (3個入り : 108円)
紙すき(1枚) : 500円	絵具(画用紙1枚分) : 458円
200ml牛乳パック1枚 : 無料 紙すきセット : 約500円	溶剤適量 : 約350円 画用紙1枚 (21枚入り : 108円)

審査委員のコメント 講評

公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 主任研究員 澤岡詩野氏

皆さま、今日はお疲れさまでした。私も、高齢期のまちづくりということで地域に関わらせていただく中で、今日はいろいろと皆さんに教えていただくことの方が長い時間でした。地域というのは、常に姿を変えていく”生モノ”です。そして、地域づくり、まちづくり、というのは、どんどん積み上げていく難しさがあると思います。今回、発表いただいた方々は、まだ始めたばかり、あるいは、3年目といろいろな時間軸でやっても、今日この場で発表するにあたり、今、何が分かったのか、どんなことが起きているのか、ということ表現するのは結構大変だったのではないかと思います。でもそれぞれが素晴らしい発表をされたと今感じています。

いずれの発表も素晴らしかった中から、女性視点でメイクをやっていたいただいた発表に対して一言コメントを述べさせていただきます。

化粧品、アイシャドウをたった8個、何トン、というような削減された量だけをみると非常に少ないです。化粧品を使う女性であれば分かると思いますが、アイシャドウ1個使うのに結構時間がかかります。普段から化粧品を使う方を想像してみますと、恐らく、リサイクルのようなカット資源の削減にあまり関心を持たない人たち。そこに対して、リサイクルって大事ですよ、もったいないの精神が大事ですよ、という啓蒙をしていく。そういうところが、すごく素晴らしい切り口だと感じています。

そこで、もったいないという気持ちを地域全体に広げていくために、全ての世代を対象にし、回収ボックスを学内だけでなく、スポーツクラブ、コンビニといった女性が立ち寄りやすい場所に設置する。それが、地元の中高生のもったいない精神を育てることにもつながる、という動機付けもしっかりして回収箱を置いていく。そういったことをすると、地域全体に良いリサイクルが生まれてくるのかなと感じました。貴重なご報告をどうもありがとうございました。

No.2

実践女子大学 須賀ゼミナール

奨励賞

ローカルメディアの可能性の探求

学生に人気の高いまちづくりをねらいとするライフスタイルマガジン



メンバー 岩田明日香 太田亜紀乃 長橋彩花 萩原悠 星野有香 松前友希代 山口祐
指導教員 須賀由紀子

発表概要

私たち実践女子大学須賀ゼミナールでは、日頃、日野市でさまざまな地域活動に参加しており、日野市の魅力を感じています。しかし、ほとんどの学生は、日野市のことを何も知らずに、卒業後、離れてしまう現状があります。そこで、女子大生視点の「おしゃれ感」要素をもとに学生自ら取材・編集・発行を行う「学生ライフスタイルマガジン」を提案し、日野市に住む・通う学生に地域の魅力を知ってもらい、そのまま住み続けたいくなるようなまちづくりに繋げ、地域活性化を図ろうと考えました。マガジンのコンセプトは、「学生と地域」のつながりだけでなく、地域に出るきっかけづくりとして「学生同士のコミュニティ」をつくることにも重点をおきました。マガジン内容としては、日野のスポットやイベント、日野にいる魅力的な人を学生インタビューで紹介する、家でも学校(職場)でもないサードプレイス(第3の居場所)の紹介などを盛り込みます。アナログな「紙媒体」での配布もこだわりのひとつで、デジタルにはないあたたかみや質感の表現ができるというところに注目しました。また、感性を重視する写真中心のSNSサービス【Instagram】をツールとして使い、編集作業の様子や活動日記として発信していくことも特徴の一つです。

活動の目的

この活動の目的は以下の3点になります。

①日頃の日野市での地域活動をよりよい形で広める

大学が立地する日野市では、さまざまな地域活動が積極的に行われています。地域活動に参加してみると、地域の方々をはじめ魅力的な人との出会いや、この日野市について知ることが出来ます。地域活動に参加することの魅力や、よりよい形で広めるプロジェクトにしたいと考えました。

②デジタルメディアの時代に「紙媒体の価値」を自分たち世代の視点で捉えなおす

デジタルメディアの時代で過ごしてきた自分たち世代の視点で、アナログメディアである「紙媒体」の価値について捉えなおすことによって、新たな価値創造につなげたいと考えました。

③今の学生が実は求めたいと思っているライフスタイルを考えて提示して、学生のコミュニティづくりに活かす

学生が求めるライフスタイル像を、日野の地域資源と組み合わせ、「日野ならではの学生ライフスタイル」をマガジンで提案します。その活動の中で、学生にとってのサードプレイス(コミュニティ)づくりにつなげたいと考えました。

活動の内容・様子

ゼミメンバー全員の時間調整が難しい中、空き時間や放課後の時間帯を利用して活動を行いました。マガジンのコンセプト、どのように活用していくのか(コミュニケーションツールとしてのデザイン)、マガジンのデザインなどについて頻繁に話し合いを行い、試作品を制作しました。試作品は、女子大生ならではの「おしゃれ感」について、データをもとに構成要素を検討し、その結果を踏まえて、おしゃれ感覚を意識して制作しました。試作品完成後は、実際に在學生に読んでもらい、アンケート調査を行いました。活動をすすめる中で、試作品としてつくった地域マップを市民の方に見ていただいて意見をもらったり、日野市役所の方とも頻繁に打ち合わせを行い

ました。



話し合いは、付箋を用いて、意見をたくさん出し合い、アイデアなどを整理する方法で行いました



日野市役所の地域協働課、企画経営課の方との打ち合わせの様子

活動の成果

この活動を通して、日野市の方と一緒に活動を進めることで、地域の方と交流する機会になり、日野市という地域の良さを肌で感じることができました。またこの地域の新しい一面を知るきっかけになりました。実際に在学生に試作品をよんでもらい取ったアンケートの中で、「実際において欲しい!」「もっと地域のことについて、いろいろ知りたくなった!」などの意見をもらうことができ、ターゲットとした学生に、自分たちの取り組みの価値を理解してもらうことができました。

このマガジンは、「見る側」(読者)と「作る側」(制作サイド)の両方の立場にとって、「地域を知る」「地域に出るきっかけ」になるという効果があることを実感しました。また、「作る側」にとっては、誰でも気軽に参加できる編集会議は、学内でのコミュニケーションの場の1つになりました。

(作成した試作マガジンのページから)



参考文献

- [1] 日野市「まち・ひと・しごと創生総合戦略」
- [2] 地域かわら版（平成26～28年度版）
- [3] 『ローカルメディアのつくりかた 人と地域をつなぐ編集・デザイン・流通』（学芸出版社）著：影山裕樹（2016/6/1発行）
- [4] 『The Great Good Place: Cafes, Coffee Shops, Bookstores, Bars, Hair Salons, and Other Hangouts at the Heart of a Community』著：Ray Oldenburg（1999/8/18）

担当教員まとめ

日頃、学生たちが日野市の地域活動に参加させていただいており、その中で感じるこの地域の暮らしの良さ、人々の温かさを発信していくことから、「住み続けたくなるまちづくり」につなげようと、取り組みを始めました。活動の中で、日野市の地域情報を集めて整理をして地域を見つめる視点を得たり、市民や役所の方々、また地域の民間企業の方からアドバイスをいただく機会をたくさん得て、本当に学生たちにはよい学びとなったと思います。発表までのプロセスの中では、意見調整や時間調整、仕事分担、情報共有の難しさなどに何度も直面し、一つのことをやり遂げていくことの大変さを経験しました。しかし、自分たちならではのものを形にしたいと粘り強く乗り越え、本選で発表できたことは、学生たちにとっても大きな自信になったと思います。身近なモノを見る目、本当に必要な情報とはなにか、紙媒体の力とは何か、今本当に必要なコミュニティとは何か、数々のことを話し合いました。他大学の取り組みの中からもたくさんの刺激を得ました。学生たち一人ひとりが、今、このコンペに出場したことの意味を深めています。今の時代、自分の心の拠り所となる「何か」をローカルな場の中で見つけていくことは、大切な仕事だと思います。発表して終わりにとどまらず、この取り組みから、一人ひとりが、また新たな芽を紡いでいく礎にしてほしいと思っています。

1

ローカルメディアの 可能性の探究

東海女子大学生活科学部現代生活学科 演習ゼミナール
岩田明日香 太田亜紀乃 長橋彩花 萩原悠 星野有香 松前友希代 山口晴夏

2

1.はじめに

私たちは、地域活動を通して
「日野市にはいいところがたくさんある！」ことを実感。

- ・水と緑の豊かな自然
- ・都市農
- ・こだわりのお店
- ・活発な町会活動 など…

→過ごしやすい多くの魅力がある！

3

しかし！
ほとんどの学生は、
日野のことを何も知らないまま卒業して離れてしまう…

↓

(若い女性が住み続ければ、人口減少にはならないはず...！)

「住み続けたい」と思う学生を
増やすところから地域活性化へつなぐ

4

2.提案

学生「ライフスタイルマガジン」



5

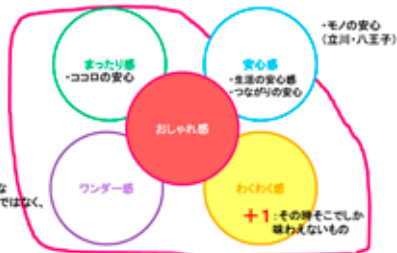
3.イメージ

日野ならではのライフスタイル × 女子大生の感性

若い人を呼び込み、そのまま住み続けたいくなる
まちづくりに繋げる

6

★求めたいライフスタイル・コンセプト
「フチしあわせな日常」+1<プラス・ワン>




女子大生のライフスタイルコンセプトの構成図

7

調査① 女子大生のおしゃれ要素について

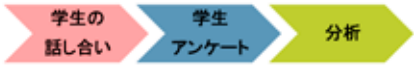
・今の女子大生が思うおしゃれ要素をアンケート調査！



- ①気分があがる
- ②見た目の美しさ
- ③非日常
- ④適度なこだわり
- ⑤質感
- ⑥逆に‘おしゃれ’
- ⑦個性的
- ⑧清潔感

8

4. マガジン作成において
～現状と問題点～




9

学生の話し合い＝編集会議

【マガジンコンセプト】
学生×地域

しかし、
大学内のつながりが少ない...

=地域活動に出るきっかけがない！



10

縦のつながり

- ・先輩、後輩
- ・サークルに所属していないと、つながりがない。

↓

・地域のつながり

以前の現代の若者の根本問題

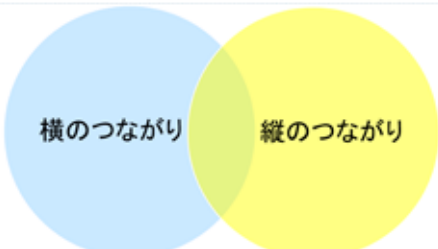
↑

横のつながり

- ・他学科とのつながりもあまりない。

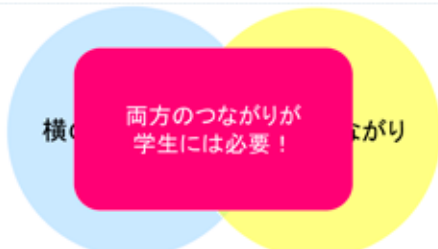
11

学生のアイデンティティ形成



12

学生のアイデンティティ形成




13

つながりは、自分から踏み出さないといけない
けれど…

きっかけがない

▶ 学生たちは放課後は、日野で過ごすことがない。



14

「学生の生活状況」調査アンケート

一人暮らしである

いいえ	はい
56%	44%

さみしきを感じることはあるか

いいえ	はい
39%	61%

【分析】
現代の若者が抱える“孤”の問題なのでは？

15

5.マガジンのねらい

このマガジんで

- ・学生自身のコミュニティをつくる
- ・アイデンティティを形成する
- ・学生と地域をつなげる



↓

日野での学生ライフスタイルづくりを目指す

16

5.マガジンのねらい

日野での学生ライフスタイルづくりを目指す

↓

日野のまちを家族のような場に
日野への愛着

↓

**日野を
将来暮らす選択肢の一つに**

17

6.①マガジンコンセプト

学生が、
実際に街にでかけたくなる！

～Experience Design～
体感誘発型マガジン

18

6.②マガジントイトル

J HOME

J jissen・女子
H hino
O oshare(オシャレ)
M me(私:それぞれのMを ...meet mate moment など)
E experience(経験)

19

6.②マガジン概要



冊子名	JHOME(ジホーム)
発行頻度	季刊(3か月に1冊)
ページ数	カラー、20ページ前後
サイズ	A5
編集	学生(JJ Labo)
協力	日野市役所、地元住民の方々、学生
ターゲット	実践女子大生(学生)
制作方法	定期的に編集会議を行い、制作をする。

20

6.マガジン内容：コーナー



- ①特集
- ②スポット紹介
- ③マップ:ヒノブラリ
- ④人紹介:ヒノノアノヒ。
- ⑤季節のレシピ
- ⑥サードプレイス紹介(交流型・マイプレイス型)
- ⑦季節の風景写真:Insta JJ
- ⑧イベントカレンダー
- ⑨生活情報
- ⑩クーポン

21

表紙



・写真をメインにした表紙

22

目次



・タイトルの意味
・見開き:日野の風景(日野百景)

23

特集



・編集部のご紹介 (JJ Labo)
★特集内容は、テーマに基づいて制作。

24

スポット紹介



・コンセプトに合ったスポットを紹介

25

マップ




情報収集&協働
 ★地域の方々
 ★日野市役所

取材
 ★学生
 (★地域の方)

26

【人紹介】ヒノノアノヒト



・地域のロコミなどで、有名な人や、日野に暮らす学生にインタビュー
 ・日野にいる、魅力的な人を紹介する。

27

レシピ【愛の白衣】



・日野市の食材を使った季節の料理のレシピを紹介
 ・協力:地域の方々 (ex:日野菜ママ、農家の方 etc...)
 ・実際に学生が作った様子なども掲載

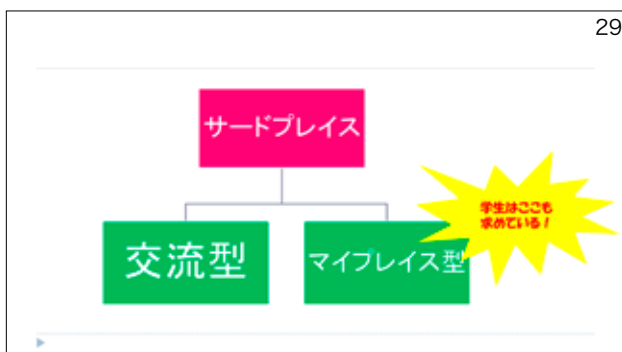
28

The Great Good Place 【私のサードプレイス】

サードプレイス
 ...家でも、学校(職場)でもない、「第3の自分の居場所」

【特徴】
 「無料または安価で利用できる」
 「飲食が可能」
 「アクセスがしやすい(徒歩圏内)」
 「常連が集まる」
 「快適で居心地がよい」
 「古い友人と新しい友人の両方に出会える」

【参考資料】1999年『The Great Good Place』(著)米国の社会学者レイ・オルデンバーグ



30

The Great Good Place



・交流型、マイプレイス型の両方を紹介

31

季節の風景写真【Insta JJ】



- ★四季折々の風景
- ★ついでにInstagramに載せたいような日野市のスポット紹介
- ★気軽に行ける範囲を紹介

32

イベントカレンダー



- ★協力: 日野市役所、地域の方、日野市観光協会 など
- ・市のイベント情報の中で、学生に興味を持ってもらえるような行事をピックアップし、カレンダーで開催日を紹介。
- ・特に紹介したいイベント特集を掲載。

33

生活情報【Information】



・住民や、日野に住む学生の口コミによる信頼ある情報を提供する。

34

クーポン



★学生にとって、クーポンは魅力的
→地域の中に、学生が実際に使えるモチベーションとしてつける。


★QRコードから、クーポンアプリに飛ばすようにする。
★クーポンアプリ…マクドナルドのようなクーポンアプリ

- ・クーポン
- ・マガジンで紹介したお店の情報
- ・検索機能


35

7.効果の見通し①学生アンケート【マガジンについて】

日野についてもっと知りたいことはありますか (アンケート)



マガジンをとりたいと思いますか



36

7.効果の見通し①【見る側】

【頂いたご感想】

- ・同じ年代の大学生が作ったということで、読みやすい。
- ・女子大生らしい紹介の仕方がよかった。
- ・手書き感により、一生懸命つくった気持ちが伝わる。
- ・日野の知らないオシャレなところが意外とあって、行ってみたいと思った！
- ・クーポンがついているので、行く気になる！
- ・実際に歩いてほしい。(学内でも)
- ・日野のことを知るために、とても役に立ちそう！
- ・もっとこの地域のことを知ってみたい！ etc...

マガジンの需要はある！

37

7.効果の見通し②【作る側】

- ・編集会議の場が、学内でのコミュニケーションの場の1つになる。
- ・取材など自分たちですることにより、地域の方と交流する機会になる。
- ・改めて、日野市という地域の良さを肌で感じることができる。
- ・日野の新たな一面が知ることができる。



38

編集会議



- ・気軽な雰囲気
- ・気軽に誰でも参加しやすい
- ・【定期的】におこなう
- ・参加することで、学生にとって、地域情報や、学生ならではの **口コミ** が出てくる。

★このマガジン特有の情報になり、みる側にとっても、生きた情報になる。

39

期待できる効果

みる側

- ・同じ学生目線での情報が手に入る。
- ・実際にまちに出かけるきっかけになる。

つくる側

- ・気軽に参加できる編集会議がコミュニケーションの場となる。
- ・【マガジンをつくること】が日野を知ることになる！

“コミュニケーション” につながる

40

8.紙媒体の価値

- ★掲載できる情報の尺が決まっている。
- ・決まった尺のなかで、どのような情報を載せるのか編集作業を通して、コミュニケーションがとれる。
- ・情報に＜地域性＞＜限定性＞を持たせやすい。

★手に取って伝わる、“モノの強さ”



41

9.SNSの活用

Instagram



【選んだ理由】
★写真がメイン
★(写真=感性) **感性を伝えるメディア**
感性情報、イメージ情報を伝える

文字より、共感しやすい → **オシャレを伝えるのに最適**

★発信する内容

- ・編集のリアルな様子
- ・JJLaboの活動日記
- ・マガジンの最新情報
- ・インタビューの様子

42

10.SNS × マガジン


×


おしゃれを伝えるのに最適なツール 【今の私】

マガジンによって発生の日野のおしゃれ 【求めたい私の場】

日野の暮らし

➡ 【自分の居場所】が見えてくる・きっかけがつかめる
→ さびしさが解消される

11. 今後の展望 43

継続性

①継続性: 実践女子大学で継続させていく
→【JJ Labo】を通して、地域活動に関心のある学生を創りだしていく

②地域の方々を巻き込む
・【まち歩きプランニング】などの地域活動で、共にまちについて調査する。
・日野市内のお店との連携
・若いお母さん方、新住民の方々

③のちに、日野地域の他大学生も巻き込む

11. 今後の展望 44

【連携団体】

- ・日野市役所 を中心に、各種関連団体
- ・日野市で地域活動を行う方々

11. 今後の展望 45

配布場所

- ・実践女子大学内
- ・学生寮、学生マンション
- ・駅
- ・紹介した店舗内
- ・連携団体の拠点場所 etc...

11. 今後の展望 46

まとめ

- ローカルの特徴
 - ・個人と社会の距離感が近い
 - ・素でいられる(ありのままでいられる)→無理をしない
- 紙媒体の特徴
 - ・情報の信頼性
 - ・手でさわれるもの→作り手思い→読者も直接感じることができる。
 - ・できるまで時間がかかる=過程の共有
 - ・まとまった情報/一覧性がある
 - ・「めくる」動作
- インスタの特徴
 - ・感性を伝えるメディア。
 - ・オシャレを伝えるのに最適。

11. 今後の展望 47

参考文献

- ・ローカルメディアのつくりかた 人と地域をつなぐ編集・デザイン・流通 (学芸出版社) 著: 影山裕樹 (2016/6/1発行)
- ・『The Great Good Place: Cafes, Coffee Shops, Bookstores, Bars, Hair Salons, and Other Hangouts at the Heart of a Community』 著: Ray Oldenburg (1999/8/18)
- ・ローカル雑誌各種

11. 今後の展望 48

ご清聴ありがとうございました!

審査委員からのコメント 講評

三菱地所株式会社 開発推進部 新機能開発室長 井上 成氏

そのエリアの持っている課題、もしくは日本の、あるいは東京の、でも良いですが、その課題に対してのソリューションとして、こんな良い解決策がある。というのが、やはり、その内容の説得力になっているのだろうというところなので、課題の認識と、それに対する対策といった相互関係、因果関係がきちんと説明できているかどうか、というところを基準にいろいろ聞かせてもらいました。

実践女子大学のローカルメディアの発表についてのコメントですが、ローカルメディアということで、地域のブランディングと頭で聞いていました。実際にやろうとしていることは、特に地方から大学へ来て、まだつながりが薄い人たちをどう巻き込んで地域に根付かせるか。そういう意味で、ローカルメディアの可能性としてはブランディングではなく、コミュニティ作りという結論になり、最初の打ち出しと最後の結論の因果関係が少しずれていると思いました。けれども、その中で、サードプレイスの中での新しい交流、マイプレイス型サードプレイス、新しい価値観なりコンセプトを出しているところは非常に面白い。目の付けどころが良いと思いました。

プレゼンは全体で流れるようなストーリーがないと、相手に説得力が出ないが、そういう光るアイデアがいろいろ散りばめられていて非常に面白く聞かせていただきました。ぜひ実現に向けて頑張ってくださいと思います。

No.5

帝京大学 湯川ゼミナール1班
奨励賞

小学生も大学生も学ぶ 「たまっ子塾」開講！！

～教育で魅力のあるまちに～



メンバー 中花祐斗 荒木育弥 荒井虹輝 小島由佳 五十嵐亮太 秋葉拳志郎 岡部峻介
北澤和也 佐和田えりな 山辺雄斗 佐野豪 黒岩拓磨 霜崎大地

指導教員 湯川志保

発表概要

少子化の要因の一つとして、子育ての費用の高さが指摘されており、また、低所得者ほど教育費の負担が大きいことが明らかになっている。その中で、多摩地域の平均年収は、23区の平均年収と比較して大幅に低く、上述した問題が懸念される。そこで、多摩地域の大学で教員を目指す学生を講師とした無償塾を開設し、子どもに対する学習支援を行うことで、子育て費用の軽減を実現化する。この塾を開設することで、少子化の要因のひとつである子育て費用問題を解決し、たくさん子どもたちが住む元気なまち多摩をつくる。

塾の開設によって、学びを希望する子どもに広く教育の機会を提供することが可能となり、多摩地域全体の学力向上が期待できる。また、このような取り組みが子どもたちの学力向上等を通じて社会に認知されることで、多摩地域が教育に強く取り組むまちであることをアピールすることができ、多摩地域に既に住んでいる子育て世帯の定着や別の地域に住んでいる子育て世帯の移住も期待できる。さらに、教員を目指す若者がこのような取り組みに興味を持つことで、多摩地域の大学に進学する意欲を持つことが想定され、このことが人口の増加に繋がる。

活動の目的

上述したことから多摩地域の大学に通う大学生が講師を勤め、小学生に勉強を教えることで地域の学力が向上するだけでなく、大学生講師にとっても実践をつめる良い機会となる。さらに、この活動に興味をもった大学生が多摩地域に増えるとともに、この取り組みを通じて、教育に強いまちとしてアピールできれば地域の人口が増えると考えられる。

活動の内容・様子

当日に突然来れなくなった生徒も数人いたが、最終的に講師3人、生徒6人で第一回たまっ子塾を開催した。

塾の開始直後は、生徒達も緊張している様子だったが、アイスブレイクやレクリエーションを通じて、徐々に緊張もほぐれていき、生徒と講師の距離も近くなることで、教えやすい雰囲気を作ることができた。その後に行った自習では、全員が集中して取り組んでおり生徒、講師ともに有意義な時間となった。

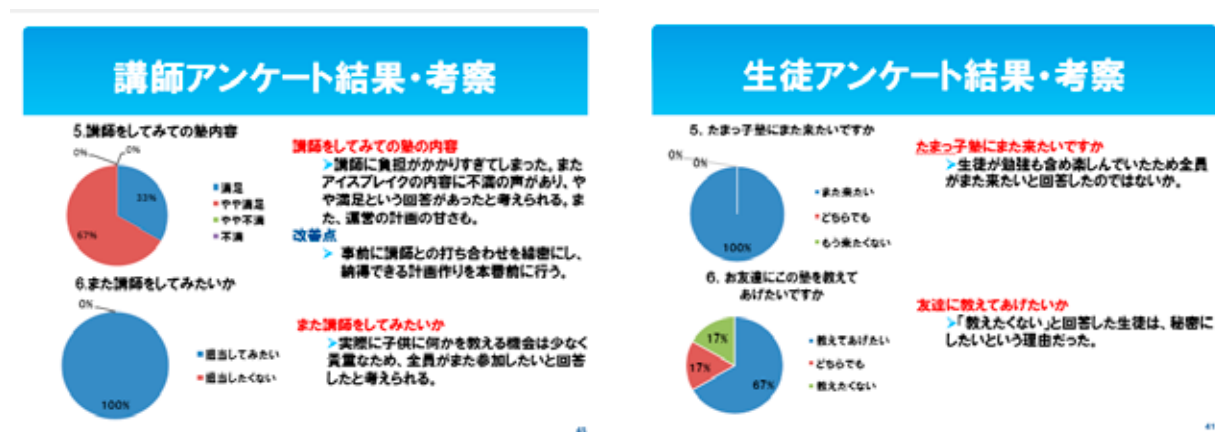


実際の塾の様子を写した写真

活動の成果

今回の第一回たまっ子塾開催後に、次回以降の活動に生かすために生徒や保護者、講師の方に塾に関するアンケートをとらせて頂いた。

生徒と保護者のアンケートでは、今回初めての試みという事もあり講師の教え方に対して多少の不満の声があがったものの、「塾が楽しかったか・また参加したいか」という質問項目に対しては、ほとんどの方から「楽しかった。是非次回も参加したい」等の回答を頂く事ができ、次回以降の塾の開催にも需要がある事を確認することができた。また、これらの回答から、この企画を継続的に続けていくことで地域の活性化に繋がるという確信を得る事が出来た。さらに、講師の方へのアンケートから、アイスブレイクやレクリエーションの時間の調整の必要性や講師への負担がかかりすぎてしまった部分があったことが明らかになるなど、次回に向けての改善点が確認できた。これらの点については、今後の塾開催時に活かしていきたい。



1

小学生も大学生も学ぶ 「たまっ子塾」開講！

～教育で魅力のあるまちに～

帝京大学湯川ゼミナール

- ・秋葉肇志郎
- ・菅木育弥
- ・岡部雄介
- ・小島由佳
- ・佐和田えりな
- ・山辺雄斗
- ・荒井虹輝
- ・五十嵐高太
- ・北澤和也
- ・佐野豪
- ・中花祐斗

2

2

目次

1. 本テーマに至った経緯
2. 現状分析
3. たまっ子塾の企画・開催
4. 塾後のアンケート結果・考察
5. 今後の活動・追加、改善点

3

3

1. 本テーマに至った経緯

4

4

本テーマに至った経緯

テーマ: **人口減少**する多摩の「**元気**」なまちづくり

「人口減少」→少子化 「元気」→子ども

子どもが溢れるまちで多摩を元気に！

5

5

本テーマに至った経緯

高学歴化の進行で教育の重要性は高まり、
教育にかかる費用は**増加**
⇒家計にとって**大きな負担**になっている

そこで…

「学園都市」である多摩地域の大学生が子どもたちに**貢献**できることはないか

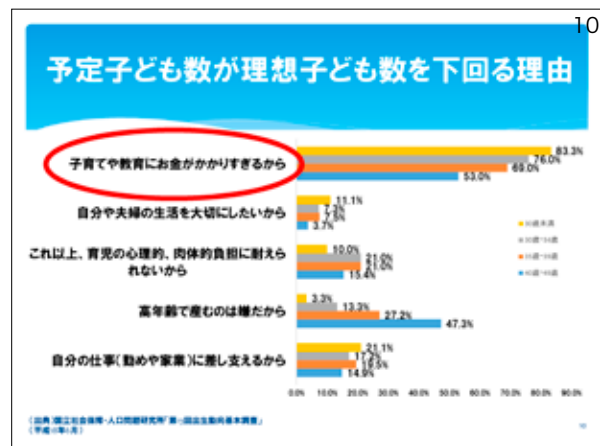
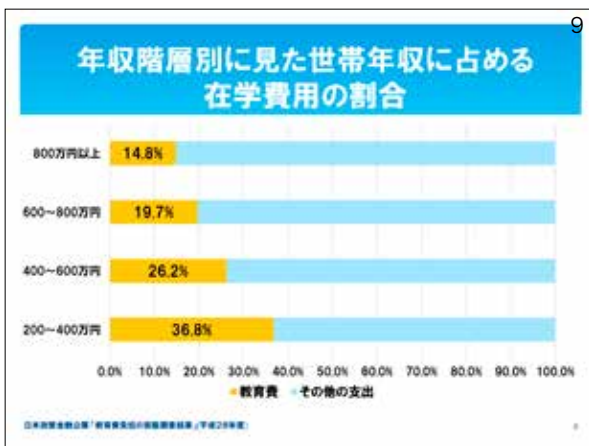
➡ **教育に焦点を当てた**

6

6

2. 現状分析

7





14 以上のことから…

- 年収が低い世帯の**教育費の負担**が大きい
- 保護者は子育ての**経済的負担**が重荷になっている
- 23区内と比較して多摩地域は平均年収、平均学力ともに低い

↓

経済的負担なしで学力向上を図る！

15 『学園都市』多摩だからこそできる取り組み

大学生が講師となり**無償**で子どもたちに勉強を教えればいい！

大学生講師のメリット

- さまざまな子どもたちに教える機会が増え、地域の学力向上にも貢献でき、その意欲が高く評価され、更に積極性も身に付く。
- 先生を目指す大学生が講師をすることで、実践経験を積むことができ、実質や能力を高める事ができる。

地域のメリット

- 教員を目指す学生が多摩に興味を持ち、多摩の大学に入学を希望する生徒が増える。さらに、塾を開講することにより多摩地域の学力アップにも繋がる。
- この取り組みを知った若い子育て世代が多摩へ移住、労働人口や消費が増える。若者が増えることにより今回のテーマである、元気なまちにも繋がる。

16 塾開講で期待できる効果

生徒

学校外の教育機会を提供し学力の向上を図る

教育に強い多摩をアピール

子育て世帯の定着・移住

↓

講師

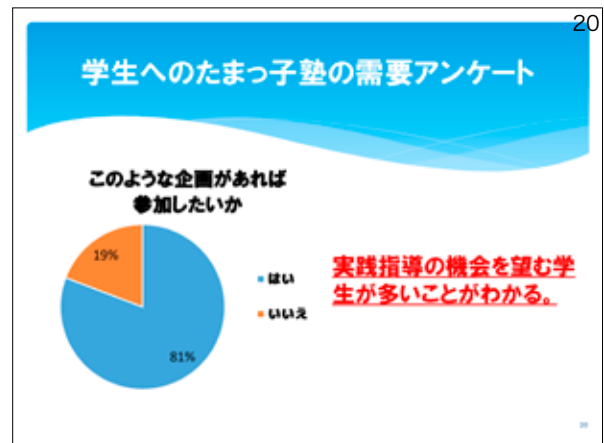
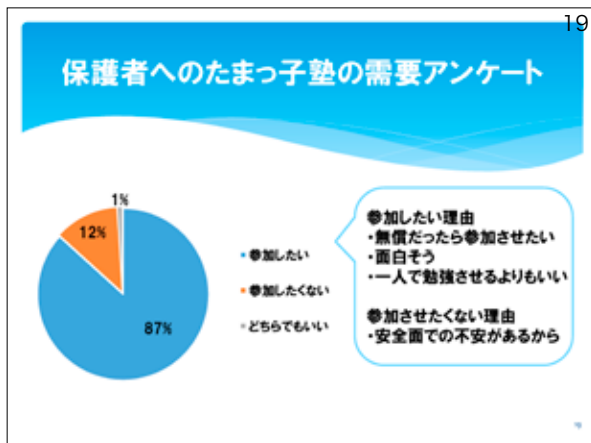
たまっ子塾を長期的に開催する

教員を目指す学生が多摩に興味を持つ

多摩地域の大学に入学を希望する学生の増加

17 3. たまっ子塾の企画・開催

- ### 18 たまっ子塾に需要はあるのか
- ①小学生の保護者への需要アンケート
 - ・街頭アンケート
 - ・聖蹟桜ヶ丘駅、多摩センター駅、京王よみうりランド周辺での街頭調査
 - ②教育学部、教職を取っている学生への需要アンケート



- 21
- ### たまっ子塾を企画するに当たって
- 同じような取り組みを行っている
 - 関戸公民館・寺子屋
 - 彩の国子ども・若者学習支援ネットワーク
 の2つを参考に企画

- 22
- ### この2団体との差別化
- 寺子屋
 - 小学5年生～中学生を対象
 - 彩の国子ども・若者支援ネットワーク
 - 生活保護世帯と生活困窮世帯の中学生を対象
 - たまっ子塾
 - 所得に関係なく多摩地域の全ての小学生全学年を対象とすることで、地域全体の活性化を図る

- 23
- ### 第1回たまっ子塾を企画
- 開講場所：帝京大学ソラティオスクエア
 - 対象年齢：小学生
 - 開講日時：11月26日(土)
 - 開講時間：9:55～11:50
 - 授業内容
 - 子どもたちのやりたい教科の宿題・復習・予習など
 - 教科を絞るとその教科に苦手意識が強い子は塾へ参加し辛いという意見があり、自習形式にした。

- 24
- ### 講師の募集
- 教職センターへ相談
 - 教育学部対象のガイダンス(募プロ)で宣伝(チラシ配布)
 - 友人の協力
 - 教育学部や教職課程を履修している友人に協力してもらった
 - 友人が所属している幼児初等生徒向けのボランティア団体のグループで宣伝をもらった
 - 他大学への講師協力要請
 - 明星大学へ連絡をし、チラシの掲示をしていただけることに

生徒の募集

- 各小学校・児童館へチラシを配布・掲示
- ジモティー(掲示板)での告知
 - チラシだけでは宣伝効果が弱いと感じ、ネット掲示板を利用し、更に多くの保護者の方に情報が伝わるようにした

「たまっ子塾」開講のお知らせ

(小学生向け学習塾)

・宿題が必ずかかっているという子!
 ・授業の復習をしてほしいという子!
 ・学校の勉強が苦手...という子!!!

帝京大学のお姉さんお兄さんが勉強のサポートをします!!

費用は、無料です!!!!!!

開催日: 11/26(土) 対象: 1年生~6年生
 場所: 帝京大学 (教室は別途案内します)
 時間: 10時~11時45分
 人数: 30人(先着順)

※保護者の方の来学も可能です!

●申し込み方法

上記のメールアドレスにて、姓名「たまっ子塾」専用に「**子どもと、お勉強**」を載せて送ってください。

持ち物

算数の本
 算数や数学の
 問題集やドリル
 問題集など
 鉛筆
 消しゴム
 定規
 色鉛筆
 色紙
 など

※お申し込みいただいた方には、お礼の品をご用意しております。

お問い合わせ先: 湯川ゼミナール1班 湯川 幸子 先生
 帝京大学 湯川ゼミナール1班 湯川 幸子 先生

講師・生徒の募集結果

- * 講師... 3人
- * 生徒... 15人

必要な教材の準備

* 教材を忘れた生徒のための問題集作り

ドリル・出来杉君(<http://dorilu.net/>)という小学生のための教材を作成することが出来る無料のサイトを利用。

●九九の表

(1) 2+3= +

(2) 7+3= +

(3) 9+1= +

●九九表の作りかた

(1) 九九表のボールペンで書いてください。1枚の100枚は利用できます。

(2) 九九表のボールペンで書いてください。九九表の作りかたは利用できます。

塾の当日のタイムスケジュール

- 9:55 開会
- 10:00 アイスブレイク(もうじゅう狩り) ※
- 10:15 レクリエーション(穴埋め計算問題)
- 10:40 休憩
- 10:50 自習
- 11:40 アンケート(生徒・保護者対象)
- 11:50 閉会

※アイスブレイクとは
自己紹介を通して相手の名前を知りながら、お互いに距離を近づけるために行うもの。

会場の設営・確保



同じタイプの教室(45人収容できる)を2教室用意
 生徒用と保護者控室として使用



机や教車を端に寄せレクを実施
 生徒15人と教師3人、運営数人が入っても問題ないくらいの広さを確保

当日のタイムスケジュール(運営側)

タイムスケジュール表

時間	内容	場所	出席	進行	進行	進行	進行	進行	進行
9:55	開会(会場集合) 会場集合(会場集合) 会場集合(会場集合) 会場集合(会場集合) 会場集合(会場集合) 会場集合(会場集合) 会場集合(会場集合) 会場集合(会場集合) 会場集合(会場集合) 会場集合(会場集合)								
10:00	アイスブレイク(もうじゅう持り)	会場	生徒	保護者	講師	会場	会場	会場	会場
10:15	レクリエーション(穴埋め計算問題)	会場	生徒	保護者	講師	会場	会場	会場	会場
10:40	休憩	会場	生徒	保護者	講師	会場	会場	会場	会場
10:50	自習	会場	生徒	保護者	講師	会場	会場	会場	会場
11:40	アンケート(生徒・保護者対象)	会場	生徒	保護者	講師	会場	会場	会場	会場
11:50	閉会	会場	生徒	保護者	講師	会場	会場	会場	会場

31

開催日当日

- 開催日当日、参加予定の生徒15名の内、**6名**が参加
- 内容は**15名参加を前提に作っていた**ため、その場で6名向けの内容に変更
- その後は順調に進み無事終了
- 最後に生徒と講師全員での記念撮影

32



33



34



35

当日変更した内容

<p>もともとの計画内容</p> <p>9:55 開会</p> <p>10:00 アイスブレイク(もうじゅう持り)</p> <p>10:15 レクリエーション(穴埋め計算問題)</p> <p>10:40 休憩</p> <p>10:50 自習</p> <p>11:40 アンケート(生徒・保護者対象)</p> <p>11:50 閉会</p>	<p>変更した計画内容</p> <p>10:20 開会</p> <p>10:25 アイスブレイク(フルーツバスケット)</p> <p>10:40 レクリエーション(穴埋め計算問題)</p> <p>10:50 休憩</p> <p>11:00 自習</p> <p>11:40 アンケート(生徒・保護者対象)</p> <p>11:50 閉会</p> <p>最終終了後、記念撮影</p>
---	---

36

4. 塾後のアンケート結果・考察

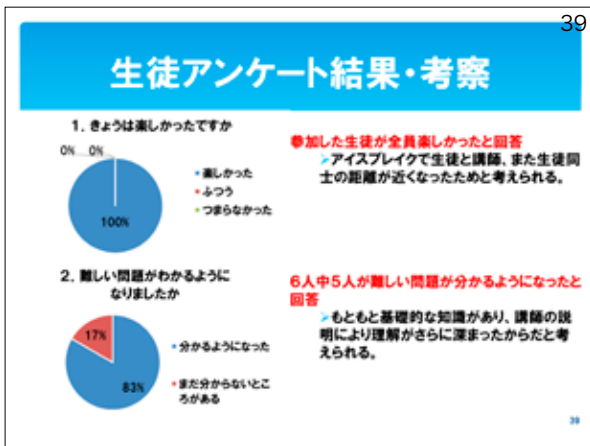
37

生徒アンケート

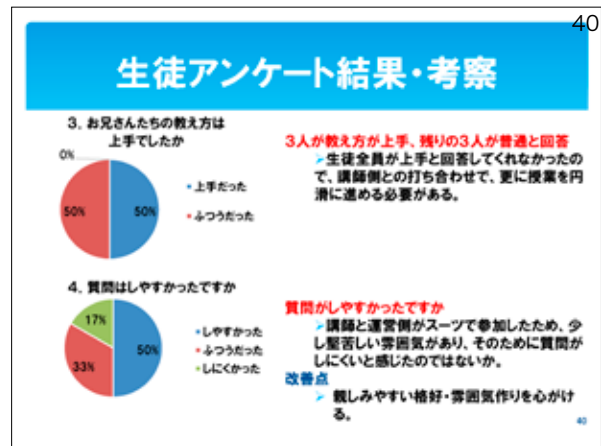
※おねがひまつにマル集めてください。

- きょうは楽しかったですか
《楽しかった・ふつう・つまらなかった》
- 難しい問題が分かるようになりましたか？
《分かるようになった・まだ分からないところがある》
- お父さんたちの教え方は上手でしたか？
《上手だった・ふつうだった・下手じゃなかった》
- お父さんたちに質問はしやすかったですか？
《とてもしやすかった・ふつうだった・しにくかった》
- たまっ子塾にまた来たいですか？
《また来たい・どちらでも・もう来たくない》
- お友達にこの塾を教えてあげたいですか？
《教えてあげたい・どちらでも・教えたくない》

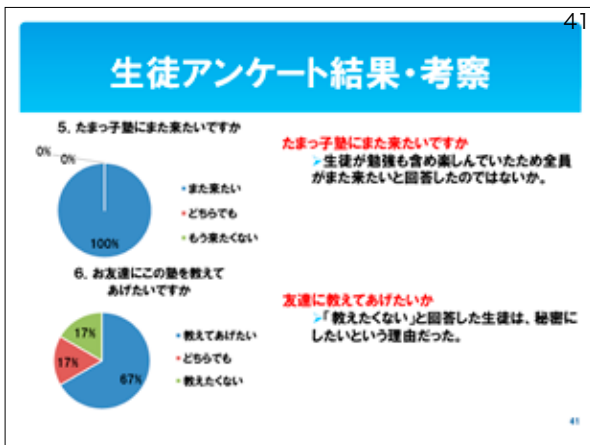
38



39



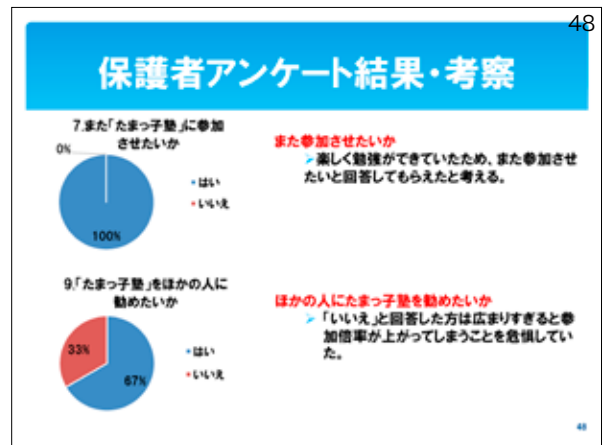
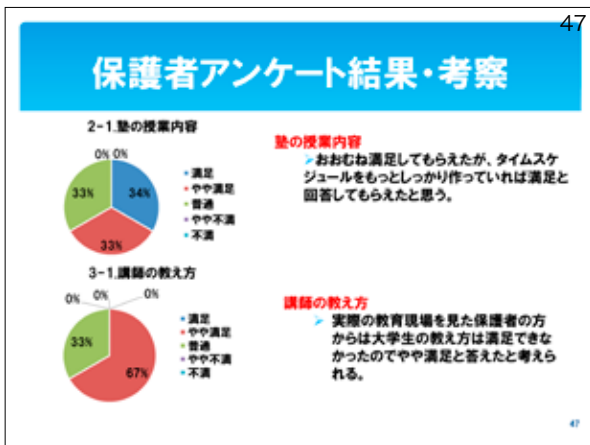
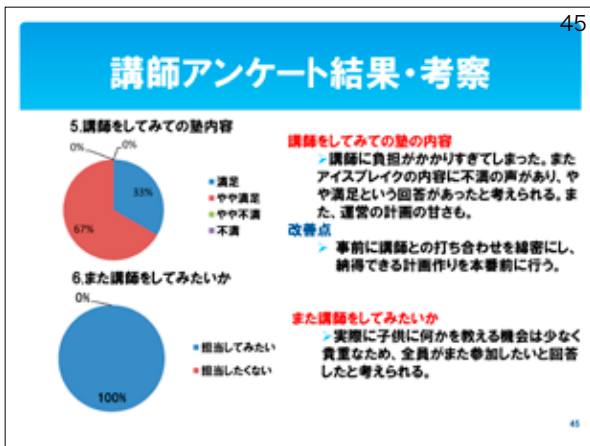
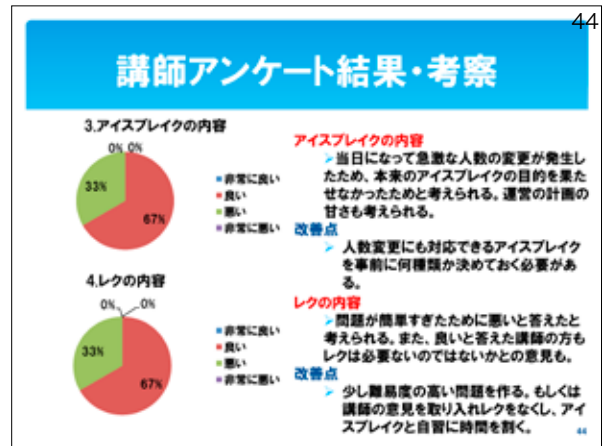
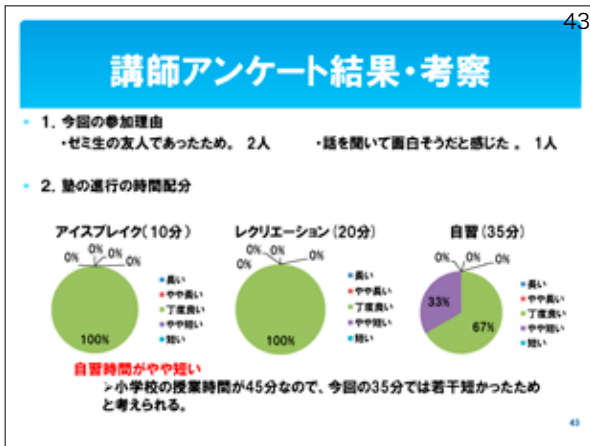
40



41

講師アンケート

42



49

保護者アンケート結果・考察

4. 塾のよかった点(自由記述)

- 楽しかったからよかった。
- 教え方が上手だった。
- 大学生など、年齢があまり離れていない人から教わる方が子どもたちも勉強がしやすいと感じた。

5. 改善した方がいい点(自由記述)

- 車が使えたらありがたい。
- 公共交通機関しか大学へ向かう手段がなく不便だったためだと考えられる

49

50

今回分かった問題点

- **プログラムの問題**
 - ➔ 人数に応じたプログラムを用意する必要がある
 - 今回は人数が少なく、当初の予定にあった「もうじゅうがり」が出来ず、その場の判断で「フルーツバスケット」を行った
- **当日の運営側の役割をもっと明確にする**
 - ➔ 人員配置が適切でなく運営メンバーが見ているだけの時間が発生
 - 今回の結果から、さらに何が必要かを検討することが必要
 - さらに、生徒とのより深いコミュニケーションも必要だと分かった

50

51

今回分かった問題点

- **問題集**
 - ➔ 例題が無かった
 - 生徒によっては分からないという声もあった
- **開催場所の問題**
 - ➔ 今回は帝京大学で実施したため、バスを利用しないと大学に来られず、子供達だけだと行きづらい場所であった。
 - そのため、当日不参加の生徒が多かったと予想

51

52

5. 今後の活動・追加、改善点

52

53

授業内容の改善

- **生徒2人に対して先生1人が担当**
 - ➔ 2人くらいの対応が、勉強を教えるのに適していると講師側からの意見
- **運営側も生徒とコミュニケーションを取る**
 - ➔ 生徒とより親しくなることで当日のスムーズな進行に繋がる
- **問題集**
 - ➔ 例題付きの問題集を購入、または作成
- **塾の指導内容の向上**
 - ➔ 教科を絞った個別指導へ
 - 講師・生徒の登録人数が増え次第、生徒の苦手科目や要望に絞った指導ができるようにする。

53

54

各施設への協力申請

- **多摩市・八王子市・日野市の各教育委員会へ後援申請中**
 - 小学校や児童館への話がスムーズに進む事に加え、保護者の方も安心できる
- **明星大学への協力をお願い**
 - チラシの配布、掲示をさせてもらい、教師の確保に協力してもらっている

54

55

その他改善点

- **今後起こり得る予想外の事態に対して**
 - 今回の事を教訓に、当日予想をしていなかった事態にも対応できるようにマニュアルを作成する
- **後章への引き継ぎ資料の作成**
 - 本テーマは継続した活動を考えており、来年度のゼミ生がこの内容を引き継ぐことになったため、運営に必要な資料を作成しこの研究を引き継ぐ
- **開催する場所**
 - 小学校や児童館など、生徒が一人でも気軽に来られる場所や、保護者が生徒の送迎を行うために駐車場がある場所が好ましい

56

今後塾の継続性

- 大学内の教職センターとの連携
 - その後は、明星大学との連携も視野に活動
- 大学内でのチラシの掲示・配布
- 大学内のボランティアサークル「初等教育研究会どんぐり」と講師募集の連携
- 児童館・各小学校でのチラシの掲示・配布

57

Googleフォームの作成

- **今後、教師・生徒の登録はGoogleフォームを利用**

生徒用	講師用	記入事項は以下の通り
		1. 氏名
		2. ふりがな
		3. メールアドレス
		4. 電話番号(任意)
		5. 在籍している学校名
		6. 学年
		7. 指導したい科目(教わりたい科目)
		8. アンケート結果の利用許可
		9. ご意見・ご要望

生徒登録用URL
<https://goo.gl/forms/2rXgrwRohowU3d922>

講師登録用URL
<https://goo.gl/forms/L6iH8a03K4oJn2t2>

58

第2回「たまっ子塾」の計画

- 2月1日にもぐさだい児童館にて、**第2回たまっ子塾の開催を予定**
 - 児童館にはすでに了承を得ている。
 - 生徒の募集の協力をもぐさだい児童館にお願いする。
 - 講師の募集については、帝京大学のボランティアサークル、教職センターへの協力をお願いする。
 - 第1回で見えてきた課題も一つ一つ解決していく。

講師や生徒にとって最適な環境を作れるように尽力中!

59

2回目へ向けて、具体的な取り組み

- **無償塾を運営するためのノウハウを学ぶ**
 - 八王子つばめ塾へ、講師・生徒募集や安全面などについてご教示頂いた
- **帝京大学内での新規団体を設立**
 - 運営委員会として団体の設立を申請
 - 来年の1月に結果発表
- **開催予定のもぐさだい児童館との打ち合わせ**
 - 教室の確認や生徒の募集について調整中
- **明星大学との企画連携を考えている**
 - 現在はチラシの設置だけにとどまっているが、同じ取組をしてもらえないか明星大学の教職センター等にお伺いし、動き始めている。
 - 今後、多摩地域の各大学で塾をサポートしてもらう事を目指し、多摩地域の活性化を図りたい

60

今回ご協力いただいた施設・団体の方々

- 関戸公民館
- もぐさだい児童館
- NPO法人 八王子つばめ塾
- 八王子市立由木東小学校
- 八王子市立松が谷小学校
- 多摩市立多摩第二小学校
- 日野市立夢が丘小学校
- 帝京大学キッズスクール
- 帝京大学 教職センター
- 帝京大学 企画グループ
- 明星大学

誠にありがとうございました。(順不同)



審査委員のコメント 講評

明星大学 総合理工学部 教授 西浦定継氏

予選の時には、これは啓蒙するのか、ビジネスモデルとして提示しているのか、誰に向かってプレゼンしているのか、よく分からない。というような非常にきついコメントをしたと思います。今日は、相当改善し、練習してきた、非常にすっきりしたプレゼンで良かったと思います。さすがに考えてきたなというのが多かったと思います。

教育って本当に大事で、学生ができることを身の回りで始めていく。非常に良いことだと思います。明星大学でもいろいろなサークルがあり、多摩地域にはいくつも大学がありますから、その横の連携をずっと広げてくれば、もっと広がるではないかと思います。他のプレゼンでありましたように、武蔵野美術大学と連携したように。ですから、ネットワークを広げて、周りの使えるものを何でも使って、自分たちの目的を達成しよう、という気持ちでやっていると良いと思います。こんなにリソースがありますから。そういう意味では、教育というキーワードで連携を深めてやってくれれば良いかなと。非常に良かったと思います。

多摩の学生まちづくりコンペティション2016 報告書

発行日 2017年1月31日

助 成 平成28年度地方創生に向けて“がんばる地域”応援事業（一般財団法人地域活性化センター）

発行所 公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩

〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1 明星大学20号館 6階

TEL 042-591-8540 FAX 042-591-8831

E-mail office@nw-tama.jp